

47号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

47号横穴墓は北支群南端に位置し、ほぼ南西に開口する横穴墓である。斜面の上方、標高32m付近にあり主軸をN-56.5°-Eにとる。調査前は墓道が完全に埋没しており、地表での確認はできなかった。調査開始時(1982年)には玄室が道路下にあったために墓道部のみの調査を行い、1984年の道路撤去後に改めて羨道部~玄室の調査を実施した。

2. 規模、構造

1) 墓道、羨門部

a) 規模、構造 墓道は全長6.45m、幅は羨門付近で上部2.85m、底部1.07mを測る。墓道床面は平らであり、羨門に向かって約6°の傾斜で上る。床面は墓道入口から約1.5mの位置まですぼまり、その後約4mの位置まで幅0.6m前後となり、さらに羨門部に向かってゆるく広がる。墓道奥壁部は約70°の傾斜で、側壁は60~70°の傾斜である。奥壁部の高さは約2.4mを測る。

羨門入口部分は崩壊のため保存状態は悪い。羨門部分は両袖を削り出し状に残し、二重の門構え風となっている。両袖部は幅約10cm、長さ約50cmであり、上部が崩落しているため高さは不明である。羨門は幅0.68cmであり、高さは不明である。

閉塞施設は羨門部に接し、両袖部の削り出しの間に遺存している。安山岩、花崗岩の板石と河原円礫を使用している。しかし、検出時には床面上の河原円礫2個を除いて2次的に動かされた状態であり、羨門を塞いではいない。羨門に最接する板石は長さ76cm、幅60cm、厚さ6cm以下の花崗岩であり、内面に赤色顔料が塗布されている。この板石は約40°の傾斜で墓道側に引き倒されている。また、他の板石と河原円礫は羨道部前面の第3層群上面に散在している。

b) 墓道内埋土 墓道内の堆積土壌は8層群23層に区分された。

第1層群(XI・XII層)は墓道形成直後に堆積した基盤層の2次堆積物であり、5~40cmの層厚がある。墓道開口方向に薄くなり、全体に固くしまっている。本層群中には遺物C群がある。

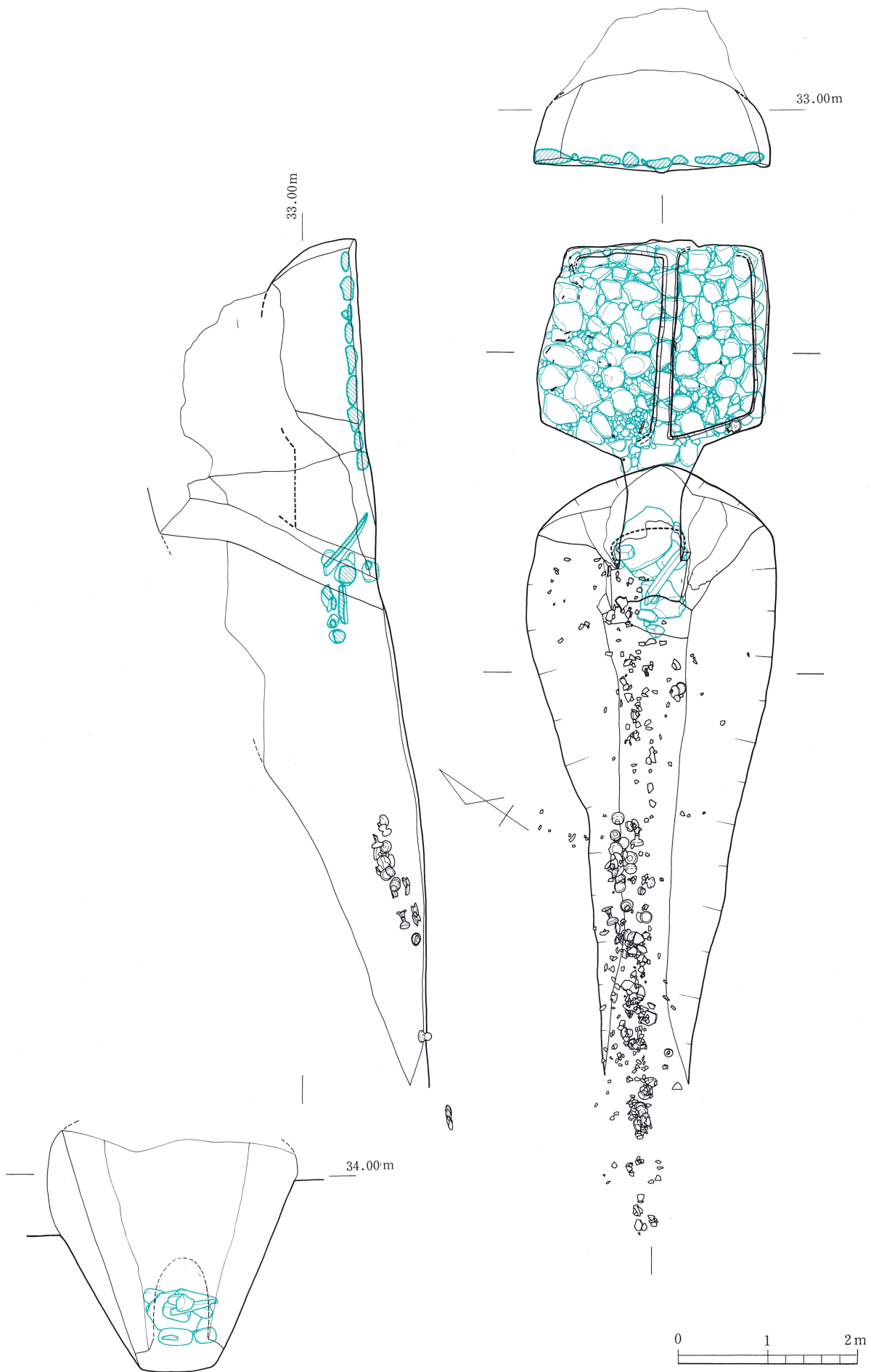
第2層群(VIII~IX層)は、墓道下半部の主要埋土であり、長さ、幅共に1m以下のレンズ状堆積物の異層からなる。墓道奥部では第1層群上面からU字状に掘り込む遺構があり、その埋土として堆積する。墓道先端付近では上部からの風化、浸食が本層群上部に達し、層厚が薄くなる。全体として炭化物片を多く含み、焼土層(Xe層)や炭化物薄層(Xc層)も認められる。本層中羨門部から3~6.5mの範囲に遺物B群が埋められている。本層群は連続した一連の埋土からなると考えられる。

第3層群(VII層)は羨門直下から約3.5mの位置まで堆積する。地山礫を多く含む。墓道奥部では第3層群をU字状に掘り込む遺構内の埋土として堆積する。閉塞部から1.5mまでの本層群上面は固くしまっており、何らかの作業面と推定される。

第4層群(V~VI層)は羨門部から3.5mの位置まで認められる。暗褐色の風化土層であり、層厚は最大50cmを測る。下位層群に凹凸で接する。羨門部に近づくと固くしまる。本層群上部には閉塞施設の一部とみられる礫、板石などが分布する。

第5層群(IV・V・VI層)は羨門から墓道部全体に堆積している。上部は第6層群により浸食され凹凸をなす部分もある。下半部は粘質土ブロックを含み、上部には貼床状の固い土層(IV層)が形成される。何らかの作業面と推定される。

第6層群(III層)は羨門部から6.2mの位置まで堆積し、墓道内埋土の上部を形成する。最大の層厚は50cmに達する。全体に黒色~暗褐色の色調を呈する風化土層である。下位層を浸食し、墓道外方では第2層群に達する。上下に漸移変化する。



第268图 47号横穴墓平·断面图

第7層群（Ⅱ層）は羨門部前面約1 mまでの範囲に認められるV字状の落ち込みの埋土である。この落ち込みは下面の傾斜が強く、また床面も軟質のままであり、人為的な掘り込みとは考え難い。むしろある時期に羨道への土砂の流入が発生し、閉塞直上の埋土が動いて形成されたものと考えられる。軟質の暗～黒褐色の風化土層からなる。

第8層群（Ⅰ層）は表土層とその直下の土層である。近年の造成時に流入した地山の二次堆積物を主体としている。

2) 羨道、玄室

羨道は長さ約1.4m、幅0.5～0.68mであり、高さは崩落のために不明である。羨道内東側壁に13cm程の段がある。玄門は拡がり、幅0.94mとなる。玄室は長さ2.35m、裾部幅2.55m、奥壁幅2.18mの隅丸台形を呈する。床面の中央主軸と壁沿いには幅15～20cmの排水溝が設けられているが、奥壁東側と西側部分では未検出である。床面はほぼ平坦であり、玄室全体に人頭大の河原石を敷きつめ、その隙間に拳大以下の小円礫を敷いている。これらの敷石の構築は中央の排水溝の上から左右に拡げるように行っている。天井は崩壊が著しいが、四隅に四柱造り状の稜線が入り、寄せ棟型式と推定される。床面からの高さは中央付近で推定1.1m前後である。

3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

玄室内の敷石上や敷石間からは須恵器提瓶1（第273図49）、耳環7、鉄鏃、刀子、鹿角片（第273図50～70）などが検出された。提瓶は玄門に近い東側壁に接して敷石間にあった。耳環は一組（2個）が玄門西側に近接し、他の一組が玄門中央東側で出土した。またその他の3個は中央玄門寄り、中央西寄り、奥壁西側にそれぞれ分布する。鉄鏃は西側壁に近接した位置に比較的集中する。刀子は玄室中央付近に、鹿角片は玄門に近い敷石上にあった。

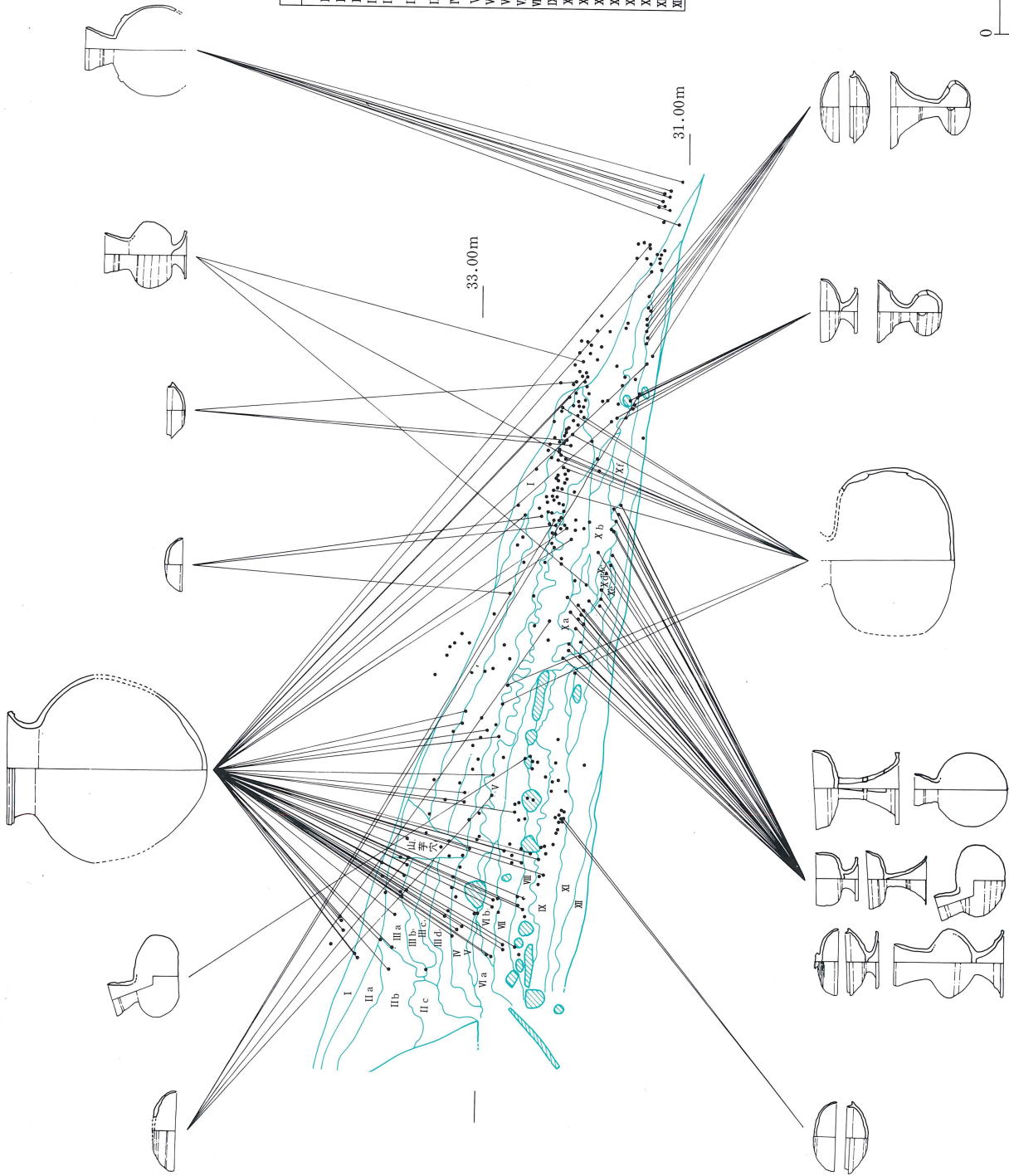
2) 墓道内

墓道内遺物の出土位置については墓道内埋土の項でおおよそ示した。ここではその出土状況について述べる。

A群は羨門から約4～5 m離れた位置に0.7～2.0mの範囲を中心に墓道内埋土中に破碎散布状態で検出した。主体となる横瓶破片の底面は標高32.2mで水平となっており、埋土の観察では確認できなかったものの整地面の存在が推定された。使用される器種は横瓶、蓋坏、提瓶、高坏などである（第272図43・45～47）。なお、破片の一部は上位の風化土層中に混り、広範囲に拡散する。破碎の状態は検出時の観察から次の様に復元される。まず、横瓶の完形品を据え置き、何らかの加圧により破碎する。その段階で上半部破片は底部下半内に落ち込む。合せてこの周囲に多器種の破片も集約して分布させる。その後一定の埋土を行なうが、上部からの風化土の形成や、埋土の流出があった。

B群は羨門から3 m～6.5mの位置の墓道内埋土中に一括埋置状態で検出した。これは平面的な分布状態からさらに3群に分れる。最も羨門寄りのものから順に、B-1群、B-2群、B-3群とする。B-1群は羨門から3 m～4.5mの位置に長さ0.6～1.5mの範囲に分布する。有蓋高坏4、高坏5、台付甕1、脚付壺2、提瓶2、平瓶2からなる（第270図11～19、第271図20～26）。何れも完形に近いものであり、一部を破損しているものの近接してその破片が出土する例が多い。埋置状態はまず有蓋高坏の蓋を開き、または高坏を反転して据え置く。一定の埋土の後、その他の器種を比較的乱雑に積み重ねる。さらに一定の埋土の後、上部に径20cm以下の地山礫を数個置く。B-2群は羨門より5.5m離れた位置にあり、無蓋高坏1、甕1からなる（第270図9、10）。何れも標高31.5m付近に正置されたもので、高坏は土圧で破碎したものとみられる。B-3群は羨門より6.0～6.5m離れた位置にあり、蓋坏4と甕1からなる（第270図1～8）。蓋坏は全て蓋を外して重ねた状態であり、甕はそれに沿って横置きしている。何れも原位置で部分的に破碎しているが、これが人為によるものかは不明である。

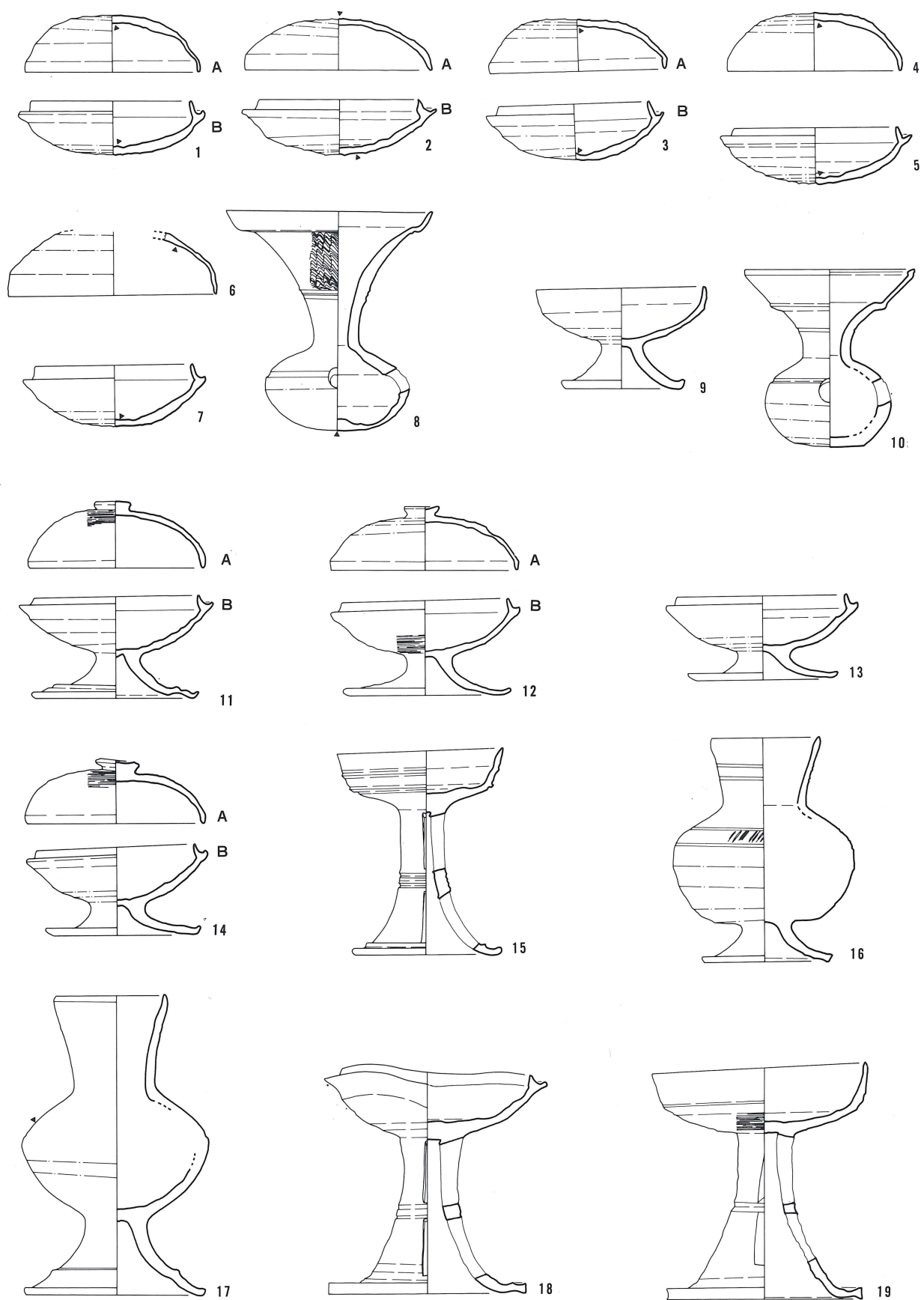
C群は羨門から1.3m離れた東側壁寄りにあり、蓋坏2からなる（第270図27、28）。何れも蓋を閉じた状態であり、墓道中央部に傾斜した状態で出土した。両者共に蓋坏内には半分程土砂が流入していたが、そのうち中央寄りの蓋坏内からは二枚貝（アサリ貝）の貝殻が出土した。（吉留秀敏）



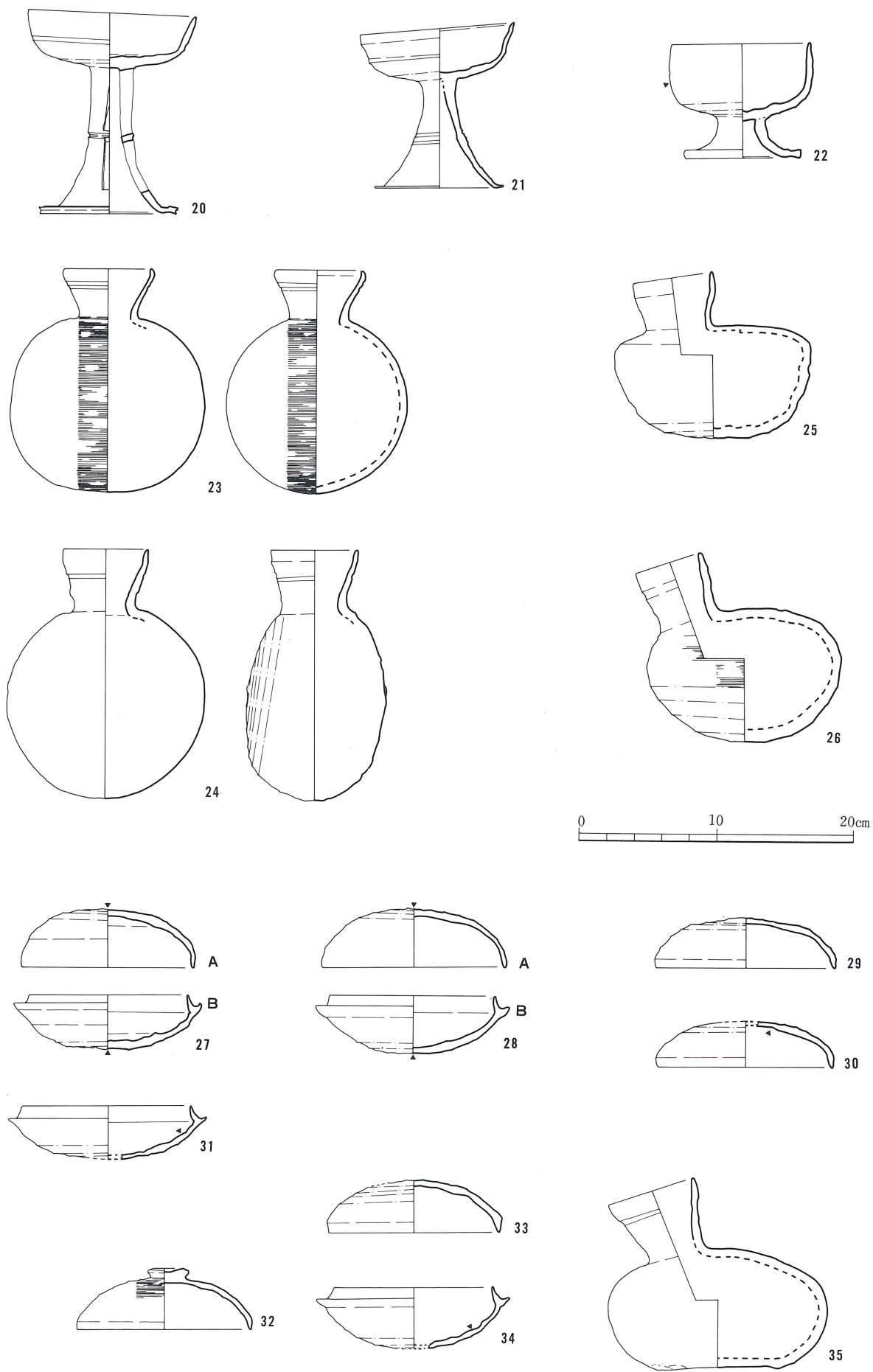
47号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	黄褐色	礫混り土層	ハード	最終埋葬土
II:a	黒色	腐植土層	ソフト	
II:b	暗黒褐色	粘質土層	ソフト	
II:c	茶褐色	粘質土層	ソフト	祭祀儀礼土
III:a	茶褐色	粘質土層	ソフト	
III:b	暗褐色	粘質土層	ハード	第3次追葬埋土
III:c	茶褐色	粘質土層	ソフト	
III:d	黒色	クロボク質土層	ソフト	
IV	暗~茶褐色	礫混り粘質土層	ソフト	第2次追葬埋土
V	暗~赤褐色	礫混り粘質土層	ハード	
VI:a	暗~黒褐色	礫混り粘質土層	ソフト	第1次追葬埋土
VI:b	暗~黒褐色	礫混り粘質土層	ソフト	
VII	暗褐色	礫混り粘質土層	ソフト	初葬時埋土
IX	暗褐色	礫混り粘質土層	ソフト	
X:a	暗褐色	粘質土層	ハード	初葬時埋土
X:b	黄褐色	粘質土層	ハード	
X:c	黄褐色	粘質土層	ハード	初葬時埋土
X:d	黄褐色	粘質土層	ハード	
X:e	暗褐色	礫混り粘質土層	ハード	初葬時埋土
X:f	暗褐色	礫混り粘質土層	ハード	
XI	暗褐色	礫混り粘質土層	ハード	初葬時埋土
XII	黄~赤褐色	砂	ハード	

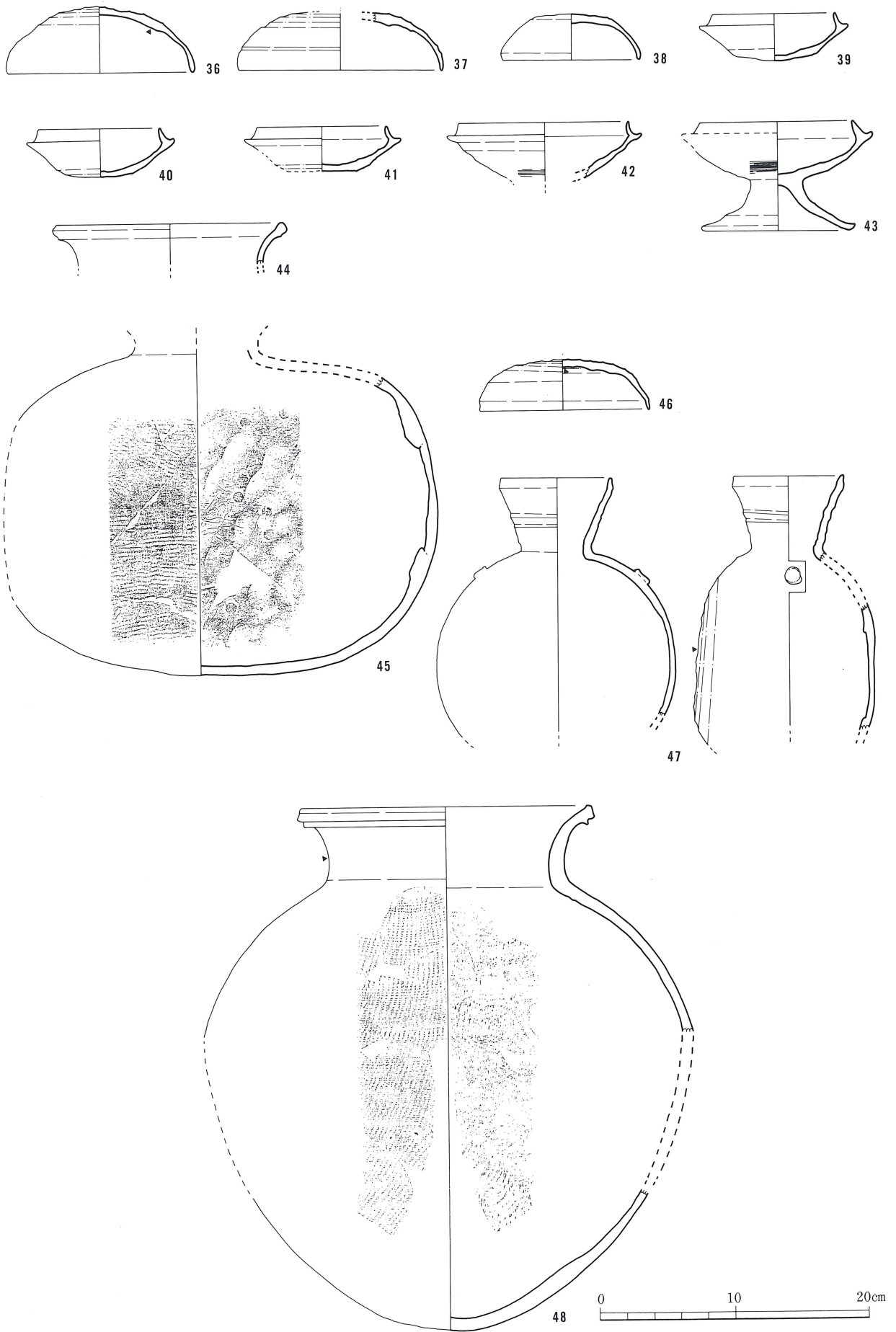
第269図 47号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図



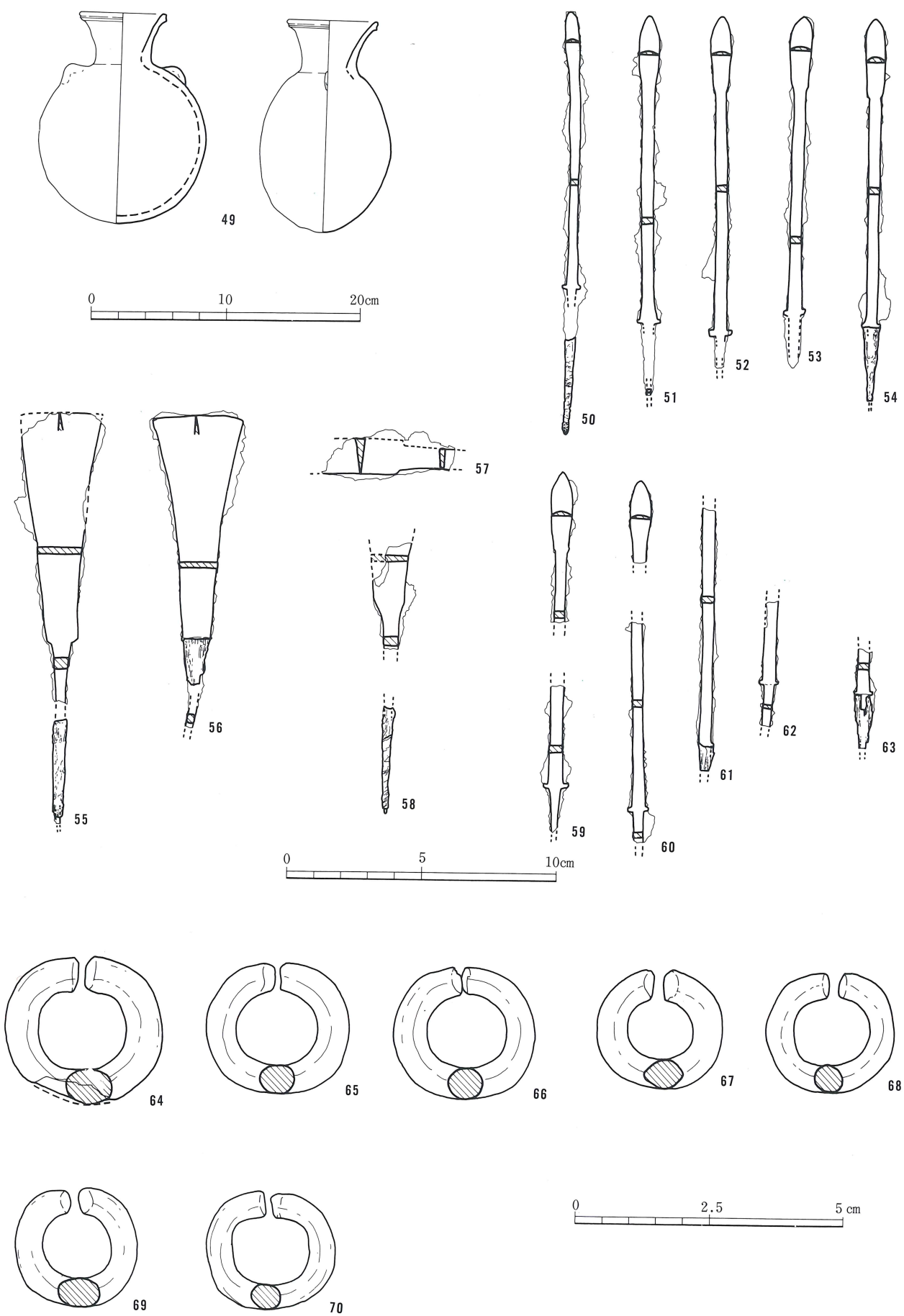
第270图 47号横穴墓出土遗物实测图(1)



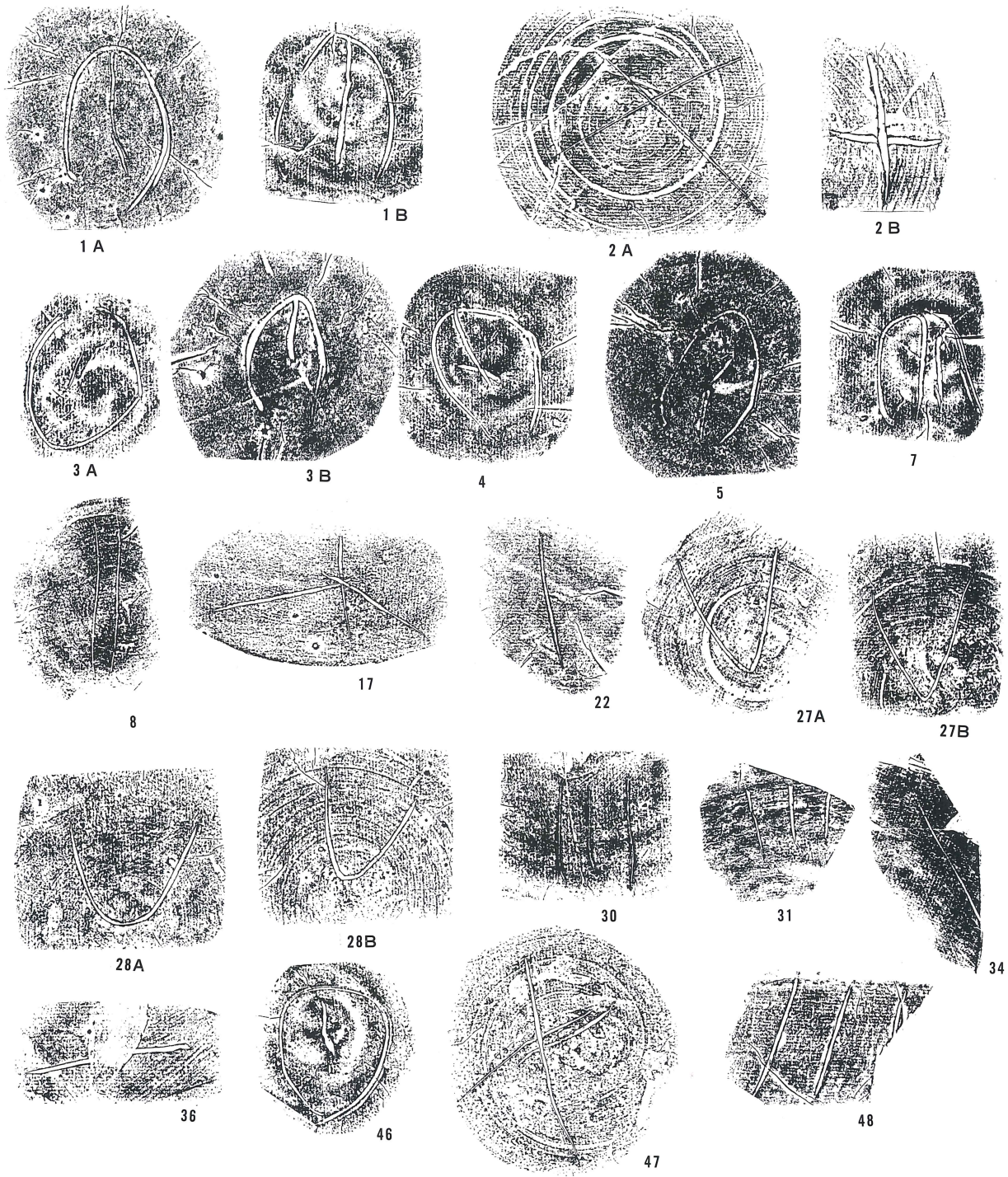
第271图 47号横穴墓出土遺物実測図(2)



第272图 47号横穴墓出土遗物实测图(3)



第273图 47号横穴墓出土遗物实测图(4)



第274図 47号横穴墓出土土器へラ記号

第104表 47号横穴墓出土耳環計測表

(単位：mm, g)

番号	作り	外径	断面径	重量	備考
64	銅地金張	27×29	7×9	20.45	
65	同上	23.5×26	6×6.5	12.7	
66	同上	24×26	6×6	11.7	
67	同上	21.5×22	5.5×7.5	10.3	
68	銅地銀張	24×22	5.5×5.5	6.1	
69	銅地金張	22×23	5.5×7.5	8.7	
70	銅地銀張	22×24	5×6	7.8	

第105表 47号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
1 A	坏蓋	・12.4 ・4	口縁部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反し垂直に屈曲する。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	黒色砂粒 白色砂粒を 多量に含む	良好		内面天井部「M」
1 B	坏身	・11.6 ・3.7	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～2mmの 白色砂粒を 少量含む	良好		内面底部「M」
2 A	坏蓋	・13.4 ・3.6	口縁部はやや外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや低く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5～2mmの 白色砂粒、 角閃石粒を 少量含む	良好		外面天井部「X」
2 B	坏身	・11.4 ・3.8	たちあがりは内傾してのび、端部はとがる。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡灰色 淡青色	2～5mmの 灰白色砂粒 を含む	良好		外面底部「X」
3 A	坏蓋	・12.6 ・3.6	口縁部は外反しながらのび、端部は垂直に屈曲し丸い。天井部はやや高く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1mm前後の 白色砂粒を 少量含む	良好		内面天井部「O」
3 B	坏身	・10.8 ・3.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部はほぼ水平にのび、端部はわずかに肥厚し丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 黒灰色	細砂粒を含 む	良好		内面底部「M」
4	坏蓋	・12.5 ・4.1	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1mm前後の 白色砂粒を 少量含む	良好		内面天井部「A」
5	坏身	・11.6 ・3.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1mm前後の 白色砂粒を 含む	良好		内面底部「M」
6	坏蓋	・14.6 ・4.5+α	口縁部は外反しながらほぼ直下にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 調整ナデ	黄灰色 黄黒色	細砂粒を含 む	良好		内面にヘラ記号「？」
7	坏身	・11.4 ・4.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5～1mm の白色砂 粒、角閃石 粒を含む	良好		内面中央「M」
8	甕	・14.5 ・19.5 ・10.2	口頸部は外反しながらのび、端部付近で外側に屈曲し丸い。頸部の外面中央部に2本の沈線がある。片部はよくしまり胴部は楕円形を呈す。中央部に穿孔がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	淡灰色	細砂粒を含 む	良好		外面底部「H」
9	高坏	・12.0 ・7.1	坏部の口縁部は上外方にのび、端部は直立ぎみにのび丸い。脚部は下外方にのび、端部は上方に屈曲し丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～2mmの 白色砂粒を 少量含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
10	甗	・12 ・12.7 ・8.9	口頸部は外反しながらのび、端部付近で外側に屈曲する。端部は内傾する面をなし、内面に突帯を施す。頸部外面中央部に1本の沈線がめぐり、胴部は楕円形を呈し中央部に穿孔が施される。外面上に1本の沈線がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰褐色	1～3mmの砂粒を微量に含む	良好		
11 A	坏蓋	・12.5 ・4.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	精緻	良好		
11 B	高坏	・11.6 ・7.2	坏部のたちあがり内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。脚部は下外方にのび、2回ゆるやかに屈曲し、端部は外側へ屈曲し丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	黄灰色 黒灰色	石英粒を多量に含む	良好		
12 A	坏蓋	・13.2 ・4.5	口縁部は外反しながらのび、端部はわずかに直立ぎみに屈曲し丸い。天井部はやや高く丸みをおび、外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色 黒灰色	石英粒を多量に含む	良好		
12 B	高坏	・12.0 ・6.7	坏部のたちあがりはずかに内傾してのび、端部は丸い。受部はほぼ水平にのび、端部は丸い。坏部はやや浅い。脚部は短く下方向にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	明青灰色	1～3mmの白色砂粒を少量含む	良好		
13	高坏	・12.0 ・6.0	坏部のたちあがりはやや短く内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。坏部はやや深い。脚部は下外方にのび、端部はわずかに外方に屈曲し丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
14 A	坏蓋	・12.8 ・4.5	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く平ら。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1～2mmの白色砂粒を少量含む	良好		
14 B	高坏	・11.4 ・6.2	坏部のたちあがり内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は肥厚し丸い。脚部は短く下外方にのび、端部は外側に屈曲し丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	精緻	良好		
15	高坏	・11.8 ・14.5	坏部は浅く上外方にのび、端部は丸い。外面に三角形の突帯が2本つく。脚部は下外方にのび、外面中心部に2本の沈線をめぐらす。端部付近に1本の突帯がつき丸い。三方向に長方形二段スカシがある。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰黒色 灰褐色	石英、長石、角閃石粒を含む	良好		

番号	器種	法量	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
		・口径 ・器高 ・胴部最大径		内面	外面	色調	胎土	焼成		
16	脚付壺	・7.6 ・16 ・12.8	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。外面中央部には2本の沈線がある。胴部は楕円形を呈し、外面両肩には2本の沈線がありその間に刻目がある。脚部は下外方にのび、端部は外傾する面をなす。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色 黒灰色	細砂粒を含む	良好		
17	長頸壺	・7.7 ・21.3 ・13.2	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。外面に2本の沈線がある。胴部は楕円形を呈し、肩部に1本の沈線がある。脚部は下外方にのび、いったん屈曲しさらに外方にのびる。端部は面をなしやや丸い。	回転ナデ 同心円タタキ?	回転ナデ 回転カキ目後 回転ヘラケズリ	灰褐色	細砂粒を多量に含む	良好		外面肩部「✕」
18	高坏	・13.3 ・15.8	坏部のたちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび端部は丸い。坏部は形のひずみがはげしい。脚部は長く下外方にのび、外面の中心部に2本の沈線がある。端部は垂直に面をなす。2方向に長方形2段スカシがある。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	細砂粒を含む	良好		
19	高坏	・15.1 ・16.6	坏部の口縁部は上外方にのび、端部は丸い。外面には稜がみとめられる。脚部は長く下外方にのび、端部は面をなす。外面中央部に1本の沈線がある。長方形2段スカシが2方向にある。	回転ナデ タタキ後調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰白色	細砂粒を含む	良好		
20	高坏	・12.1 ・14.5	坏部の口縁部は上外方にのび、端部は丸い。坏部は浅い。脚部は長く下外方にのび、外面の中央部に1本の沈線がある。長方形2段スカシが2方向にある。端部は凹面をなす。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色	精緻	良好 堅緻		
21	高坏	・11.0 ・11.4	坏部の口縁部は上外方にのび、端部は内傾する段をなす。底部はやや深く平ら。脚部は下外方にのび、基部はよくしまる。外面中央部に2本の沈線をもつ。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰青色 黄灰色	石英粒を含む	良好		
22	高坏	・10.0 ・8.4	坏部の口縁部はほぼ直立しながらのび、端部は丸い。脚部は短く下外方にのび、端部は丸い。脚部は短く下外方にのび、端部は直立した面をなす。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黄色 灰色	細砂粒を含む	不良		外面坏部「 」
23	横瓶	・6.2 ・16.0 ・14.0	口頸部は外反しながらのび、端部はわずかに内湾し丸い。胴部は楕円形を呈し、底部はやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
24	提瓶	・6.0 ・18.0 ・14.1	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。外面中央部に1本の沈線がめぐる。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色 黒灰色	細石英粒を多量に含む	良好		
25	平瓶	・5.8 ・11.9	口頸部は外反しながら内湾ぎみにのび、端部は丸い。胴部は楕円形を呈し、最大径は上方にある。底部は平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色 黒褐色	細砂粒を含む	良好		
26	平瓶	・4.8 ・13.8	口頸部はわずかに外反しながらのび、端部は丸い。胴部は楕円形を呈し、最大径は中央部にある。	回転ナデ	回転ナデ 調整ナデ 回転カキ目 回転ヘラケズリ	灰白色	石英粒を多量に含む	良好		
27 A	坏蓋	・12.5 ・4.2	口縁部は外反しながらほぼ直下にのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡紫灰色	細砂粒を含む	良好		外面天井部「V」
27 B	坏身	・11.8 ・3.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	紫灰色	2mm前後の白色砂粒を含む	良好		外面底部「V」
28 A	坏蓋	・13.2 ・4.2	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		外面天井部「U」
28 B	坏身	・12.0 ・4.1	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色 褐色	精緻	良好		外面底部「U」
29	坏蓋	・13.1 ・3.6	口縁部は外反しながら、端部でほぼ直下にのび丸い。天井部は高くやや平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～2mmの白色砂粒、角閃石粒を少量含む	良好		
30	坏蓋	・12.6 ・3.2	口縁部は外反しながらのび、端部はややとがりぎみで丸い。天井部は低く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～2.5mmの角閃石、石英粒を少量含む	良好		内面天井部「III」
31	坏身	・12.0 ・3.8	たちあがりは内傾してのび、端部はとがりぎみで丸い。受部は細く上外方にのび、端部は丸い。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰青色	石英粒を含む	良好		内面底部「III」
32	坏蓋	・12.8 ・4.4	口縁部は外反しながら、端部で直下にのび丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	精緻	良好	有蓋高坏	
33	坏蓋	・12.4 ・3.7	口縁部は外反しながらほぼ直下に屈曲し、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色 灰紫色	1～1.5mmの角閃石、石英粒を少量含む	良好		

番号	器種	法量	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
		・口径 ・器高 ・胴部最大径		内面	外面	色調	胎土	焼成		
34	坏身	・11.4 ・4.5	たちあがりは内傾してのび、端部は細くなり丸い。受部は上外方にのび端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	細砂粒を含む	良好		内面底部「I」
35	平瓶	・6.4 ・13.9 ・15.6	口頸部は外反しながらのび、端部は丸く外面にうすい沈線をもつ。胴部は楕円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目 静止ヘラケズリ	青灰色	精緻	良好		
36	坏蓋	・14.0 ・4.8	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色 黒灰色	1～3mmの白色砂粒を少量含む	良好		内面天井部「I」
37	坏蓋	・15.2 ・4.2+ α	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰青色 黄白色	白色細砂粒を含む	良好	反転復元	
38	坏蓋	・10.2 ・3.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ	茶灰色	角閃石、その他の砂粒を含む	良好		
39	坏身	・9.2 ・3.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部はやや浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	茶灰色	角閃石、その他の砂粒を少量含む	良好		
40	坏身	・9.2 ・3.5	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ 静止ヘラケズリ	茶灰色	精緻	良好		
41	坏身	・9.7 ・3.2	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部はほぼ水平にのび端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ 静止ヘラケズリ	青灰色	角閃石、その他の砂粒を少量含む	良好		
42	高坏	・12.6 ・4.6+ α ・14.4	坏部のたちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部はほぼ水平にのび端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰青色	白色細砂粒を含む	良好		
43	高坏	・11.2 ・8.2	坏部のたちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。坏部はやや深い。脚部は下外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		
44	壺	・16.6 ・3+ α	口頸部は外反しながらのび、端部は段をなし丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰褐色	角閃石、その他の砂粒を少量含む	不良		
45	横瓶	・— ・24.1+ α ・31.3+ α	胴部は横長で、両端は平面をなす。	同心円タタキをナデ消す	タタキ後カキ目	淡黄灰色 灰色	1～2mmの砂粒を含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
46	坏蓋	・12.7 ・3.6	口縁部は外反しながらのび、端部付近で垂直に屈曲し丸い。天井部は低く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	細白色砂粒、 黒色砂粒を含む	良好		内面天井部「○」
47	提瓶	・8.1 ・18.5+ α ・17.5	口頸部は外反しながらのび、端部はやや内側に屈曲気味で丸い。胴部は円形を呈し、外面両肩に浮文がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色 灰黒色	1～3mmの 白色砂粒を 多量に含む	良好		外面胴部「✕」
48	甕	・21.6 ・38.0 ・36+ α	口頸部は外反しながらのび、端部は段をもつ。外面下方は凹面をなす。胴部は円形を呈す。	回転ナデ 同心円タタキを施した後ナデ消す	回転ナデ タタキ後カキ目	青灰色	石英、角閃 石粒を含む	良好		外面口頸部「III」
49	提瓶	・6.4 ・15.6 ・12.3	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し外面に1本の沈線をなす。胴部は円形を呈し、外面両肩に把手がつく。	自然釉が全体にかかりはげかけているため調整不明	調整不明 うすい回転カキ目	黒灰色	精緻	良好		

第106表 47号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頭部長(刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
50	鉄鏃	15.5	2.0	0.5	0.4	0.1	0.2	桜樹皮巻き残存
51	同上	13.8以上	2.4	0.75	0.45	0.15	0.2	
52	同上	12.8以上	2.7	0.7	0.45	0.1	0.2	
53	同上	12.5以上	2.6	0.8	0.45	0.1	0.2	
54	同上	14.0以上	2.9	0.7	0.4	0.2	0.2	木質残存
55	同上	15.0以上	8.5	3.0	0.4	0.2	0.3	ク
56	同上	11.4以上	8.2	3.3	0.3	0.2	0.3	ク
57	刀子	4.8以上	3.0以上	1.3	0.7	0.3	0.2	
58	鉄鏃	7.6以上	3.7以上	1.2以上	0.5	0.2	0.3	桜樹皮巻き残存
59	同上	10.8以上	2.9	0.8	0.45	0.15	0.25	
60	同上	11.1以上	2.3	0.75	0.4	0.1	0.25	
61	同上	9.6以上	不明	不明	0.45	不明	0.25	木質残存
62	同上	4.6以上	不明	不明	0.45	不明	不明	
63	同上	3.6以上	不明	不明	0.45	不明	0.2	木質残存

48号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

48号横穴墓は、北支群の東側に位置する斜面下位にあり、南西方向に開口する。開口部の標高は、約31.5mである。全長は4.0mを測り、主軸はN-56.5°-Eにとる。調査前の状況は、陥没等の落ち込みはなく、遺構の有無は前庭部の覆土の状態を確認した。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、上部のテラス状遺構の検出を行った。閉塞施設の除去後、埋葬人骨の遺存が確認されたため、九州大学医学部第2解剖学教室室員の協力の上で玄室内の調査を実施した。本横穴墓は調査概要で仮31号横穴墓としたものである。

2. 規模、構造

1) 前庭部、羨門部

a) 規模、構造 前庭部は長さ2.5m、幅は入口付近で1.5m、羨門付近で1.65mを測る。前庭部床面はゆるい凹凸があり、羨門に向かって約20°の角度で傾斜する。羨門の両側壁から中央付近には長さ1.35m~1.5m、幅0.2mの台形状のテラスを付設している。側壁の傾斜は両壁とも約60°を測る。羨門部天井はほぼ完存しており、幅0.6m、高さ0.8mを測る。表面には、幅10cmの範囲に赤色顔料が塗布されている。

閉塞施設は、最終時の様相であり、板石と河原円礫を用い、入念に構築されている。まず前庭部の下部に人骨大の川原石8個を置き、閉塞の基底部を整える。閉塞の配石は次の2工程に分けられる。第一工程は、基底層の上に表面に赤色顔料を塗布した大形の安山岩製板石を4枚並べ、上面の隙間を小型の板石四枚と地山礫2個で埋め羨門を完全に覆う。第2工程は、人頭大の川原石および地山円礫60個前後で、1工程を支え、隙間を覆う。以上の配石によって面積・体積ともにおおよそ前庭部の3分の1程度が埋る。この配石の後に前庭部全体を覆うように埋土がなされる。

b) 墓道内埋土 墓道内の堆積土壌は、その性状から比較的明瞭な層区分が可能であり全体で4層群8層に分層できた。以下堆積順に説明する。

第1層群(Ⅳ層)は羨門下面より前庭部全体に厚い所でほぼ20cm程度堆積した基盤層の2次堆積土で第2層群によってカットされている。本層群は、初葬時の埋土と考えられる。

第2層群(Ⅲ層)は羨門下面より前庭部全体に厚い所で1.0m程レンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積土で、上面の第3層群とは漸移的に堆積し、閉塞全体に覆っている。本層群は当初第1次追葬時の埋土と考えたが、玄室内の様相から玄室内の瓜状炭化物の供献儀礼後の埋土と考えた。

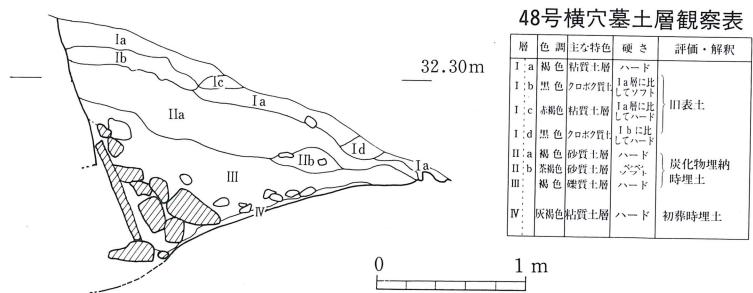
第3層群(Ⅱ層)は羨門上面より前庭部全体に厚い所で40cmほど堆積する。基盤層の2次堆積であるが若干風化が進んでいる。本層群も第2層群と同様に考えられる。

第4層群(Ⅰ層)は前庭部上面全体に厚い所で20cmほど堆積する。クロボク質の風化の著しい層である。ただしブロック状であるが基盤層の2次堆積土層(Ⅰc層)が認められたところから、上部に墳丘があった可能性が大きい。

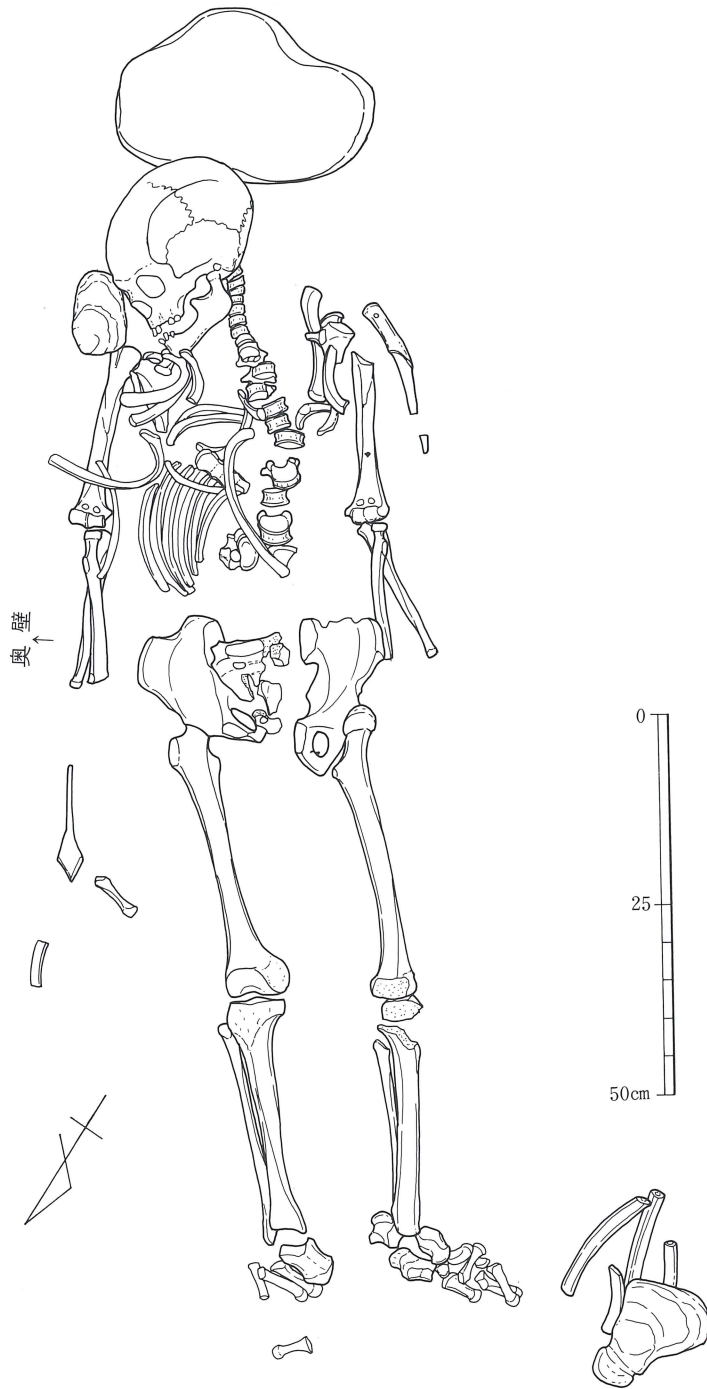
以上の土層観察結果から、本横穴墓では少なくとも1度の埋葬と1度の玄室内供献儀礼が行われたと推定される。

2) 羨道、玄室

羨道部は床面で幅0.55m、長さ0.65mを測る。床面は25°の角度で玄室に向い下降する。天井は若干破壊されているが、玄室天井部とは段を持たずに続いている。玄室は、長さ1.3m、最大幅2.2mの楕円形を呈す。天井はほぼ完全に残っており、ドーム状をなし高さ



第275図 48号横穴墓縦断土層図



第276図 48号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態

骨の保存自体は良好であり、落石による破壊や小動物の咬傷の痕跡を認めない。したがって、遺体の軟部組織が腐朽した後何らかの人為が加わったと考えられるのである。

人為による二次的な移動の証拠としては、他にも右膝蓋骨があげられる。図をみてもわかるように右膝関節は大腿骨・脛骨・腓骨ともに現状を保ち、落石による破壊も受けていない。ところが、右膝蓋骨は関節部ではなく、左足脇の瓜状炭化物の下から検出された。この事実は、遺体から右膝蓋骨を取り外して瓜状炭化物の下に置いたことを示している。そして、この行為は瓜状炭化物の供献と同時に行われたと考えてよく、したがって、頭蓋骨脇の瓜状炭化物も同時に供献されたとみていいであろう。

そこで、胸部の状態をみると、左肋骨が右肋骨上の上のっており、左肋骨が払われたかのような状態を呈する。

は中央付近で0.67mを測る。奥壁及び両側壁には幅6cmの鉄斧調整痕が認められ、その後赤色顔料を全面に塗布している。玄室と羨道との境は長さ0.75m、幅1.05mの掘り込みを設け、その後床面には10cm前後の埋土を前面に行っている。さらに奥壁に平行して、小砂利を利用し長さ1.8m、幅0.6mの礫床を設けている。この礫床の右側壁際に川原円礫を利用した石枕を設けている。玄室床面は標高31mである。

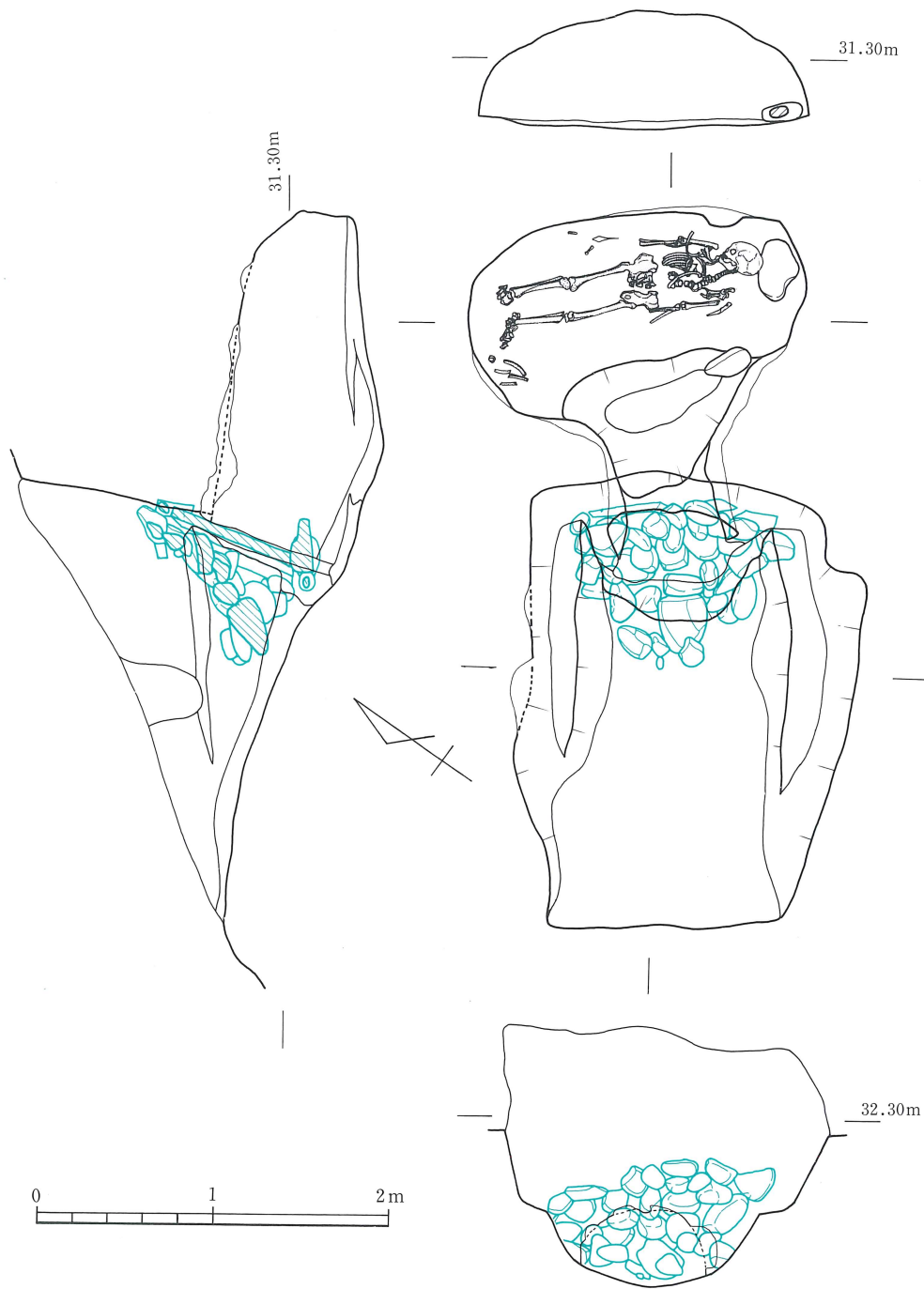
3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

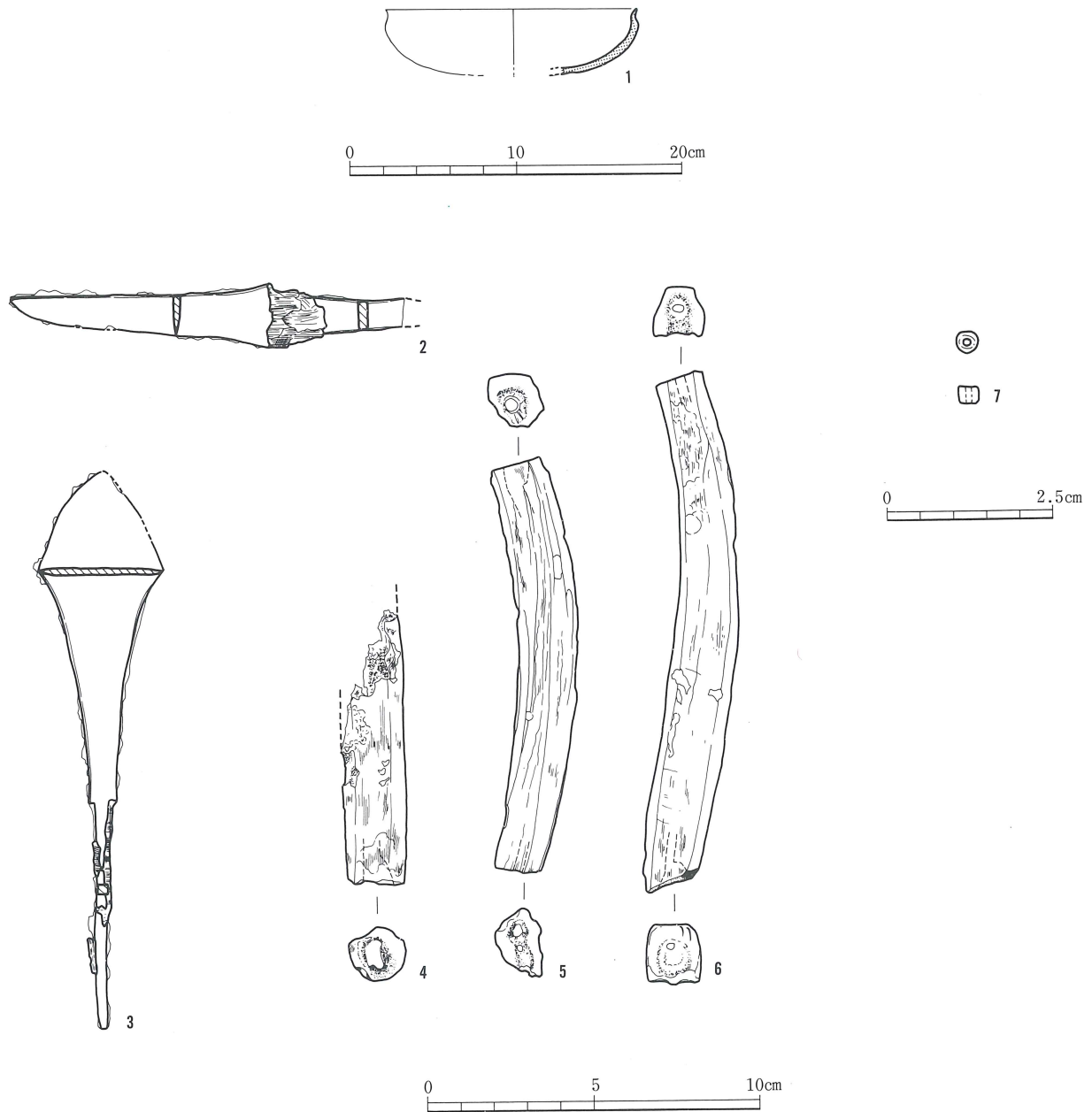
a) 埋葬人骨 奥壁に向かって右に頭位をとる熟年男性の単体埋葬である。比較的大きな平たい河原右1個を枕とし、小円礫を敷きつめた礫床上に仰臥伸展位で埋葬されていた。上肢は左右ともまっすぐ伸ばした姿勢であり、肢体も同様で左右とも脛骨・腓骨と足根骨の関節は原状を保っている。きわめて保存の良い人骨であるが、仙骨および左膝関節は落石によって破壊されている。

奥壁側に先端を足側に向けた鉄鏃1本、左肩近くに刀子1本が副葬される。また、頭蓋骨に接した奥壁よりに1個、左足脇に4本の鹿角製品の上にもう1個の瓜状炭化物が置かれていた。

さて、この人骨は保存がきわめて良く、盗骨や破壊を被っていないにもかかわらず、一部の人骨配置に乱れが認められた。それは、鉄鏃の近くの中足骨と肋骨片と、胸部とりわけ左肋骨および胸・腰椎である。これらのうち、中足骨と肋骨片は落石によって弾き飛ばされたり、ネズミなどの小動物に運ばれた可能性であろう。しかし、胸部については、人



第277图 48号横穴墓平·断面图



第278図 48号横穴墓出土遺物実測図

この横穴墓は天井までの高さが低く、遺体の胸部付近に手をつかなければ頭の向こうに供献物を置くのは困難であると思われることから、瓜状炭化物供献時に左肋骨を中心とした胸部が二次的に動かされたと考えられる。

したがって、以上から、本横穴墓においては、埋葬後遺体の軟部組織の腐朽が進行した後に、閉塞を開けて瓜状炭化物を供献したと考えられる。その際に右膝蓋骨を遺体から取り外して鹿角製品とともに左足の脇に置き、その上に瓜状の物を置くという儀礼を行っており、頭部に置くために左肋骨を払いのけたと考えられる。

b) 副葬品 玄室内には天井の若干の落盤土のほかは土砂はほとんどなく遺物も原位置をとどめていた。まず奥壁際右寄り（人骨頭骨右側）に植物質炭化物が、中央（人骨右手下方）に鉄鏃（第278図3）が刃先を足方に向け、人骨左肩付近に刃先を足方に向けた鹿角装刀子（第278図2）が1本検出された。また、左裾部と側壁のコーナー付近（人骨左足の左横）で鹿角の上に膝蓋骨、その上に植物質炭化物を重ねた状態で検出した。

なお、植物質炭化物の供献時期については、前述した人骨出土状態の所見から少なくとも人骨が一定程度腐乱した後と考えられる。また、敷き石間に詰った土を洗浄中にガラス玉一個（第278図7）を発見した。

2) 前庭部

前庭部第2層群中より土師器埴（第278図1）が小片で検出された。（村上久和）

4. 48号横穴墓出土人骨の所見

保存良好な男性人骨一体が得られた。所見は以下のとおりである。

〈保存部位〉

頭蓋骨：右頬骨弓を欠くが、他の部位はほぼ完全に残っている。赤色顔料の付着がある。残存歯牙を以下に示す。

M ² × × × C ○ I ¹	I ¹ I ² C X P ² M ¹ M ²
× M ₁ P ₂ P ₁ C I ₂ I ₁	× I ₂ C ○ P ₂ × ×
	△ △ △ △

○ 歯槽開放 × 歯槽閉鎖 △ 歯根のみ

体部骨：上肢は左上腕骨近位部、左橈骨遠位端を欠き、手の骨は左右ともほとんど失われている。下肢は左脛骨近位端、左右腓骨の近位端を欠き、足根骨・趾骨の一部も失われている。躯幹骨は椎骨・肋骨ともに比較的良好に残っている。

〈性別・年齢の推定〉

性別：乳様突起および眉弓の発達が著明であり、四肢骨の筋付着部も良く発達しており、明かに男性である。

年齢：歯牙咬耗度（Broca 2度）、頭蓋主縫合の閉鎖の程度（内板は閉鎖、外板は矢状縫合・ラムダ縫合の一部が閉鎖）、恥骨結合面の形状から熟年と推定した。

〈形質〉

頭蓋骨の示数はそれぞれ、中頭型（M8/1=77.3）、正頭型（M17/1=71.9）、中頭型（M17/8=93.0）である。顔面部の特徴は上顔高（71mm）が比較的高く、鼻根部も平坦である。また、眼窩は中型（M52/51=81.7）、鼻示数は広鼻型（M54/55=52.8）である。大腿骨最大長よりピアソンの式を用いて求めた推定身長は157.1cmであった。咬合型式は鉗子咬合である。頭蓋非計測的形質の観察の結果、鼓室骨裂孔（右）・頭頂切痕骨（左）・床状突起間骨橋（左）が認められた。

第107表 48号横穴墓出土土器観察表

（単位：cm）

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	埴		口縁部は内湾しながらのび、端部で外反し細くなりとなる。	ヘラミガキ	部分的にヘラミガキ	明茶褐色	石英粒、雲母を多量に含む	良好	土師器	

第108表 48号横穴墓出土鉄器観察表

（単位：cm）

番号	器種	全長	頭部長 (刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
2	刀子	12.8以上	7.8	1.2	0.9	0.2	0.3	木質柄残存
3	鉄鎌	16.5	9.9	3.8	0.4	0.2	0.3	木質残存

第109表 48号横穴墓出土骨角器観察表

（単位：mm）

番号	名称	全長	幅	厚さ	材質	備考
4	不明	82+α	17	16	鹿角	髄を取り穿孔する
5	〃	122	18	〃	〃	鹿角の先端を利用
6	〃	155	〃	16.5	〃	〃

第110表 48号横穴墓出土玉類計測表

（単位：mm, g）

番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
7	小玉	ガラス	青	3	2.5	1		

49号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

49号横穴墓は北支群南端に位置し、南西に開口する横穴墓である。斜面の上方、標高33m付近に設けられている。全長10.5mであり、主軸をN-56.5°-Eにとる。調査前には墓道等の落ち込みは認められず、地表での確認はできなかった。表土除去後に墓道プランを確認し、調査を実施した。なお、羨門部に近い墓道の中世の溝SDが横断している。また、調査区の設定上墓道中～入口部分を1982年に、墓道羨門付近～玄室内を1984年に分けて調査した。

2. 規模、構造

1) 墓道、羨門部

a) 規模、構造 墓道は全長7.9m、幅は羨門付近で上部2.1～2.3m、下部1.7m、墓道入口で0.8mを測る。壁高は最奥部の羨門付近で2.0mを測る。羨門直下の両袖部には地山削出しによる段状の施設が設けられている。その規模は両者共にほぼ同様であり、墓道奥壁隅部を最高所とする二段のもので、下段が長さ1.0m、幅0.5～0.6m、高さ0.15～0.2mを測る。上段は長さ0.5～0.6m、幅0.35m、高さ0.15～0.2mを測る。また、両者の中央には玄室からの排水溝が約0.9m掘られている。幅は約18cmで、その溝の端部付近が先の下段削出しと同じ位置にあり、墓道床面上でゆるい段となっている。その他の墓道床面はほぼ平らであり、羨道から墓道入口まで約6°の傾斜で下る。墓道入口から約4.5m羨門に寄った位置まで墓道幅は狭く、その後羨門部に拡がり略逆台形を呈する。墓道最奥部は約75°の傾斜を持つ壁となっている。また、側壁は70～80°の傾斜がある。

羨門の入口部分は上部が大きく崩壊している。遺存する部分でみると門構え等の構造はない。逆U字状の羨門であり、幅は下部で0.58m、中位で0.6mを測る。高さは推定で約0.6～0.7mとみられる。

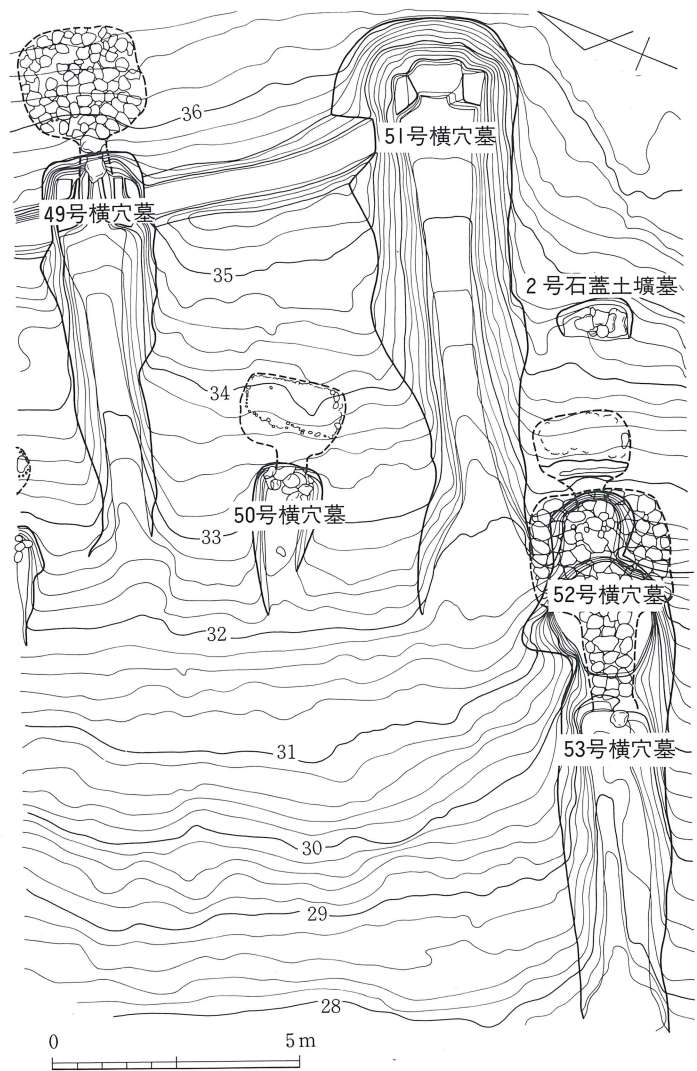
閉塞施設は検出されていない。墓道内の第4層群を中心に人頭大円礫が10数個散在しており、初期の閉塞石の一部であった可能性がある。本横穴墓の最終埋葬に伴う閉塞は木材等の有機質によるものと推定される。

b) 墓道内埋土 墓道内埋土は7層群19層に分層した。以下、堆積順に説明する。

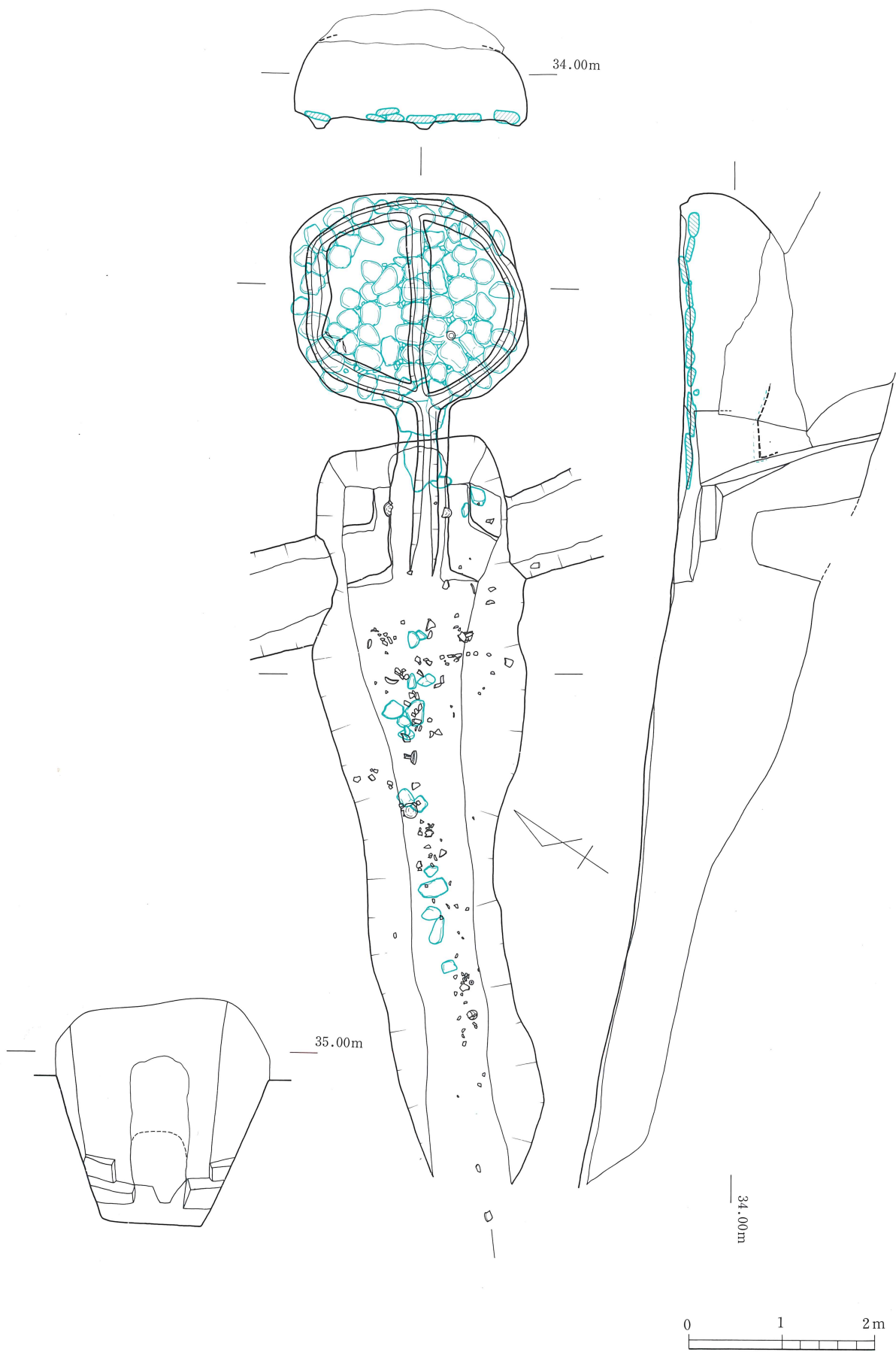
第1層群 (XI層) は墓道入口外にあり、横穴墓形成以前の旧表土である。

第2層群 (X層) は墓道形成直後に床面に堆積した基盤層の二次堆積物である。10～20cm程度の層厚がある羨道部から、約7mの位置まで堆積している。

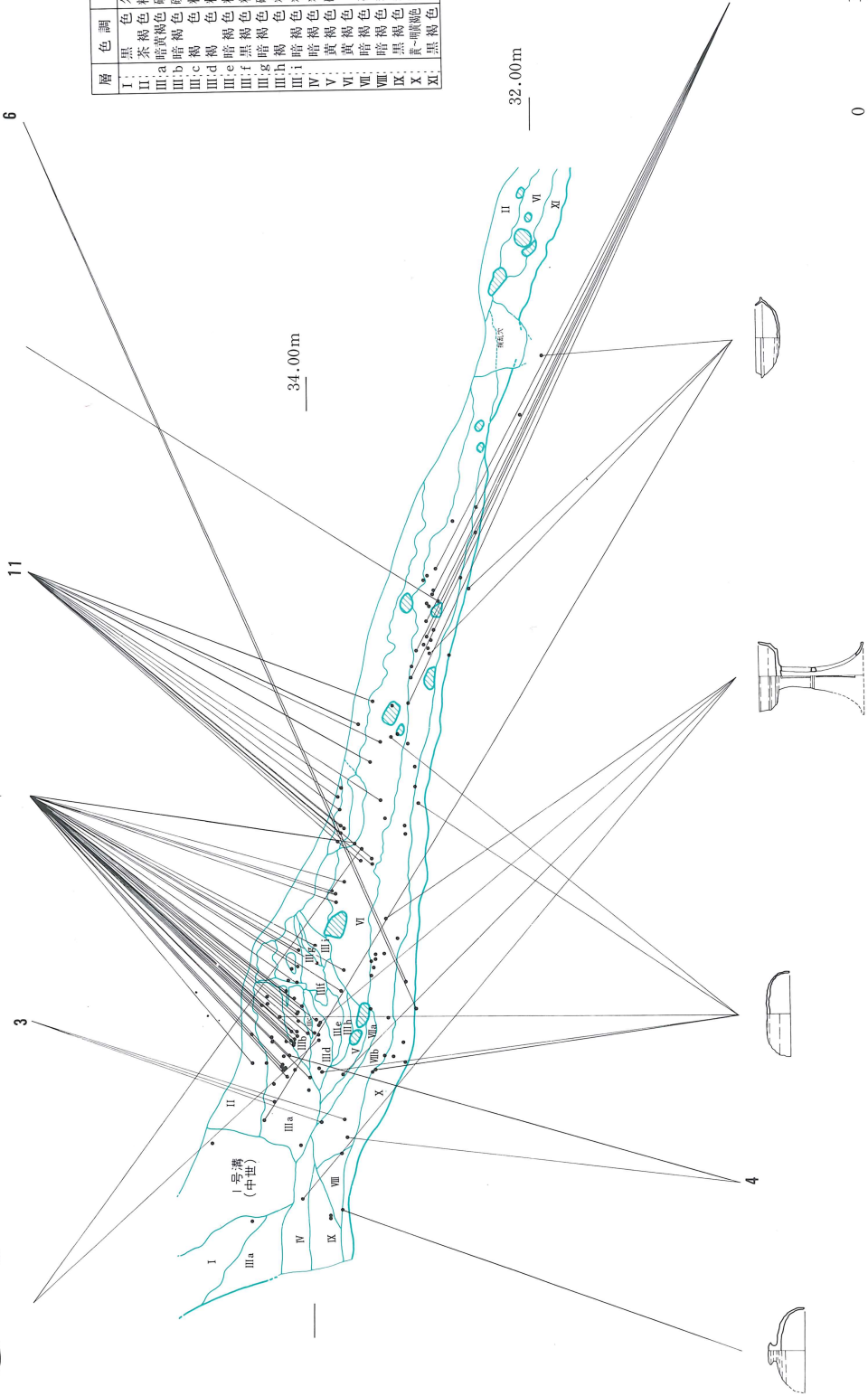
第3層群 (VII・VIII層) は羨門直下から墓道入口部まで堆積している。最大で30～40cmの層厚が確



第279図 49号横穴墓周辺平面図



第280图 49号横穴墓平·断面图



49号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	黒色	クロコケ質土層	ソフト	第3次追葬埋土
II	茶褐色	粘質土層	ハード	
III.a	暗黄褐色	礫混り土層	ハード	
III.b	暗褐色	粘質土層	ソフト	第2次追葬埋土
III.c	暗褐色	粘質土層	ソフト	
III.d	暗褐色	粘質土層	ソフト	
III.e	暗褐色	粘質土層	ソフト	第1次追葬埋土
III.f	暗褐色	粘質土層	ソフト	
III.g	暗褐色	粘質土層	ソフト	
III.h	暗褐色	粘質土層	ソフト	III.a・IV・IX層は最終埋葬埋土
III.i	暗褐色	粘質土層	ソフト	
III.j	暗褐色	粘質土層	ソフト	
IV	黄褐色	礫混り粘質土層	ソフト	初葬埋土
V	黄褐色	粘質土層	ソフト	
VI	黄褐色	粘質土層	ソフト	旧表土
VII	黄褐色	粘質土層	ソフト	
VIII	暗褐色	粘質土層	ソフト	
IX	暗褐色	粘質土層	ソフト	
X	黄褐色	砂礫土層	ハード	
XI	黄褐色	砂礫土層	ハード	
XII	黒褐色	クロコケ質土層	ソフト	



第281図 49号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

認められる。羨門付近では第6層群に切られるが、本来は羨門に対し約45°の傾斜で堆積していたとみられる。全体に粘質である。上部はやや風化が進み、炭化物片を含む。第1次追葬時の閉塞埋土とその上部に形成された風化土層とみられる。本層中に遺物A群を含む。

第4層群（V～VI層）羨門部から約1.5m離れた位置から墓道入口部分まで堆積している。第5層群に切られる。下位は黄褐色土、上位はクロボク質の風化土層からなる。下位には人頭大以下の円礫が多数あり、固くしまっている。本層も閉塞に伴う埋土とその上部の風化土層とみられる。本層中には遺物B群がある。

第5層群（Ⅲb～Ⅲm層）羨門部から約1.5～3.5mの範囲に堆積している。下位層群を横断面U字状に切る掘方内に、黒色土と褐色土が互層状に堆積する。この掘方はさらに第6層群に切られるが、追葬に関わるものとみられる。本層中に遺物C群が含まれる。

第6層群（Ⅲa・Ⅳ・ⅩI層）羨門直下から約3.5m離れた位置まで堆積している。下位層群を切り、羨道部床面に達する掘方内に堆積している。最終埋葬時の閉塞に伴う埋土とみられる。

第7層群（I層）現地表を含む表土層である。

2) 羨道、玄室

羨道は長さ0.8m、幅0.54～0.6m、高さ0.6mであり、羨門と玄門はほぼ同規模である。玄室は長さ2.25m、幅2.50mであり、隈丸方形より、不整楕円形に近い平面形を呈する。床面には中央部と周囲の壁に沿って排水溝が設けられている。これは幅20～30cm、深さ5～10cmのものである。羨道部から玄室床面には敷石を設けている。まず、羨道に安山岩板

石2枚を入口から排水溝を覆うように順に敷き、次いで玄室に径20～30cmの河原円礫を敷いている。またその隙間に径10cm以下の小円礫を入れている。玄室ではまず排水溝を覆った後にその間を埋めている。天井部は落盤しているが、壁面から曲線を描いており、ドーム形を呈するとみられる。高さは約0.9mと推定される。

3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

玄室内からは須恵器、鉄器、玉が出土した。人骨は遺存しない。須恵器は中央東よりに壺の蓋1個（第282図1）が正置していた。鉄器は玄室西側に鉄鏃（第282図2～4）が集中して出土した。また、玄室中央東側から碧玉製管玉1（第282図5）が出土した。

2) 墓道内

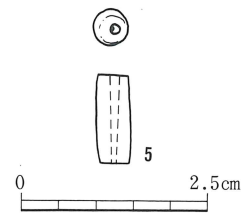
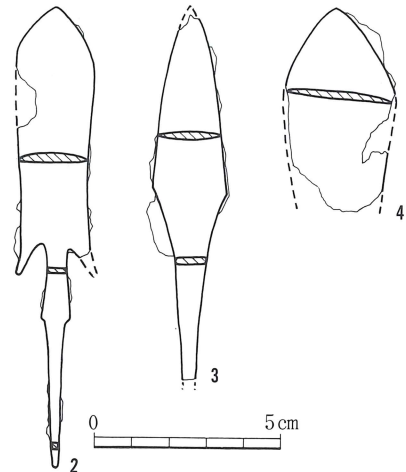
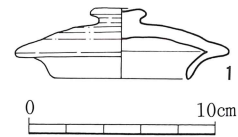
A群は第3層群中に散布状態で出土した。すべて破碎しており、個別別に集中する傾向はあるが、全体に散満に検出された。坏蓋、坏身、提瓶、高坏、台付埴（第283図6～10、12、13、16～20）などがある。他に高坏蓋（第283図14）が羨門直下で出土した。

B群は第4層群中にあり、羨門から4.0～5.5mの範囲に破碎散布状態で出土した。提瓶（第283図15）がある。

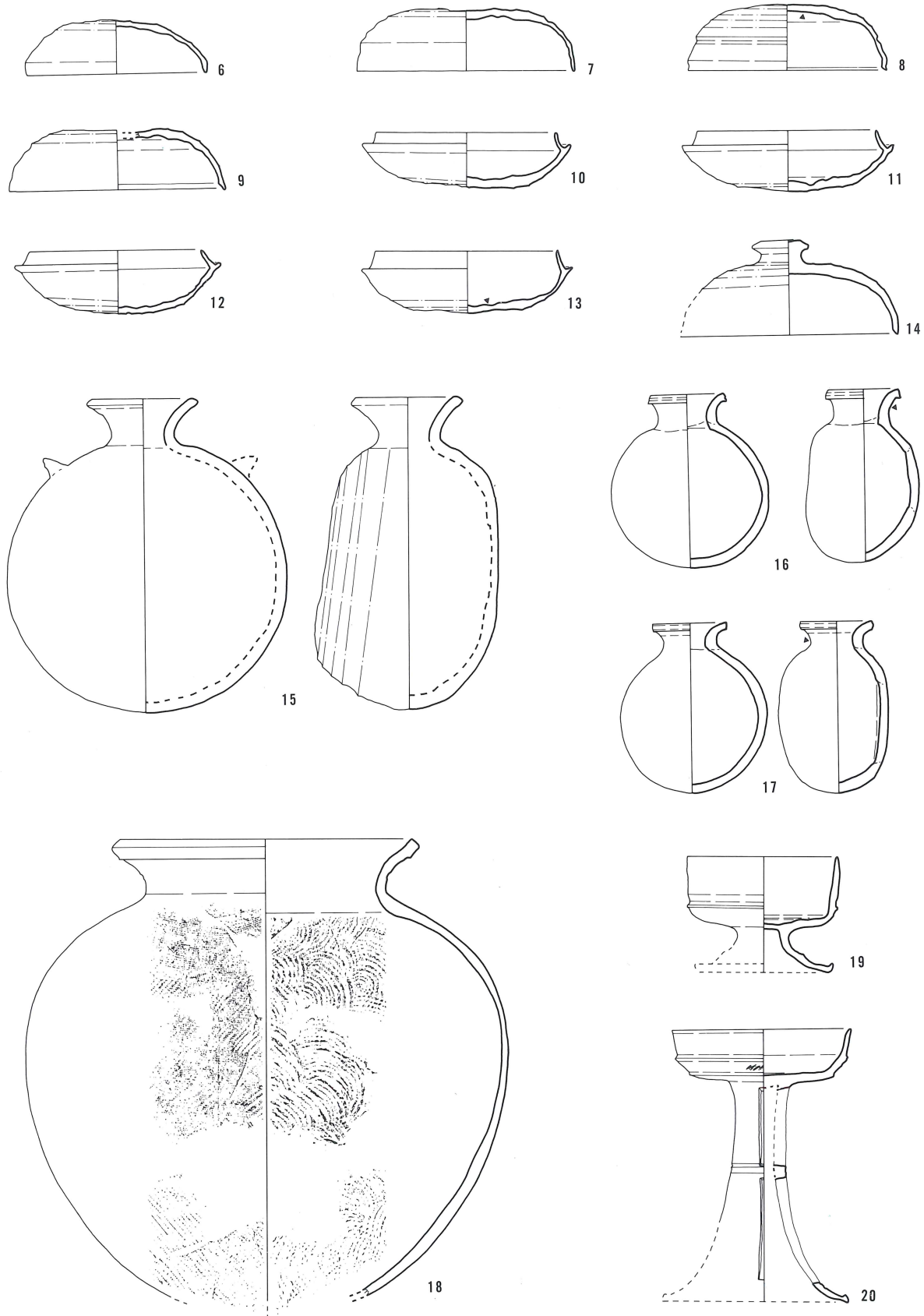
C群は第5層群中にあり、破碎散布状態で出土した。壺、坏身（第283図18、11）などがある。

これらの他に須恵器、土師器片が多数出土したが、下位層群からの遊離遺物も多く、本来の所属は明確でない。

（吉留秀敏）



第282図 49号横穴墓出土遺物実測図(1)



0 10 20cm

第283图 49号横穴墓出土遺物実測図(2)

第111表 49号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
6	坏蓋	・12.2 ・3.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	青灰色	細白色砂粒を含む	良好		
7	坏蓋	・14.8 ・4.2	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	淡赤紫色 黒紫色	2mm前後の白色砂粒を含む	良好		
8	坏蓋	・13.5 ・4.5	口縁部は外反しながらのび、端部は内傾する面をなす。外面にはうすい稜がみとめられる。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	灰色 黒灰色	1mm以上の石英粒を含む	良好		内面天井部「U」
9	坏蓋	・14.8 ・4.1	口縁部は外反しながらのび、端部は内傾する段をなす。天井部はやや高く平らである。	回転ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	青灰色 黄灰色	1～2mmの白色砂粒を含む	良好		
10	坏身	・12.4 ・3.6 ・14.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	灰紫色	1～2.5mmの白色砂粒を多量に含む。	良好		
11	坏身	・12.2 ・4.1 ・14.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸くややとがりぎみ。底部はやや浅く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	淡赤紫色 黒紫色	2mm前後の白色砂粒を多量に含む	良好		
12	坏身	・11.8 ・4.3 ・14.1	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部はやや肥厚しながら上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	黄灰色	2mm前後の白色砂粒を含む	良好		
13	坏身	・12.4 ・4.2 ・14.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	黄灰色	1～2mmの白色砂粒、黒色砂粒を含む	良好		内面底部「U」
14	坏蓋	・15.0 ・6.4	口縁部は外反しながらのび、端部は内傾する面をなす。天井部は高く丸みをおびる。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転ヘラケズリ	灰色	1～5mmの白色砂粒を少量含む	やや不良		
15	提瓶	・6.8 ・21.3 ・19.0	口頸部は外反しながらのび、端部は丸く面をなす。胴部は円形を呈し、外面両肩に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ回転カキ目	黄灰色	1～2mmの石英粒を含む	良好		
16	提瓶	・5 ・12 ・10.7	口縁部は外反しながらのび、端部は面をなしその中に沈線がある。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ回転カキ目	青灰色	1～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		外面口頸部「X」
17	提瓶	・5.1 ・11.8 ・10.0	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなす。胴部は円形を呈す。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ回転カキ目	青灰色	0.5mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		外面口頸部「X」
18	甕	・20.0 ・21.2 ・22.8	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し段をなす。胴部はほぼ円形を呈す。	回転ナデ同心円タタキ	回転ナデ回転カキ目平行タタキ	黄灰色	1～3mmの砂粒を含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	へら記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
19	高坏	・10.3 ・7.9	口縁部は直立してのび、端部はとがりぎみ。坏部は深く外面にはっきりした稜がみとめられる。脚部は下外方にのび、端部付近で外反し丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰白色	角閃石、黒色砂粒を少量含む	良好		
20	高坏	・12.2 ・18.6	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面には稜が2ヶ所みとめられる。	回転ナデ	回転ナデ 櫛描列点文	灰色	石英粒を含む	良好		
1	蓋	・7.1 ・3.7 ・11.4	口縁部は内傾してのび、端部は丸い。受部は丸みをおびる。外面頂部にツمامミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	1～3.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		

第112表 49号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頭部長(刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
2	鉄鏃	12.1	7.0	2.0	0.35	0.25	0.1	
3	同上	9.6以上	7.0	2.0	0.4	0.2	0.15	
4	同上	5.3以上	5.3以上	2.9	不明	0.2	不明	

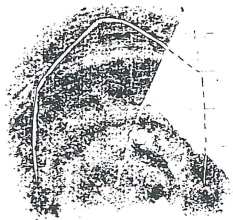
第113表 49号横穴墓出土玉類計測表

(単位：mm, g)

番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
20	管玉	碧玉	濃緑	23.5	10	3～1	4.4	片面穿孔



8



13



16



17

第284図 49号横穴墓出土土器へら記号

50号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

50号横穴墓は、北支群の東側に位置する斜面下位にあり、南西方向に開口する。開口部の標高は、約32.5mである。全長は4.5mを測り、主軸はN-56.5°-Eにとる。調査前の状況は、陥没等の落ち込みはなく、遺構の有無は前庭部の覆土の状態を確認した。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、上部のテラス状遺構の確認を行った。テラス状遺構は1号溝によってカットされており確認できなかった。なお、玄室内には埋葬人骨の遺存が確認されたため、九州大学医学部第2解剖学教室室員の協力の上で玄室内の調査を実施した。

2. 規模、構造

1) 前庭部、羨門部

a) 規模、構造 前庭部は長さ約2.5m、幅は入口付近で0.45m、羨門付近で約0.9mを測る。前庭部床面は若干凹凸があり、羨門に向かって約10°のゆるい角度で傾斜する。側壁の傾斜は両壁とも70°を測る。また羨門部壁の傾斜は約80°を測る。

羨門部は天井頂部が一部崩落しているもののほぼ完全に残存しており、高さ約0.6m、幅0.66mを測り、隅丸方形を呈する。羨門には赤色顔料が全面に塗布されている。

閉塞施設は、板石と河原円礫を用い、入念に構築されている。閉塞の配石は次の3工程に分けられる。第1工程は羨門の下部に河原円礫を3個置き、閉塞の基底を整える。第2工程はこの円礫の上に安山岩製板石を3枚使用し羨門を覆う。この3枚の板石裏面には赤色顔料が塗布されている。第3工程は、人頭大の河原石4個と大形の河原石2個を用いて第2工程の支えとしている。以上の配石によって前庭部の3分の1程の面積が埋る。この配石後前庭部全体を覆うように埋土がなされる。

b) 前庭部内埋土 前庭部内の堆積土はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり、全体で4層群8層に分層できた。

第1層群(Ⅳ層)は前庭部入口付近に1.3m前後の範囲に最も厚い場所で10cm程レンズ状に堆積する。基盤層の2次堆積土で玄室内構築時の排土あるいは48号横穴墓同様初葬時埋土と考えられる。

第2層群(Ⅲa～Ⅲc層)は羨門部より前庭部全体に厚い所で約1m程堆積する。第1層群をカットしている。基盤層の2次堆積土であり上層程風化が認められるがa層からc層までの明確な層区分は不可能である。本層は初葬時の埋土あるいは玄室内儀礼後の閉塞埋土とも考えられる。

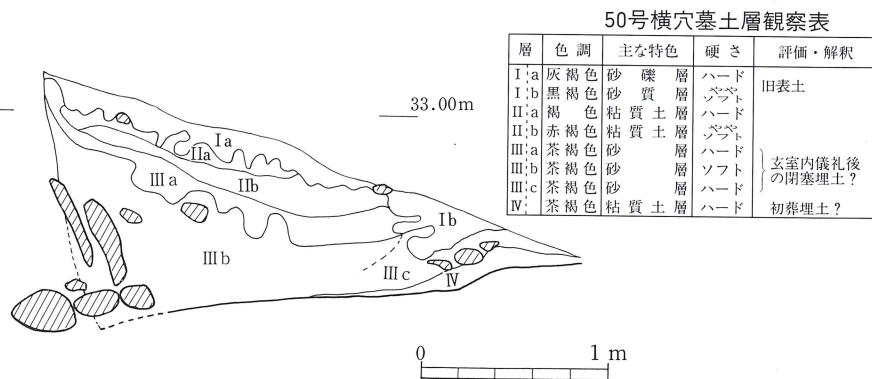
第3層群(Ⅱa・Ⅱb層)は羨門部上面より前庭部全体に厚い所で約30cm程斜めに堆積する。基盤層の2次堆積土であり第2層群とは明確な層区分はできない。

第4層群(Ⅰa・Ⅰb層)は羨門部最上部より前庭部全体に堆積したクロボク質の風化の著しい層である。

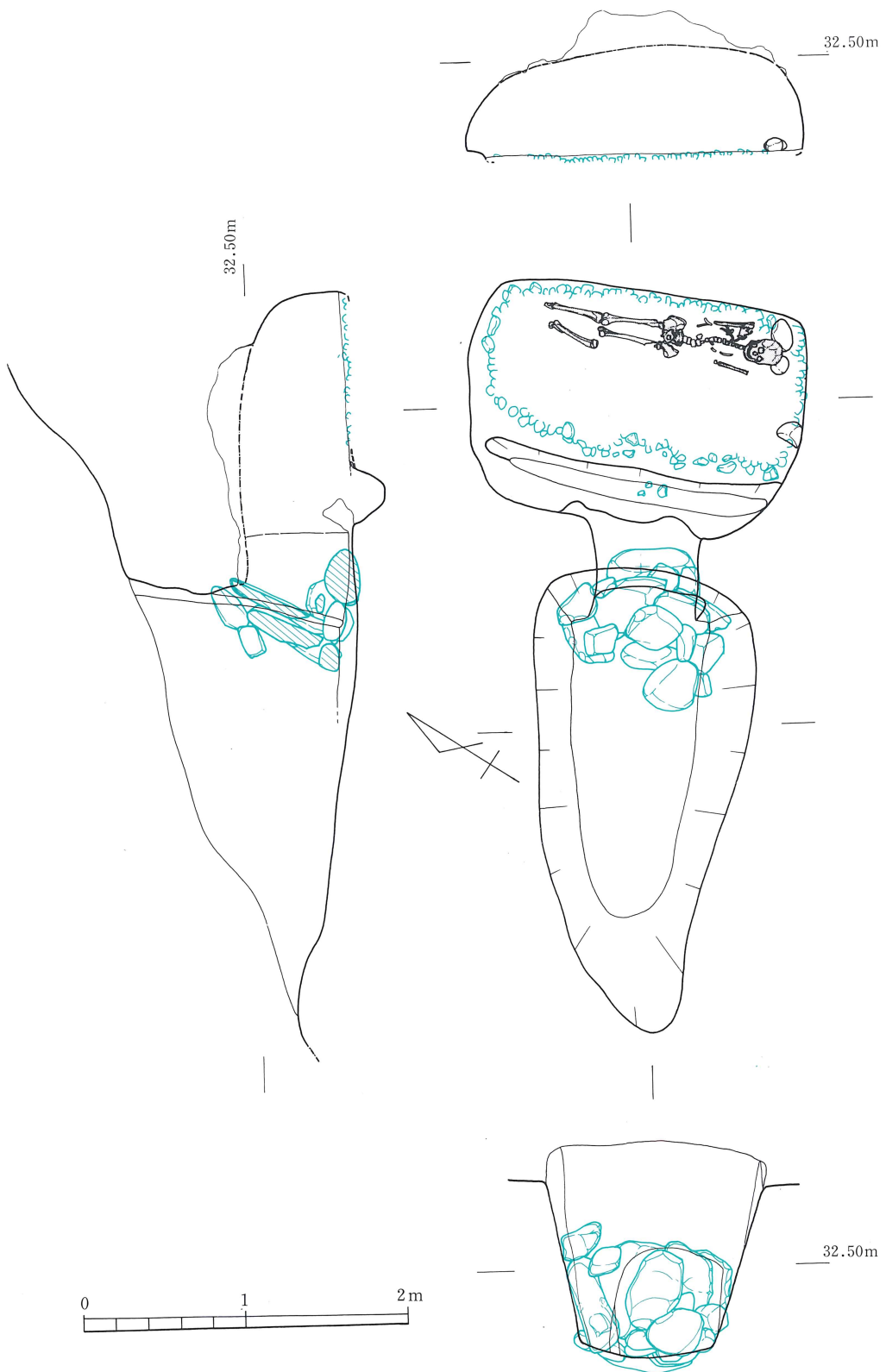
以上の土層観察結果から、本横穴墓では1度の埋葬以外に玄室内供献儀礼が行われた可能性もある。

2) 羨道、玄室

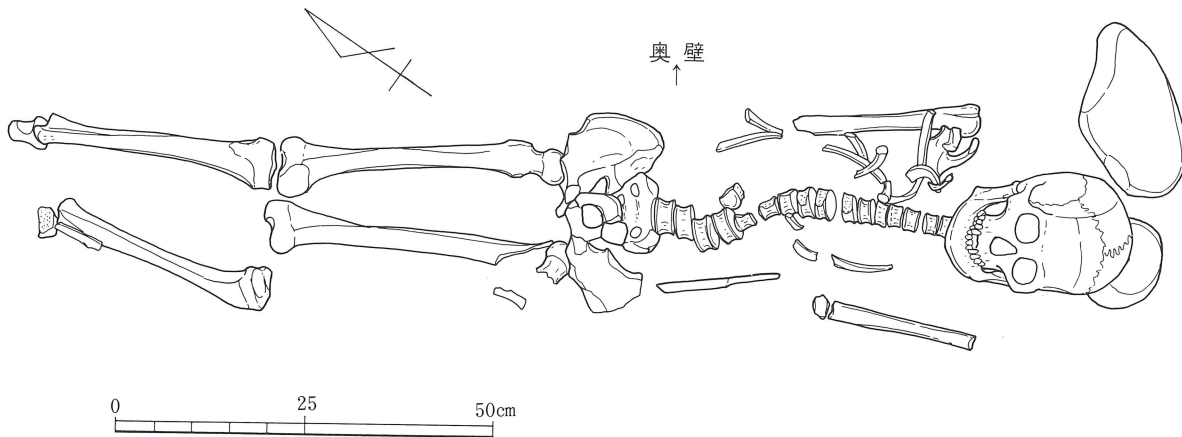
羨道部は床面で幅0.66m、長さ0.56mを測る。床面はほぼ水平で天井は若干崩壊しているが、玄室天井部とは段を持たずに続くと考えられる。玄室は、長さ1.45m、幅2.12mの隅丸長方形を呈す。天井部はほとんど崩落しているがドーム状を呈すと考えられ



第285図 50号横穴墓縦断土層図



第286图 50号横穴墓平·断面图



第287図 50号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態

る。奥壁及び玄室～羨道の側壁には幅6～8cm前後の鉄斧調整痕が認められ、その後赤色顔料を前面に塗布している。玄室と羨道との境には幅30cm、深さ25cmの排水溝を設けている。さらに奥壁に平行して、小砂利を利用した長さ2.0m、幅1.1mの礫床を設けている。本礫床の奥壁際と右側壁コーナー付近に人頭大の河原石を2個並べ石枕としている。玄室床面は標高約32mを測る。(村上久和)

3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

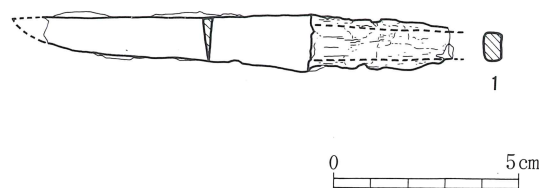
a) 埋葬人骨

奥壁に向かって右に頭位をとる成年男性の単体埋葬である。河原石を石枕とした上に頭を置き、小円礫による礫床上に仰臥伸展位で葬られている。上肢は左右とも前腕を欠く、下肢は、左脛骨が左へと転がっているが、軟部組織腐朽後に関節部が外れてやや動いたものとみられ、人為的な移動ではないと思われる。

副葬品としては、左前腕にあたる位置に刀子が置かれていた。(田中良之)

b) 副葬品 出土遺物は玄室中央付近で刃先を足方に向けた鹿角装刀子(第288図1)が一本のみである。

(村上久和)



第288図 50号横穴墓出土遺物実測図

第114表 50号横穴墓出土鉄器観察表

(単位: cm)

番号	器種	全長	頭部長 (刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
1	刀子	10.8以上	7.0以上	1.1	0.7	0.25	0.4	鹿角製柄残存

4. 50号横穴墓出土人骨の所見

保存良好な男性人骨一体が出土した。

〈保存部位〉

頭蓋骨：保存状態が非常に良く、ほぼ完全な頭蓋骨が得られている。赤色顔料の付着が認められる。残存歯牙の歯式は以下のとおりである。

$M^2 M^1 P^2 P^1 C I^2 I^1$	$I^1 I^2 C P^1 P^2 M^1 M^2$
$\times M_2 M_1 P_2 P_1 C \underbrace{I_2 I_1}$	$I_1 I_2 \underbrace{C} P_1 P_2 M_1 M_2 \bigcirc$

○ 歯槽開放 × 歯槽閉鎖 ㄣ 癒合

体部骨：上肢は骨端部が失われてはいるが、上腕骨、尺骨、橈骨が残存する。下肢は、大腿骨、脛骨、腓骨が残存する。躯幹の骨も比較的良く保存されている。

〈性別・年齢の推定〉

性別：頭蓋骨・四肢骨・骨盤とも明らかに男性の特徴を示している。

年齢：歯牙咬耗度は Broca の 2 度である。また、頭蓋主縫合の閉鎖は矢状縫合の外板の一部とみられる程度であるから、本人骨の年齢は成年から熟年になるころ（40才前後）と推定した。

〈形質〉

脳頭蓋の示数はそれぞれ、短頭型（ $M8/1=83.8$ ）、高頭型（ $M17/1=76.0$ ）、平頭型（ $M17/8=90.7$ ）に属している。顔面は平坦で比較的面長な特徴を有しており、上ノ原古墳人の中では最も渡来人的な顔貌をもった個体である。咬合型式は鋏状咬合である。頭蓋非計測的形質では、インカ骨、アステリオン骨（左右）、頭頂切痕（右）、副眼窩下孔（左右）が観察された。

また、大腿骨最大長からピアソンの式を用いて求めた推定身長は58.4cmであった。

〈特記事項〉

本人骨には下顎側切歯と犬歯が癒合した癒合歯が両側にみられた。

51号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

51号横穴墓は北支群の南端付近に位置し、ほぼ西方に開口する横穴墓である。斜面の上方、標高33.5m付近に設けられ、主軸をN-56.5°-Eにとる。調査時には玄室が道路直下にあったため、まず墓道のみ調査し、道路の移設後に玄室の調査を実施した。玄室は道路工事などにより、天井部が落盤し埋没していた。しかし、盗掘などはなかったとみられる。墓道は完全に埋没し、地表での痕跡は認められなかった。全体として保存状況は比較的良好であった。

2. 規模、構造

1) 墓道、羨門部

a) 規模、構造 墓道は先端部で二方向に別れており、埋土の観察からある時点で墓道の付け替えを行っていることが判った。最初の墓道は直線状に伸るが、墓道の先端部に53号横穴墓の玄室が設けられたため、それを迂回するためと推定された。当初の墓道は全長11.3m、羨門部で上部幅3.7m、底面幅1.8mを、墓道入口で上部幅1.6m、底面幅1.1mを測る。付け替えられた墓道は先端部から約1.5mの位置にあり、北西に伸びている。最初の墓道に対して約60°振れて約3.0mの長さを測る。付け替え部分の上部幅1.2m、底面幅0.6mを測る。壁高は最奥部の羨門付近で2.5mを測る。墓道の床面はほぼ平らで羨門に向かって約10°の傾斜で上る。なお、墓道入口から約7m羨門に寄った位置まで墓道幅は0.6~0.8mと狭く、その後羨門に向かってしだいに拡がり前庭部に達している。前庭部には基壇が両側にあり、その中央部に排水溝が掘られている。溝の端部付近が床面上でゆるい段となっている。排水溝には人頭大の河原円礫を蓋石として使用している。基壇は正方形に近く、基底で一辺約60cmで高さ50cmを測る。墓道の最奥部は約70°の傾斜をもつ壁となり、側壁とほぼ直角に接している。側壁の傾斜は下部で70~80°であり、上部で風化のためにややゆるくなっている。

羨門部分は比較的保存状態がよい。まず、羨門を囲んで約15~30cmの深さに逆U字形の額縁状の掘りこみを設けている。その高さは約0.8m、幅は下端で約1m、上端で約0.8mを測る。さらにその内側に高さ約0.7m、幅約0.5~0.8mの羨門が穿たれている。

閉塞施設は額縁状の掘りこみの少し内側に全体を覆うように構築されている。ただし、その後の土圧で閉塞全体が内部に動いているとみられた。この施設は追葬の過程で、再構築していることが明らかである。まず、排水溝の蓋石の上に人頭大の円礫を4個置く。その円礫を支えとして2枚の安山岩の板石を立て置き、羨門を塞いでいる。さらにこれを固定するように基底部前面に人頭大円礫を7個置いている。

b) 墓道内埋土 墓道内の堆積土壌はその性状から、比較的に明瞭な層区分が可能であり、全体で8層群19層に分層した。以下、堆積順に説明を加えたい。

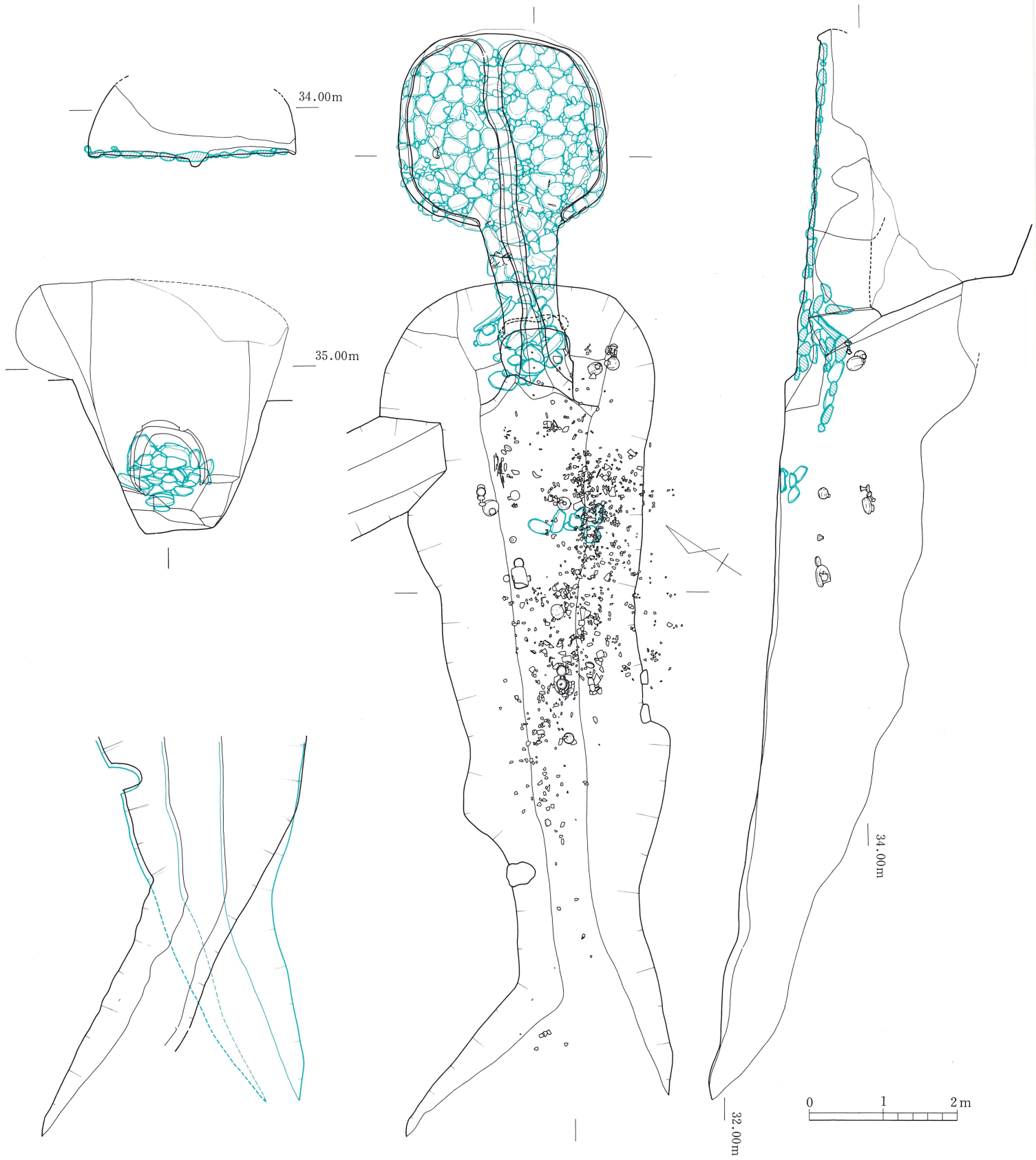
第1層群 (I a・b・c層) の最上部は調査前の表土である。それより下位は腐植土と基盤土の二次堆積土の互層である。中世の1号溝を覆っていることから、それ以後の堆積と推定される。

第2層群 (II a・b層) は下部に墓道埋土中最も厚く、安定した腐植土層を形成する。腐植土は40~50cmある。1号溝は本層群の上面において検出した。

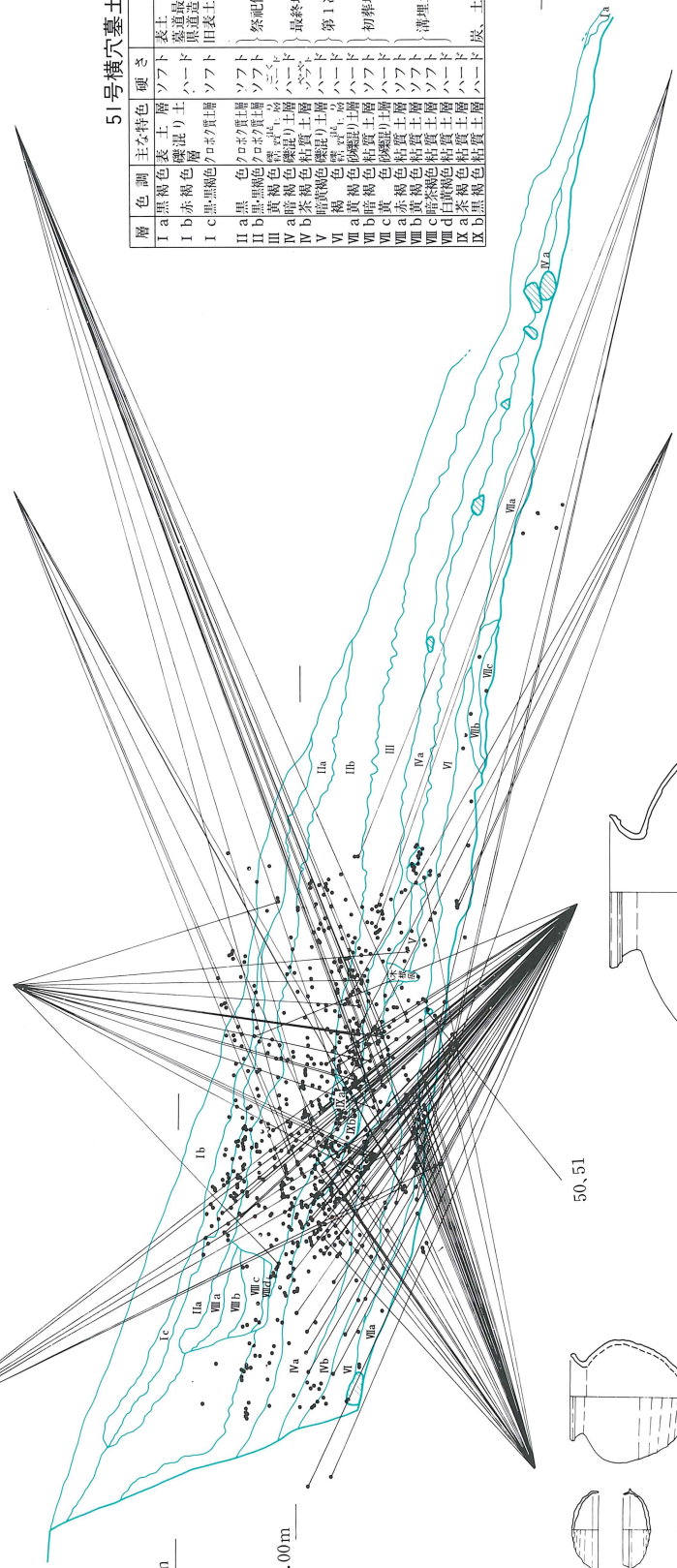
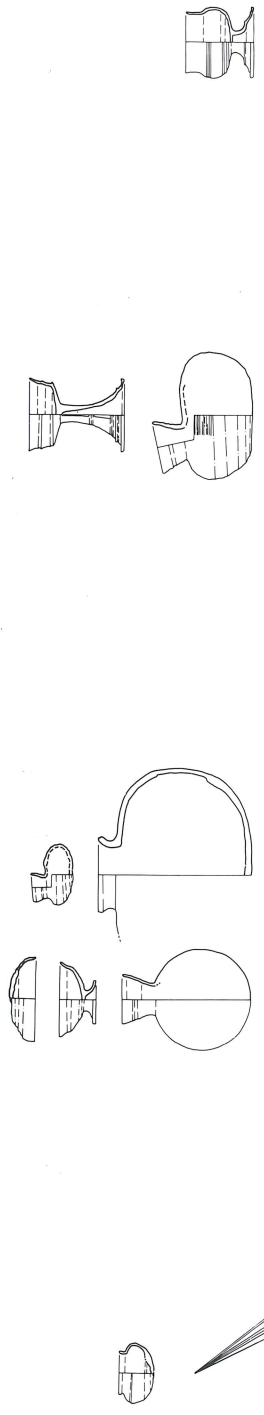
第3層群 (III層) は固くしまった粘質土層であり、人為的な埋土とみられた。墓道先端付近ではやや軟質となり、この部分では二次的な風化が予測された。層厚20~40cm、また、本層上面の羨門から約3cmの位置に幅約80cm、深さ約30cmの土坑 (IX a、b層) が検出された。性格は不明である。最終埋葬後の儀礼時の埋土と考えられる。

第4層群 (IV a・b層) は風化のやや進んだ礫混じりの粘質土層である。全体によくしまっているが、本層群上位に特に固い面があり、何らかの遺構面と推定される。本層群は遺物B・C群を包含する。

第5層群 (V・VI層) は墓道全体に堆積する礫混じりの粘質土層である。墓道先端付近で閉塞の一部とみられる人頭大の円礫を多く出土する。全体に固くしまり、本層群直下に馬具や須恵器などを出土した。また、本層群

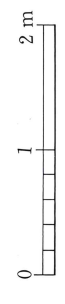
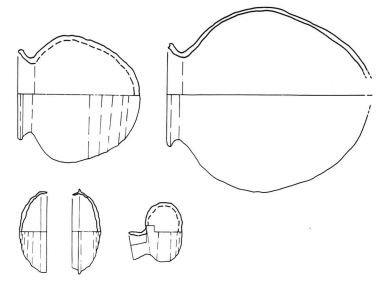


第289图 51号横穴墓平·断面图



51号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価	解釈
I a	黒褐色	表土層	ソフト	表土	築造時上部を埋める一括土層
I b	赤褐色	築造り土層	ハード	築造り土層	築造り土層
I c	黒褐色	プロシテリ層	ソフト	表土	築造り土層
II a	黒褐色	プロシテリ層	ソフト	表土	築造り土層
II b	黒褐色	プロシテリ層	ソフト	表土	築造り土層
III	黄褐色	粘質土層	ハード	粘質土層	祭祀儀礼埋土
IV a	暗褐色	粘質土層	ハード	粘質土層	最終埋葬埋土
IV b	暗褐色	粘質土層	ハード	粘質土層	最終埋葬埋土
V	暗褐色	粘質土層	ハード	粘質土層	第1次埋葬埋土
VI a	黄褐色	粘質土層	ソフト	粘質土層	初葬埋土
VI b	黄褐色	粘質土層	ソフト	粘質土層	初葬埋土
VII a	暗褐色	粘質土層	ソフト	粘質土層	初葬埋土
VII b	暗褐色	粘質土層	ソフト	粘質土層	初葬埋土
VIII a	暗褐色	粘質土層	ソフト	粘質土層	初葬埋土
VIII b	暗褐色	粘質土層	ソフト	粘質土層	初葬埋土
IX a	暗褐色	粘質土層	ソフト	粘質土層	初葬埋土
IX b	暗褐色	粘質土層	ソフト	粘質土層	初葬埋土



第290図 51号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

上部に遺物A群が分布する。第1次追葬時埋土と考えられる。

第6層群（Ⅶa・b・c層）は羨門直下から墓道側8.5mの範囲に堆積している。上部はやや汚れているが、下部は未風化の地山の二次堆積土からなる。初葬時の埋土と考えられる。

2) 羨道、玄室

羨道、玄室ともに天井部は壊れていたものの、壁面、床面は比較的保存がよかった。羨道部床面は長さ1.7m、幅0.7～1mであり、奥に向かって広がる。玄室は長さ2.5m、幅2.9mの隅丸方形を呈し、床面には幅約20cmの排水溝が周壁および中央に設けられている。周壁の溝は奥壁で中央の溝に合流し、羨門へ抜けている。床面は僅かに奥壁が高く、玄室、羨道全体に河原石が敷きつめられている。河原石は人頭大以上のやや平らなものを、まず排水溝に沿って配列し、次にその間を埋めるように配石している。石の隙間は拳大の河原石を詰めている。床面において羨道と玄室の区分はない。

天井部は崩落のために高さなどは不明であるが、壁面からの復元では約1.0mとみられ、ドーム形を呈すると推定される。

3. 遺物の出土状態

1) 玄室、羨道内

遺物は羨道部から玄室右側の敷石の床面や石間に集中して出土した。まず羨道部ではやや左側に寄って鉄鏃5点（第295図75、88～91）、玄門付近で同2点（第295図76～77）、玄室右側に鉄鏃、刀子（第295図92～96）などが出土した。また、中央羨門寄りから刃先を奥壁方向に向け主頭大刀及び不明金具（第296図99、101）が出土した。

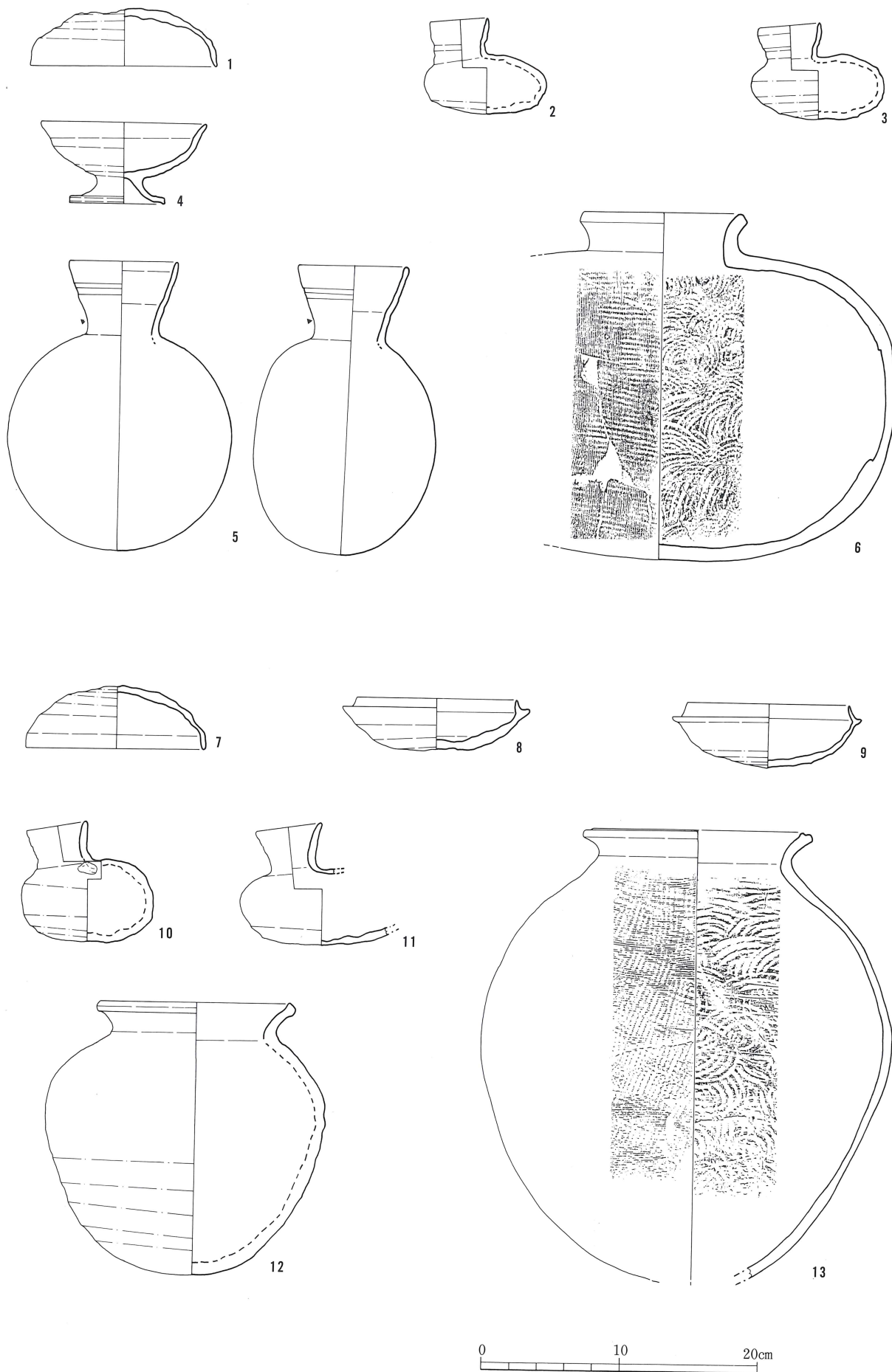
2) 墓道内

羨門から入口方向に4.0から6.5mの範囲の第5層群上部に遺物A群がある。壺1、甕1、平瓶2、高坏1、坏蓋1、坏身2、柑1（第291図7～13、第292図19、第293図32）などの須恵器と鉄鏃1、鉄斧1（第293図44、第294図46）の鉄器から構成される破砕を伴う配列埋置状態である。まず、墓道中央の標高32.85mに東から壺、平瓶、甕、平瓶が置かれる。このうち中央よりの平瓶と甕は破砕される。全体を埋めながらこの周囲に破砕された坏、高坏、柑などの破片と折り曲げられた鉄鏃が置かれる。最後に破砕された甕の上部を中心に坏身2と坏蓋1が蓋を開けた状態で置かれる。

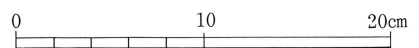
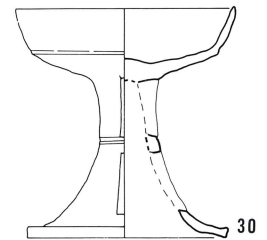
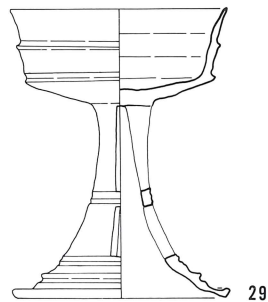
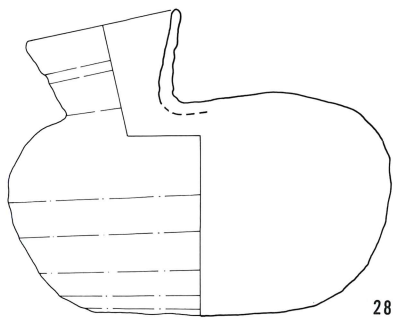
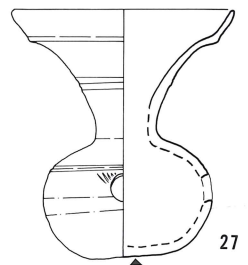
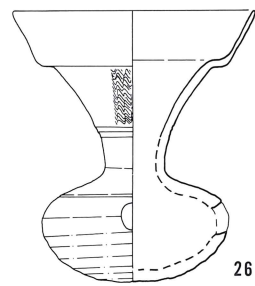
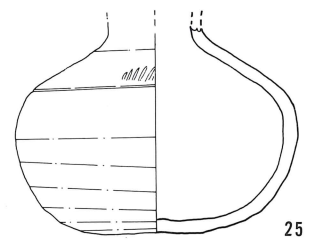
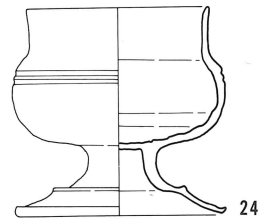
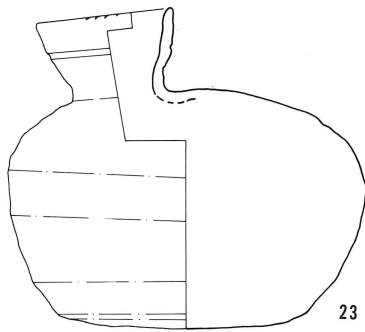
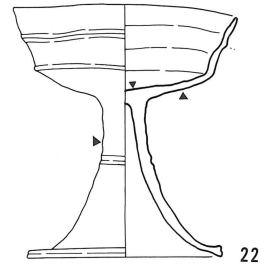
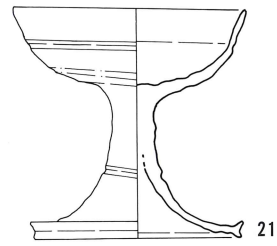
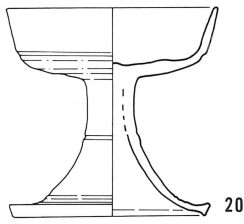
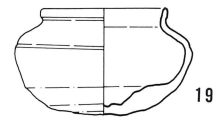
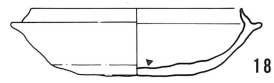
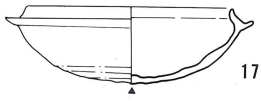
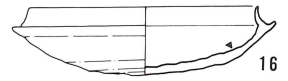
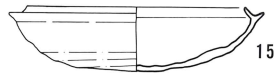
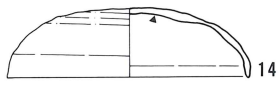
遺物B群は羨門から入口方向に1.5mから3.5mの範囲にあり、第4層群中位～上位に分布する配列埋置状態である。横瓶1、平瓶3、提瓶1、高坏2、坏蓋1（第291図1～3、5、6、第292図28～30）などからなる。ほとんどが完成品であり、やや乱雑に人頭大円礫16個と共に置かれている。また、本群と羨門の間に甕1と高坏2（第292図21、22、26）が同一面で出土したが、やや離れているため含めていない。本層群直下に馬具（第294図48～57）、東側に近接して鉄鏃（第295図58～78）などが出土したが、本遺物群に伴うかは不明であり最終埋葬時に玄室から掻き出されたものとする。

遺物C群は羨門から約0.6mの位置にあり、第4層群中位にある。横瓶1、平瓶1（第292図23、第293図31）からなる。何れも完形品であり正置している。近接して鉄鏃1（第293図42）が出土したが、一連のものは不明である。

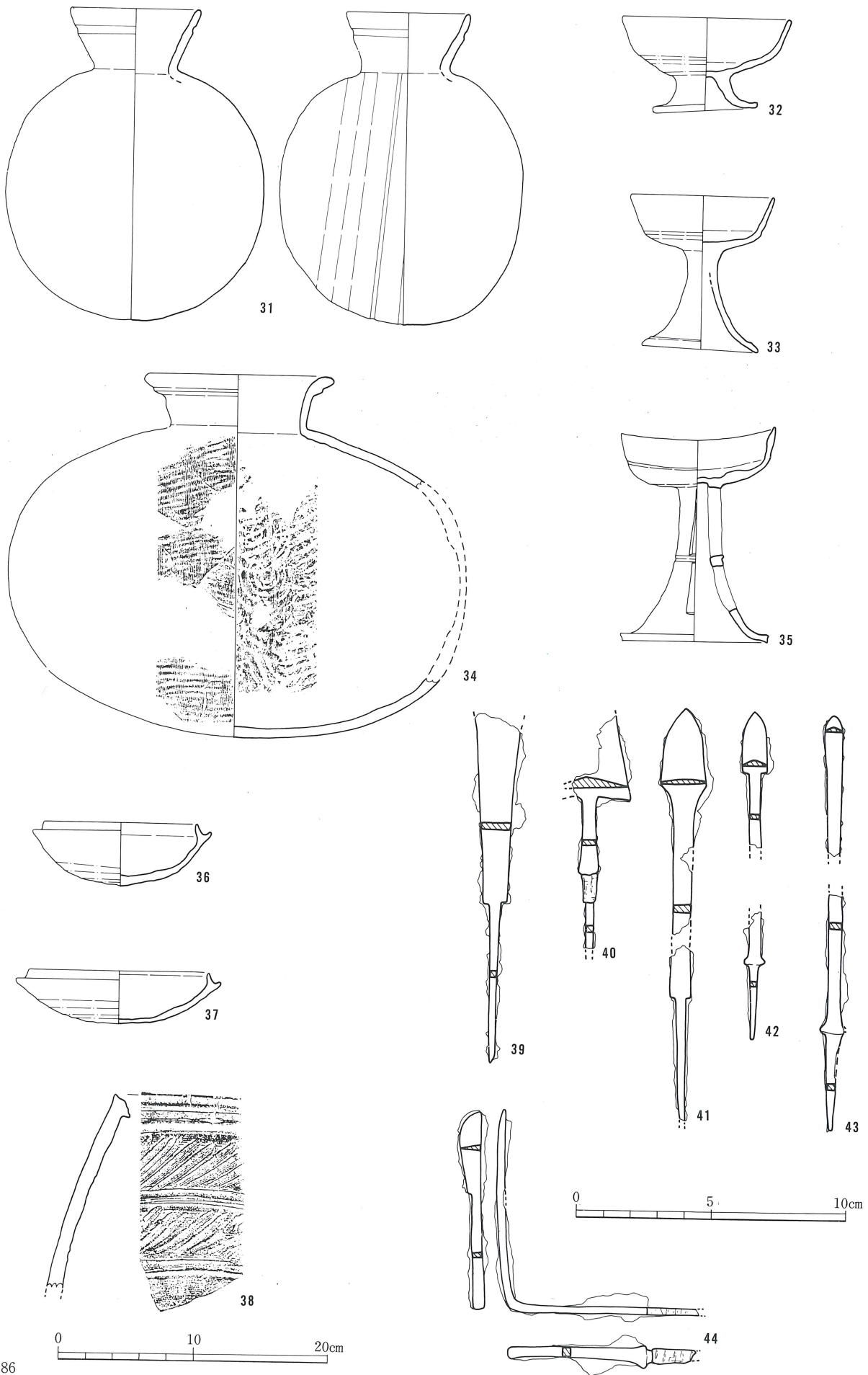
この他に第Ⅱ～Ⅲ層に多量の遺物が出土した。全て破砕したものであり、甕を主体に各種の須恵器類が含まれる。また、最下部層を除く各層に須恵器片が出土した。（吉留秀敏）



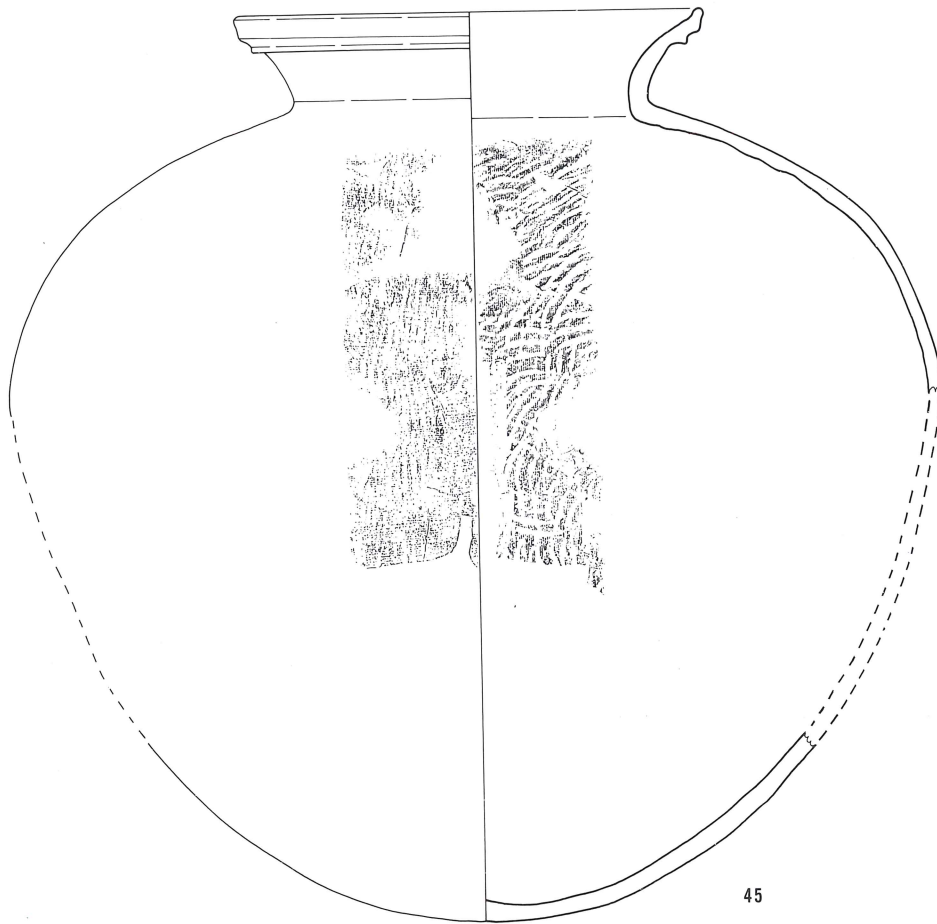
第291图 51号横穴墓出土遺物実測図(1)



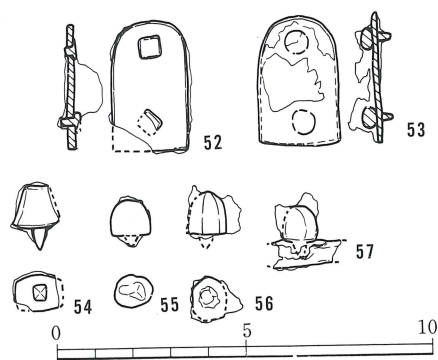
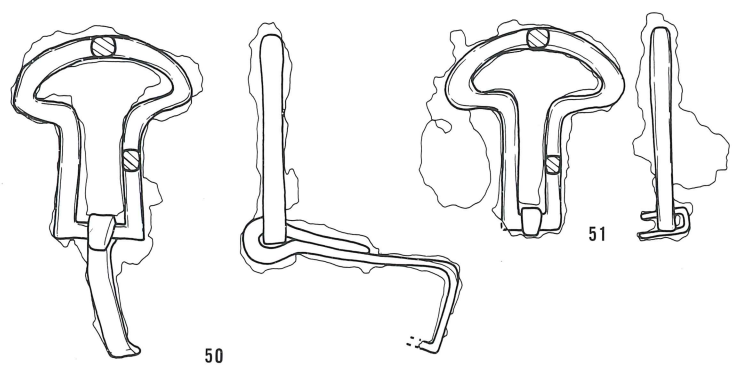
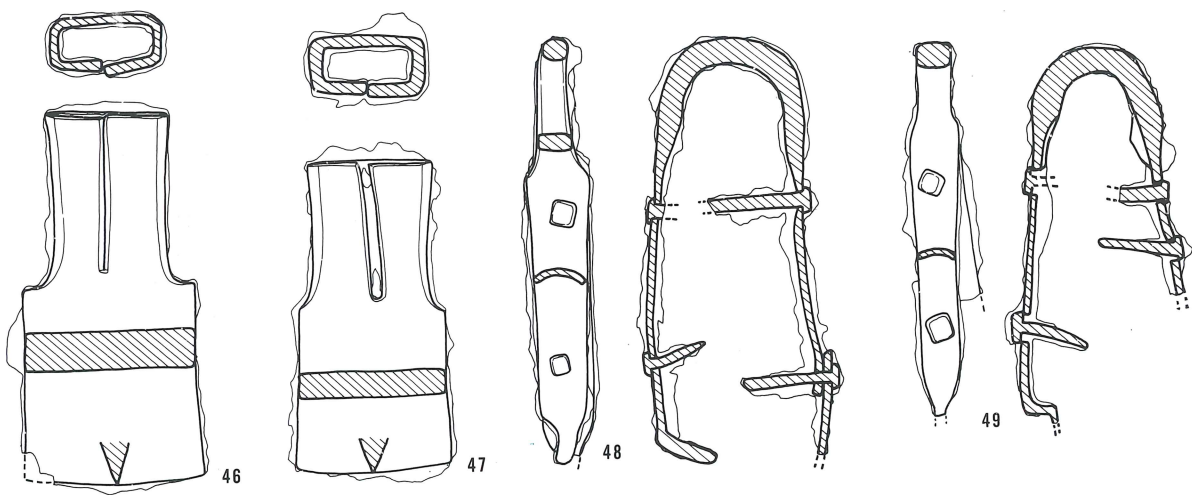
第292图 51号横穴墓出土遗物实测图(2)



第293图 51号横穴墓出土遗物实测图(3)

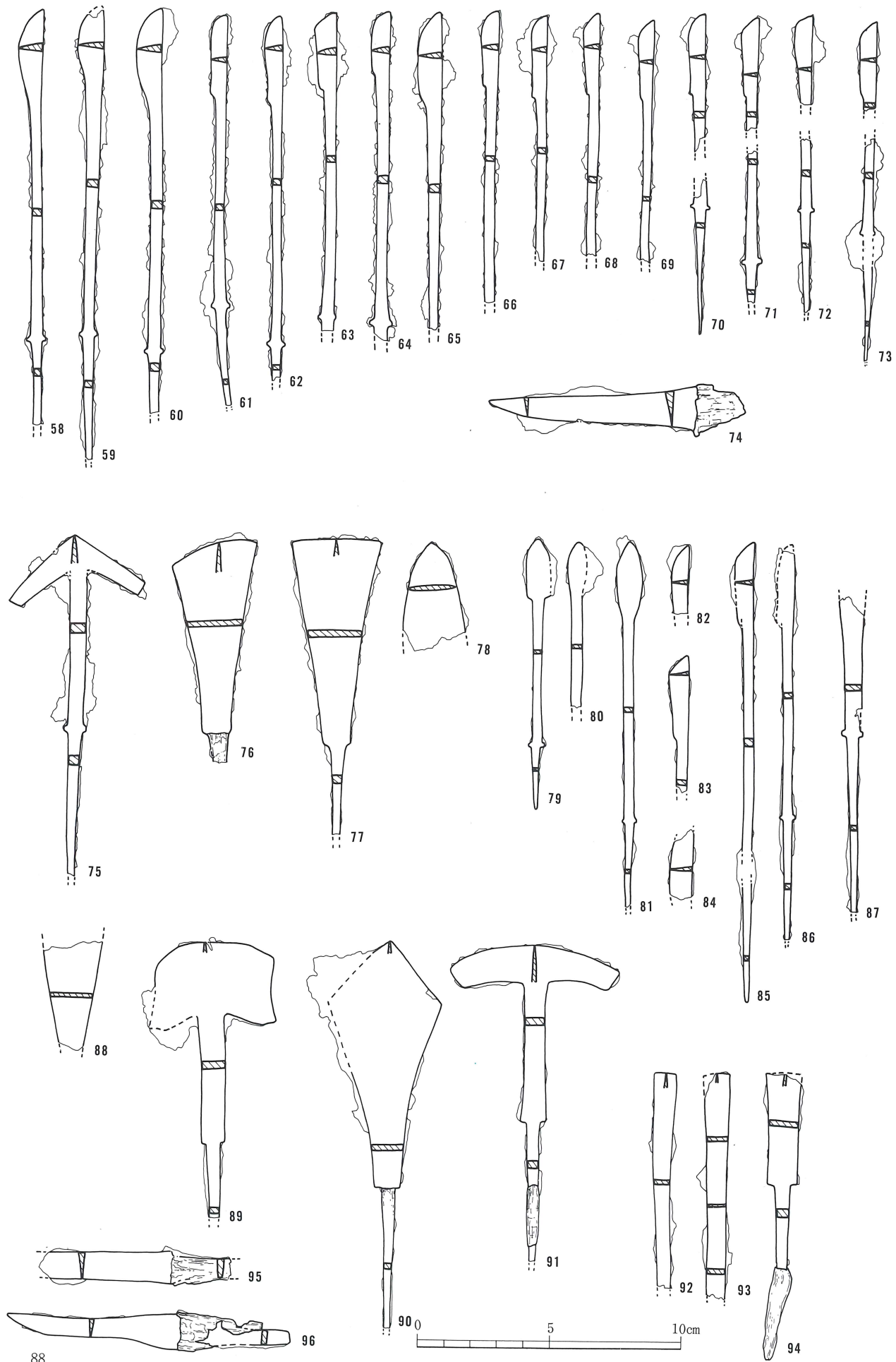


0 10 20cm

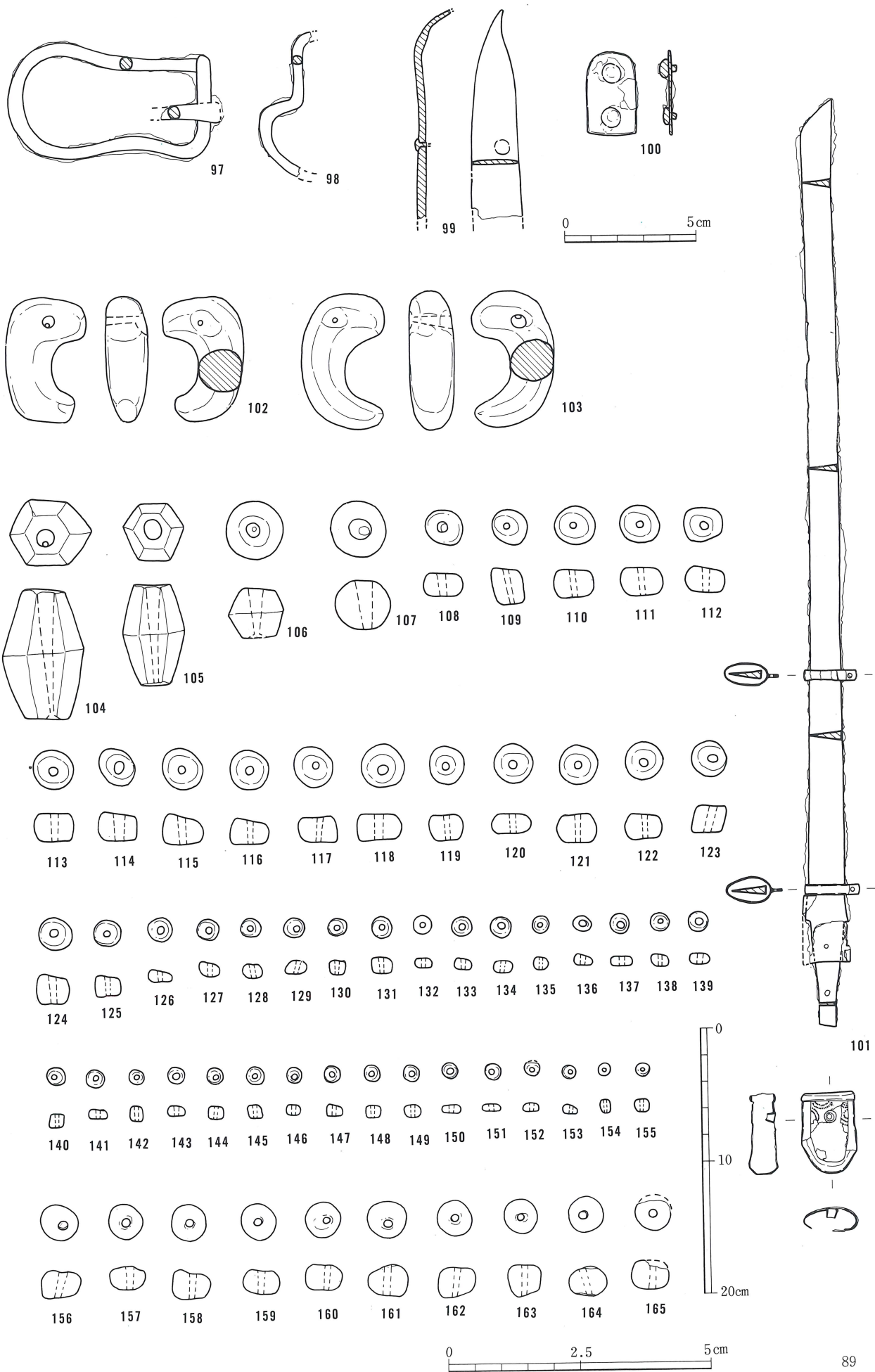


0 5 10cm

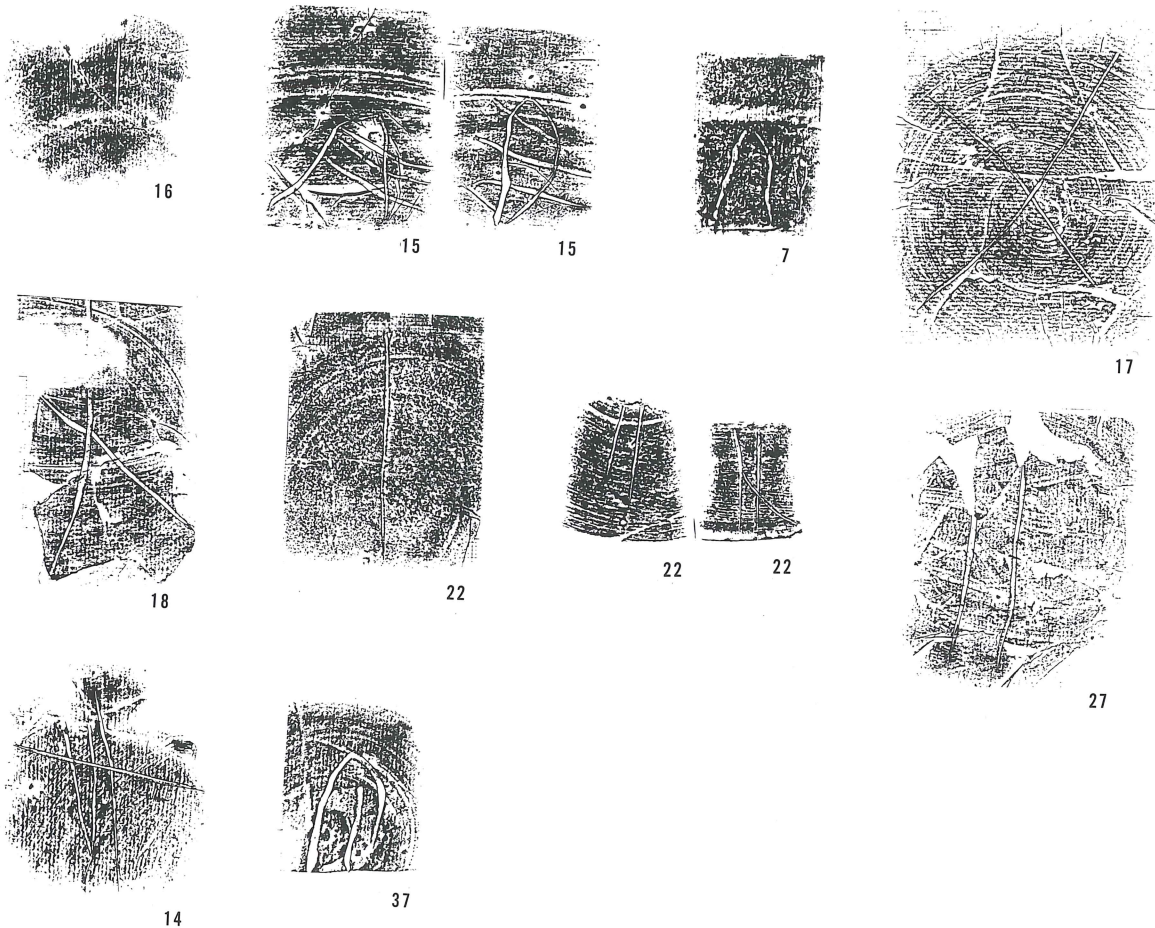
第294图 51号横穴墓出土遗物实测图(4)



第295图 51号横穴墓出土遗物实测图(5)




第296图 51号横穴墓出土遗物实测图(6)



第297図 51号横穴墓出土土器へラ記号

第115表 51号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量	形態の特色	技法の特色					備考	へラ記号の有無
		・口径 ・器高 ・胴部最大径		内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	坏蓋	・13.4 ・4.0	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	白色砂粒、 黒色砂粒を 含む	良好		
2	平瓶	・4.1 ・7.1 ・8.8	口頸部はほぼ直立してのび、端部は丸い。胴部は楕円形を呈し底部はやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目 回転ヘラケズリ	淡青灰色	白色砂粒を 含む	良好		
3	平瓶	・4.1 ・7.1 ・8.8	口頸部は外反しながらのび、端部は丸く外面に1本の沈線がある。胴部は楕円形を呈し、底部は平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目 回転ヘラケズリ	黄灰色 黒灰色	1～2mmの 石英粒を多 量に含む	良好		
4	高坏	・12.0 ・5.8	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。坏部はやや深い。脚部は短く下外方へのび、端部は面をなす。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5～3mm の白色砂粒 を含む	良好		
5	提瓶	・7.8 ・20.8 ・15.9	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色 黒灰色	0.5～2mm の白色砂粒 を少量含む	良好		外面口頸部の2ヶ所「  」

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
6	横瓶	・12.0 ・24.8	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなす。胴部は楕円形を呈すと思われる。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ 平行タタキ 後回転カキ目	灰白色	1mm前後の 白色砂粒、 黒色砂粒含 む	不良		
7	坏蓋	・12.8 ・4.5	口縁部は外反しながらほぼ直下にのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色 淡灰茶色	白色砂粒を 含む	良好		
8	坏身	・11.4 ・3.7 ・13.4	たちあがりはほぼ直立してのび、端部は細くなりとがりぎみ。受部はほぼ水平にのび端部は丸い。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	1~2mmの 白色砂粒を 含む	良好		
9	坏身	・11.6 ・4.7 ・13.7	たちあがりは内傾してのび、端部は細い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色 淡茶灰色	白色砂粒、 黒色砂粒を 含む	良好		
10	平瓶	・4.3 ・8.7 ・9.5	口頸部はわずかに外反しながらのび端部は丸い。胴部は楕円形を呈し、底部は丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	黄灰色 暗灰色	2mm前後の 白色砂粒を 含む	良好		
11	平瓶	・4.8 ・8.8 ・10.8+α	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色 暗灰色	0.5mm前後 の石英粒を 多量に含む	良好		
12	壺	・13.7 ・19.8 ・20	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなすが丸みをおびる。胴部の最大径は上方にある。底部は丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ 平行タタキ 回転カキ目	黄白色	1mm前後の 白色砂粒、 黒色砂粒を 多量に含む	不良		
13	甕	・16.4 ・32.2+α ・29.4	口頸部は外反しながらのび、端部は丸く凹面をなす。胴部は長円形を呈し、最大径はやや中央部にある。	回転ナデ 同心円タタ キ	回転ナデ 格子目文後 回転カキ目	灰白色	白色砂粒 黒色砂粒を 含む	不良		
14	坏蓋	・12.8 ・3.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	1mm以下の 角閃石、白 色砂粒を含 む	良好		内面天井部「卍」
15	坏身	・11.3 ・4.6 ・13.3	たちあがりは細く内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	白色砂粒を 含む	良好		
16	坏身	・12 ・3.6 ・13.3	たちあがりはほぼ直立してのび、端部は丸い。底部は浅く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	1mm前後の 石英粒を含 む	良好		内面底部「 」
17	坏身	・10.9 ・4 ・13.1	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰白色 暗灰色	白色砂粒、 黒色砂粒を 含む	良好		外面底部「X」

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	へら記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
18	坏身	・11.0 ・3.6 ・13.3	たちあがりは内傾してのび、端部はとがる。受部は水平にのび、端部は丸い。底部はやや浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	白色砂粒、 黒色砂粒を 含む	良好		内面底部 「X」
19	柑	・6.7 ・5.7 ・9.5	口頸部は短く肥厚しながらのび、端部は丸い。胴部は楕円形を呈し、底部は丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	0.5～4mm の白色砂粒 を含む	良好		
20	高坏	・11.2 ・11.3	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面には稜がうすくみられる。脚部は上外方にのび、端部は面をなす。外面中央部に1本の沈線がある。	回転ナデ	回転ヘラケ ズリ	青灰色	1～3.5mm の白色砂粒 を含む	良好		
21	高坏	・12.3 ・12.4	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。坏部の外面にうすい稜がみられる。脚部は下外方にのび、端部は凹面をなす。外面中央部に1本の沈線がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	黒褐色 黒色	1mm前後の 白色砂粒を 含む	良好		
22	高坏	・12.2 ・13.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。坏部外面に2本の稜がみられる。脚部は下外方にのび、端部は凹面をなす。外面中央部に1本の沈線をなす。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色 灰黒色	白色砂粒 黒色砂粒を 含む	良好		坏部内面 底部「I」 坏部外面 底部「II」 脚部外面 「K」
23	平瓶	・7.2 ・16.5 ・18.8	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は楕円形を呈し、底部は丸みをおびる。	回転ナデ 口縁部に刻 目	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	黄灰色 暗灰色	白色砂粒、 黒色砂粒を 含む	良好		
24	脚付柑	・9.6 ・11.1 ・11.2	口縁部は直立してのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し、外面上部に2本の沈線がある。脚部は下外方にのび、端部付近でわずかに外反し丸い。外面中央部に凸面をなす。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色 淡黄灰色	0.5mm前後 の石英粒を 多量に含む	良好		
25	壺	・11.9 ・11.0	胴部は楕円形を呈し、底部は平らである。	回転ナデ	回転ナデ 櫛描列点文 回転カキ目 回転ヘラケ ズリ	灰色 黒灰色	0.5mm前後 の砂粒を多 量に含む	良好		
26	甗	・12.8 ・14.6 ・9.9	口頸部は外反しながらのび、端部付近で屈曲し端部は丸い。外面中央部に2本の沈線がある。胴部は楕円形を呈し、底部は丸みをおびる。	回転ナデ	回転カキ目 波状文回転 ナデ 櫛描列点文 回転ヘラケ ズリ	青灰色	1～5mmの 白色砂粒を 少量含む	良好		
27	甗	・11.7 ・13.1 ・9.0	口頸部は外反しながらのび、端部付近で屈曲し、その外面に稜をなす。端部は丸い。外面中央部には3本の沈線をもつ。	回転ナデ	回転ナデ 静止ヘラケ ズリ クシ目	灰紫色	精緻	良好		外面底部 「II」
28	平瓶	・8.0 ・16.2 ・20.2	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は楕円形を呈し、底部はやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色 黒灰色	白色砂粒を 含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
29	高坏	・11.6 ・15.2	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面には2本の稜がみられる。脚部は下外方にのび、端部は肥厚し面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 黒色 黄灰色	1mm前後の石英粒、黒色砂粒を含む	良好		
30	高坏	・11.6 ・12.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。坏部はやや浅く外面に稜がみられる。端部は面をなす。2方向に2段スカシがある。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	0.5～2mmの白色砂粒を少量含む	良好		
31	提瓶	・9.3 ・23.0 ・18.8	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面のやや上方に1本の沈線があり、胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	暗茶褐色 黄灰色	0.5～2mmの白色砂粒を少量含む	良好		
32	高坏	・12.2 ・6.9	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。脚部は下外方にのび、端部は丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～3.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
33	高坏	・10.5 ・11.3	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面にうすく稜がみられる。脚部は下外方にのび、端部は丸く、外面はやや肥厚している。	回転ナデ	回転ナデ 所々に回転カキ目	青灰色	1～2mmの白色砂粒を少量含む	良好		
34	横瓶	・14 ・26.5	口頸部はわずかに外反しながらのび、端部は凹面をなし丸い。胴部は楕円形を呈す。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ タタキ後カキ目	灰黒色	石英粒を含む	良好		
35	高坏	・11.3 ・14.9	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。坏部はやや浅い。脚部は下外方にのび、端部は凹面をなす。外面中央部に1本の沈線があり、長方形2段スカシが2方向にある。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色 暗灰色	白色砂粒 黒色砂粒を多量に含む	良好		
36	坏身	・11.3 ・4.6 ・13.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色 茶灰色	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		
37	坏身	・13.4 ・3.9 ・15.4	たちあがりは短くして直立のび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	精緻	良好		外面底部「○」
38	甕	・— ・— ・—	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなす。外面には2本の沈線が2ヶ所にみとめられる。	回転ナデ	回転ナデ ヘラ状のもので模様をつける	青灰色 暗青灰色	精緻	良好 堅緻		

第116表 51号横穴墓出土鉄器観察表

(単位: cm)

番号	器種	全長	頭部長 (刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
39	鉄鏃	12.8以上	6.9以上	不明	0.3	0.25	0.3	
40	同上	8.5以上	3.0以上	不明	0.5	0.4	0.2	木質残存
41	同上	14.7以上	3.7	1.8	0.7	0.2	0.3	
42	同上	9.8以上	2.2	0.9	0.4	0.25	0.2	
43	同上	13.8以上	2.1	0.65	0.45	0.15	0.25	
44	同上	14.2以上	3.0	0.8	0.4	0.2	0.2	
46	鉄斧							
47	同上							
48	馬具							U字形金具
49	同上							同上
50	同上							鞍金具
51	同上							同上
52	同上							留金具
53	同上							同上
54	同上							同上
55	同上							同上
56	同上							同上
57	同上							同上
58	鉄鏃	15.6以上	4.0	0.9	0.4	0.3	0.3	
59	同上	16.8以上	2.9以上	0.9	0.45	0.3	0.35	
60	同上	15.1以上	4.1以上	0.95	0.45	0.3	0.35	
61	同上	14.6以上	3.0	0.6	0.4	0.25	0.23	
62	同上	13.6以上	3.2	0.7	0.35	0.25	0.25	
63	同上	11.9以上	2.8	0.7	0.4	0.25	0.25	
64	同上	12.0以上	2.4	0.7	0.4	0.25	0.3	
65	同上	11.8以上	3.4	0.9	0.4	0.3	0.3	
66	同上	10.9以上	2.8	0.7	0.35	0.2	0.2	
67	同上	9.2以上	3.1	0.6	0.4	0.2	0.25	
68	同上	9.0以上	3.0	0.6	0.35	0.15	0.2	
69	同上	8.9以上	2.9	0.6	0.35	0.15	0.15	
70	同上	10.8以上	3.0	0.6	0.4	0.15	0.2	
71	同上	9.8以上	2.8	0.6	0.35	0.1	0.15	
72	同上	9.8以上	2.8	0.55	0.35	0.1	0.2	
73	同上	11.6以上	2.8	0.65	0.35	0.1	0.15	
74	刀子	9.7以上	7.7	1.0	不明	0.2	不明	鹿角製柄の残存
75	鉄鏃	12.7以上	1.2		0.55	0.35	0.4	
76	同上	8.4以上	7.1	3.3	不明	0.25	不明	木質残存
77	同上	11.0以上	7.8	3.4	0.4	0.25	0.3	
78	同上	4.0以上	4.0以上	2.3以上	不明	0.15	不明	
79	同上	10.0	2.3	0.95	0.35	不明	0.1	
80	同上	6.1以上	1.8	0.75	0.3	不明	0.1	
81	同上	13.6以上	2.8	1.0	0.4	不明	0.15	
82	同上	6.5以上	2.5以上	0.65	不明	0.1	不明	
83	同上	5.1以上	3.1	0.8	0.35	0.1	0.15	
84	同上	2.5以上	2.5以上	0.9	不明	0.15	不明	

番号	器種	全長	頭部長 (刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
85	鉄鏃	17.2	2.9	0.8	0.4	0.15	0.3	
86	同上	14.3以上	2.7以上	0.6	0.4	不明	0.2	桜樹皮巻残存
87	同上	11.8以上	5.1以上	0.9以上	0.4	0.2	0.15	
88	同上	4.0以上	4.0以上	2.2以上	不明	0.15	不明	
89	同上	10.3以上	2.8	4.4	0.9	不明	0.3	
90	同上	14.5以上	9.3	4.3	0.3	不明	0.2	木質残存
91	同上	11.9以上	1.5		0.8	0.2	0.3	同上
92	同上	8.1以上		0.85	0.5	0.1	0.2	
93	同上	8.4以上		1.0	0.7	0.1	0.2	
94	同上	10.8	4.2	1.4	0.4	0.1	0.4	木質残存
95	刀子	7.2以上	5.0以上	1.0	0.7	0.2	0.3	鹿角製柄残存
96	同上	10.6	6.5	0.7	0.6	0.15	0.2	同上
97	馬具							鉸具
98	同上							鞍金具の一部
99	同上							U字形金具
100	同上							留金具
101	直刀	69.7	61.6	2.3	2.5	0.6	0.2	圭頭部と佩用金具が付き 圭頭部には二重半内文

第117表 51号横穴墓出土玉類計測表

(単位：mm, g)

番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
102	勾玉	メノウ	橙褐	23	8.5(最大幅)	2~0.5	4.05	片面穿孔
103	〃	〃	〃	25.5	〃	〃	4.65	〃 稜がある
104	切子玉	水晶	透明	25	15.5	3~1	6.55	〃
105	〃	〃	〃	19	12	〃	3.3	〃
106	算盤玉	〃	〃	12	9.5	2.5~1	1.2	〃
107	丸玉	ガラス	藍	10	9	4~1.5	1.3	
108	〃	〃	〃	8	4	2	0.4	
109	〃	〃	〃	7	5	1	0.5	
110	〃	〃	〃	7.5	〃	〃	0.45	
111	〃	〃	〃	8	〃	〃	〃	
112	〃	〃	〃	7.5	5~4	1.5	0.4	
113	〃	〃	〃	7	5	2	〃	
114	〃	〃	〃	7.5	5.5~4	〃	〃	
115	〃	〃	〃	8	6~4	1.5	0.45	
116	〃	〃	〃	〃	4.5~4	1	0.4	
117	〃	〃	〃	7.5	5	1	0.45	
118	〃	〃	〃	8.5	〃	2	0.5	
119	〃	〃	〃	8.5	〃	2	0.5	
120	〃	〃	〃	8	4	2	0.35	
121	〃	〃	〃	〃	5	1	0.45	
122	〃	〃	〃	7	5~4	〃	〃	
123	〃	〃	〃	6	5	1.5	0.3	
124	〃	〃	〃	〃	〃	1	〃	
125	〃	〃	〃	5	4	〃	0.15	
126	小玉	〃	〃	〃	2.5	〃	0.1	

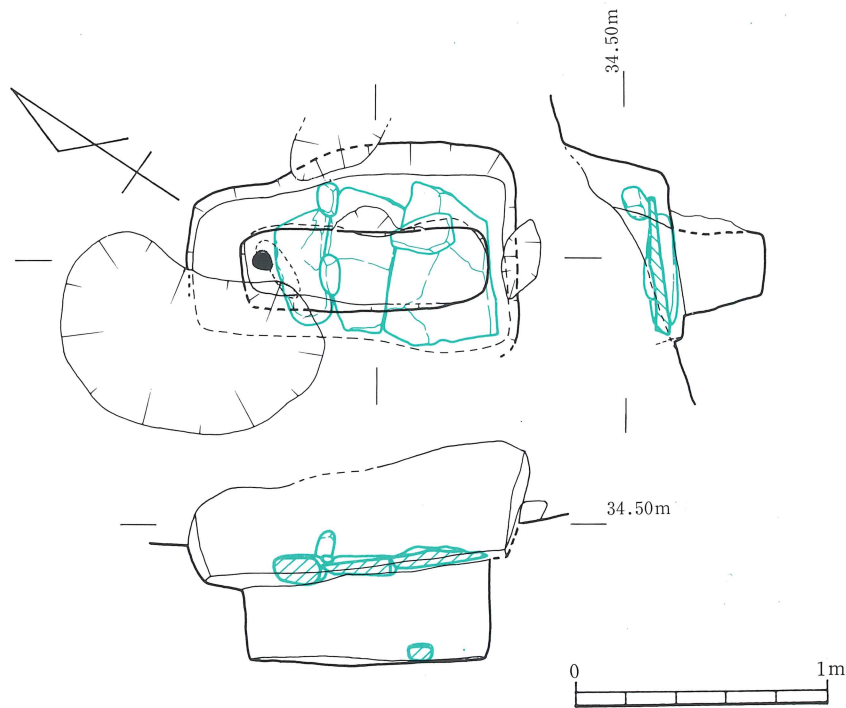
番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
127	小玉	ガラス	藍	4	2.5	1		
128	〃	〃	青	4	〃	〃		
129	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
130	〃	〃	藍	3	〃	〃		
131	〃	〃	青緑	4	3.5	〃		
132	〃	〃	藍	〃	2	〃		
133	〃	〃	青	3.5	〃	〃		
134	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
135	〃	〃	〃	3	〃	〃		
136	〃	〃	〃	3.5	2~1.5	〃		
137	〃	〃	〃	4	2	〃		
138	〃	〃	〃	3.5	〃	〃		
139	〃	〃	〃	4	〃	〃		
140	〃	〃	〃	3	2.5	〃		
141	〃	〃	〃	3.5	2	〃		
142	〃	〃	〃	3	2.5	0.5		
143	〃	〃	青緑	3.5	2	1		
144	〃	〃	〃	3	2.5	〃		
145	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
146	〃	〃	〃	2.5	〃	〃		
147	〃	〃	〃	〃	2	〃		
148	〃	〃	〃	〃	〃	0.5		
149	〃	〃	藍	3	2.5	1		
150	〃	〃	〃	3.5	1.5	〃		
151	〃	〃	青	〃	〃	〃		
152	〃	〃	〃	3	〃	〃		
153	〃	〃	〃	〃	1.5	〃		
154	〃	〃	藍	2.5	2	0.5		
155	〃	〃	青緑	〃	〃	〃		
156	丸玉	土	黒	7.5	4.5	1	0.3	
157	〃	〃	〃	6.5	3.5	〃	0.25	
158	〃	〃	〃	7	4	〃	0.3	
159	〃	〃	〃	〃	5	〃	〃	
160	〃	〃	〃	〃	4.5	〃	〃	
161	〃	〃	〃	7.5	6~4	1.5	〃	
162	〃	〃	〃	7	〃	1	〃	
163	〃	〃	〃	6	6	〃	〃	
164	〃	〃	黒	7.5	5~4	1.5	0.3	
165	〃	〃	〃	7	5	1	0.25	1/4欠

2号石蓋土壙墓

2号石蓋土壙墓は51号横穴墓の南側、52号横穴墓の上部テラス状遺構付近の傾斜角30°の斜面上に位置する。標高は34mである。墓壙南西側は、斜面のため流失し、検出できなかった。また、北西隅は後世のゴミ穴で攪乱されていた。

残存する墓壙は、地山を一段掘り下げそこに土壙を掘っている。確認できる墓壙最大値は、南北長約1.4mである。蓋石は、安山岩製板石2枚を川床採取の大礫2個で南から北方向に積まれているが、北端の一個は抜き取られている。蓋石の間隙は地山石で覆っている。土壙は、上面で長さ1.0m、幅0.3m、深さ0.4mの隅丸長方形を呈している。内法は、長さ0.95m、幅0.3mを測る。床面には、南小口に河原円礫1個と地山礫2個を置き、枕石としている。北小口付近には赤色顔料の散布が見られる。

築造時期は、出土遺物などなく不明であるが、52号横穴墓との立地等の関係から、5世紀後半代の可能性が強い。また、土壙の規模から、小児用の埋葬施設と推定する。(村上久和)



第298図 2号石蓋土壙墓平・断面図

52号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

52号横穴墓は北支群の南端に近い位置にあり、南西方向に開口する初期横穴墓である。開口部付近の標高は約32mで、主軸をN-56.5°-Eにとる。本横穴墓に係るテラス状の遺構や墳丘は不明であるが、横穴墓上方の斜面に石蓋土墳墓を検出した。また、本横穴墓の前庭部の直下を玄室とする53号横穴墓が6世紀後半に造られ、その後の玄室の崩壊に伴い、前庭部の入口が壊れている。本横穴墓の全長は約3.5mを測り、その保存状態は良好であった。調査前には前庭部に横穴墓の存在を示すような落ち込みなどは認められなかった。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、撤去の順に行った。閉塞施設の除去後、埋葬人骨の遺存が確認されたため、九州大学医学部第2解剖学教室室員の参加協力の上で玄室内の調査を実施した。本横穴墓は調査概報で仮28号横穴墓としたものである。

2. 規模、構造

1) 前庭部、羨門部

a) 規模、構造 前庭部は長さ約1.5m、幅約1.6mであるが、全長は本来さらに0.3m程度長かったとみられる。床面の平面形態は中央部が隘れ、開口部と羨門付近がやや広がる。前庭部床面はほぼ平坦であり羨門前から緩く玄室方向へ傾斜する。床面の標高は約31.55mである。前庭部横断面は逆台形を呈する。側壁の傾斜は両者ともに、70~85°を測る。羨門部壁は中央部分の上方が大きくせりだしている。羨門頂部から約0.25mのせり出しである。なお、羨門部壁中~下位の傾斜は約80°を測る。

羨門部分の一部の天井部分と側壁部分が崩壊しているが、比較的旧状を保っている。床面と天井部は玄室にむかって下降し、羨門部壁のほぼ中央に設けられている。羨門部は高さ約0.74m、幅約0.58mである。

閉塞施設は板石と河原円礫を使用し、やや入念に構築されている。まず、床面が前庭部から羨道に内傾を始める傾斜変換点付近に長さ0.8m、幅0.6mの大きな板石とやや小ぶりの板石を据え、羨門部を覆う。その板石間や羨門壁との隙間は地山小礫と粘土で入念に塞ぐ。次に板石の前面に直径約20cm、厚さ10cm程度の5個の石を置きさらに2~3個の石で石間を固定している。さらにその上に直径約30cm程度の大石を3個置き、板石と円礫を押えている。最後に直径20cm程度の礫を10個前後散漫に置いているが、これは閉塞埋土中に遊離しているものが多く、埋土とともに置かれたとみられる。これらの閉塞は前庭部の下部埋土であるIV層の上に構築されている。特にIV層上面は固くしまっており、作業面を示しているとみられた。

b) 前庭部内埋土 前庭部内埋土は4層に区分された。このうち下部の2層(III・IV層)は新鮮な地山の2次堆積物であり、横穴墓構築時もしくは初期の形成と推定された。IV層は上面が固くしまり、羨門に向かって下降する。III層も同様に地山の2次堆積土であるが、しまりがやや悪く、腐植土が少量混る。閉塞後の埋土とみられた。II層はやや粘質で、上下面ともに凹凸をみる。下位層の風化部分とみられる。I層は腐植土であり、上面は現地表面である。以上の埋土からみて、III層中の腐植土の混入が留意されるものの、基本的に1回の埋葬が推定された。

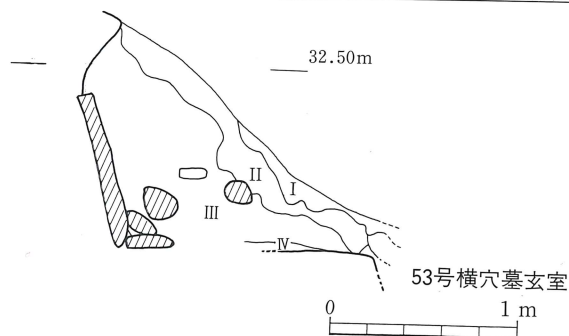
2) 羨道、玄室

羨道部から玄室南側には閉塞施設からの流入土と天井の崩落土が入り、埋没していた。

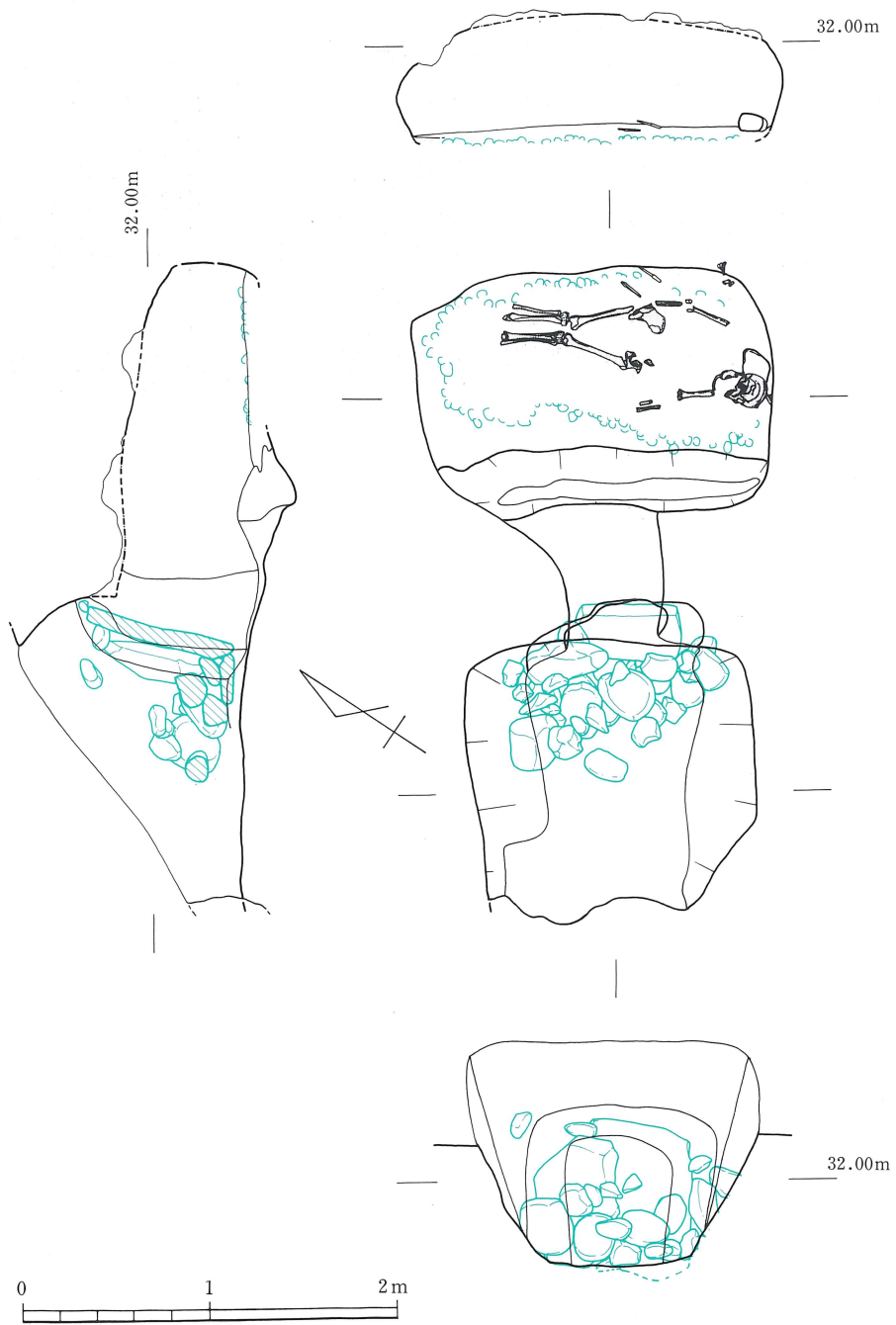
羨道部と玄室との間には溝が掘られている。これは地山を掘り込んだもので、後の玄室床面への盛り

52号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	黒褐色	腐植土層	ソフト	旧表土
II	黄色	粘質砂礫層	ハード	上部テラスの墳丘土?
III	黄褐色	砂礫層	ハード	前庭部埋土
IV	黄色	砂礫質土層	ややソフト	築壘掘削時の残土?



第299図 52号横穴墓縦断土層図



第300图 52号横穴墓平·断面图

土の際にもこの溝を埋めぬように構築している。溝はこの盛土上面で幅約0.3～0.4m、深さ0.2mを測る。羨道側からの流入水に対する排水施設と推定された。溝の中位以下には黄褐色砂礫層と黒色泥質土の互層が形成されており、水成堆積物である。一定期間は排水が機能したとみられる。

羨道部は羨門部から40cmまでは僅かに拡がり、さらに玄室に向かって「ハ」字状に拡がっている。幅は羨門部床面で0.50m、中央部で0.55m、玄門部床面で1.08m、長さ0.65～0.77mを測る。床面は約15°の傾斜で玄室に向けて下降する。高さは天井部の崩落のために不明であるが約0.57mと推定される。玄室は平入り、奥壁に拡がる隅丸長方形を呈する。長さ1.27～1.32m、幅1.92mを測る。天井部は崩落のために部分的にしか遺存しないが、基本的にはドーム形を呈している。天井の高さは約0.6～0.7mと推定される。床面は標高31.40～31.42mである。床面には5cm前後の埋土を玄室前面に行い、さらに玄室奥壁に並行して礫床を設けている。礫床は直径5cm以下の河原採集の小円礫を主体に敷き詰めている。礫床は長さ約0.7～0.9m、幅1.8mを測り、羨道から向って右側、すなわち南側が幅広く設けられている。床の南側には長さ30cm前後、幅15cm前後の円礫1個を使用した石枕が設けてある。(吉留秀敏)

3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

a) 埋葬人骨 奥壁に向かって右に頭位をとる成年男性の単体埋葬である。小円礫による礫床上に仰臥伸展位で葬られている。河原石を枕とし、頭蓋骨はそれから左側へと転落した状態である。上・下肢とも伸ばした姿勢であり、各関節部に乱れはない。胸部は落石がひどく、肋骨および背椎骨は保存されていなかった。頭近くに肋骨片や腰椎、奥壁に肋骨と足の指骨が認められたが、人為的なものというよりは、ネズミ等の小動物による移動か、あるいは人骨に付着した泥土から推定される冠水の際に移動したものであると思われる。

右前腕側の奥壁よりに鉄鏃を副葬している。(田中良之)

b) 副葬品 人骨の右側に鹿角装刀子1、鉄鏃2本が先端を足方に向け配置されていた。

2) 前庭部内

前庭部埋土中からは何ら遺物は出土しなかった。(吉留秀敏)

4. 52号横穴墓出土人骨の所見

比較的保存の良い男性人骨一体が出土した。以下に所見を示す。

〈保存部位〉

頭蓋骨：左右側頭部・下顎左半を破損するが保存状態は比較的良好。赤色顔料が付着している。残存歯牙は以下のとおりである。

$\begin{array}{cccccccc} & \triangle & & \triangle & & & & \\ M^3 & M^2 & M^1 & P^2 & P^1 & C & I^2 & I^1 \end{array}$	$\begin{array}{cccccccc} & & & & & \triangle & & \triangle \\ I^1 & I^2 & C & P^1 & P^2 & M^1 & M^2 & M^3 \end{array}$
$\begin{array}{cccccccc} M_3 & M_2 & M_1 & P_2 & P_1 & C & I_2 & I_1 \end{array}$	$\begin{array}{cccccccc} I_1 & I_2 & C & / & P_2 & M_1 & M_2 & M_3 \end{array}$

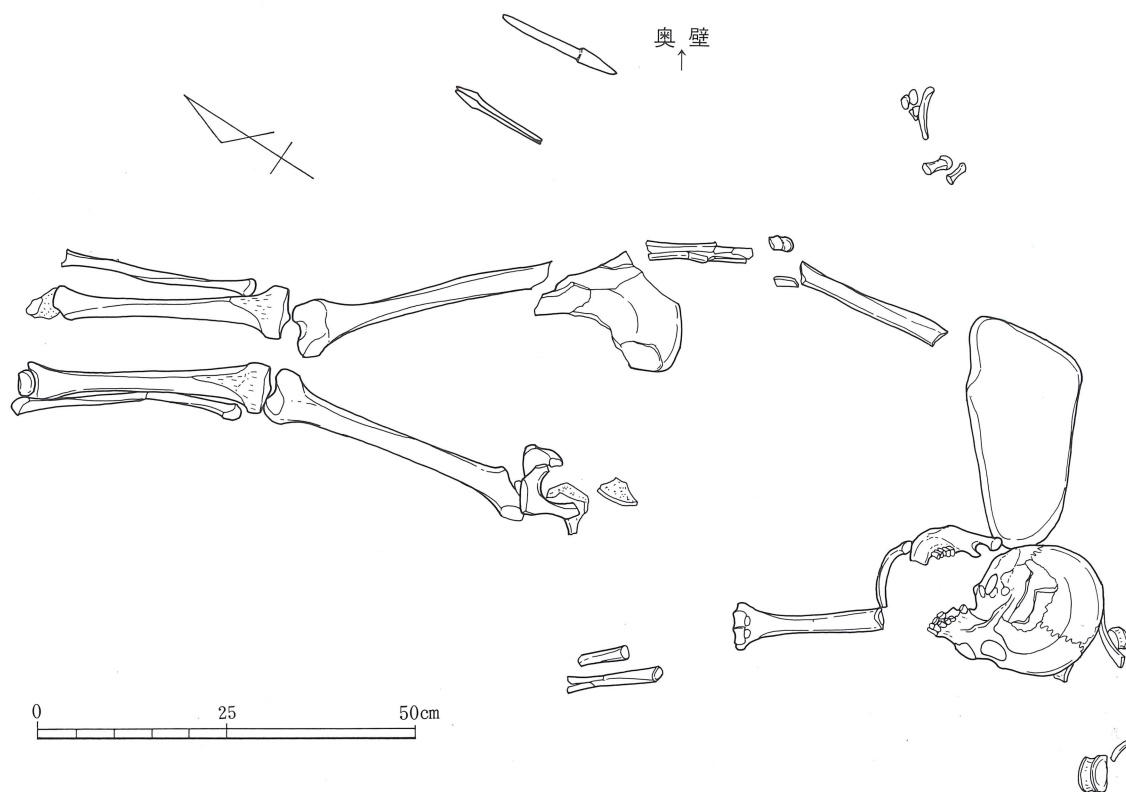
○ 歯根のみ / 破損不明 ・ 遊離歯

体部骨：左右上腕骨骨体部、左右前腕骨片、左右寛骨片、左右大腿骨、右膝蓋骨、左右脛骨、左右腓骨、足根骨は左右の距骨が残存する。

〈性別・年齢の推定〉

性別：眉弓、乳様突起の発達が良好であり、骨盤の形状も男性の特徴を示している。

年齢：歯牙咬耗度は Broca の 1～2 度である。また、頭蓋主縫合は冠状縫合の内板が閉鎖していることから、本人骨の年齢は成年と推定した。



第301図 52号横穴墓女室内人骨及び遺物出土状態

〈形質〉

頭蓋最大幅とバジオーンブレグマ高は推定値を使用した。脳頭蓋の示数はそれぞれ短頭型 ($M8/1=81.5$)、高頭型 ($M17/1=75.3$)、中頭型 ($M17/8=92.4$) に属している。顔面部は、上顔高は比較的高く鼻根部の陥凹も弱い。眼窩高が低く、いわゆる渡来型と在来型の間期的特徴を有している。咬合型式は鋏状咬合であり、歯槽性突顎の傾向がみられる。

頭蓋非計測的形質では、横後頭縫合 (左右)、後頭乳突縫合骨 (左) が観察された。大腿骨最大長から、ピアソンの式を用いて求めた推定身長は157.0cmであった。(土肥直美)

53号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

53号横穴墓は北支群南東端に位置し、ほぼ南西に開口する横穴墓である。斜面中位の標高27.5m付近を墓道床面にして構築されている。全長9.9mであり、主軸をN-56.5°-Eにとる。本横穴墓の玄室直上には先行する52号横穴墓があり、天井部の崩落に伴い52号横穴墓の前庭部の入口付近が壊れている。調査前には玄室や墓道の落ち込みは認められず、表土除去後の墓道プランの検出によって、本横穴墓を確認した。

2. 規模、構造

1) 墓道、羨門部

a) 規模、構造 墓道は全長6.4m、幅は羨門付近で上部2.8m、底部1.91m、墓道入口で幅1.37mを測る。墓道床面はゆるい凹凸があり、約6°の傾斜で上る。なお墓道入口から3.3m羨道に寄った位置まで墓道幅が狭くなり、その後羨門側に拡がり、平面逆台形を呈する。墓道の最奥部は約78°の傾斜をもつ壁となり、側壁の傾斜は67~83°である。壁上部は何れも風化のため稜線が失われ、崩落が著しい。

羨道上部と玄室天井部は全面的に崩壊し遺存しない。羨門部の門構えについては不明である。

閉塞施設は羨門部に接し、前面に円礫を積み上げ構築している。現状で墓道床面上に10~15cmの埋土を狭み、羨門から0.9mの間に0.95~1.0mの高さで石積みが残る。石積みは規則性に欠け、円礫は直径30cm以上のものと直径20cm以下のものがあり、乱雑に積み上げている。本横穴墓では羨門部を覆う板石は使用されていない。また、閉塞石積みの上半部、標高28.5mより上部は石積みの範囲が若干前面に拡がっており、追葬時の再構築の可能性はある。

b) 墓道内埋土 墓道内埋土は6層群19層に分層された。以下堆積順に説明する。

第1層群(Ⅸ・Ⅹ層) 墓道形成直後に床面に堆積した埋土と、閉塞施設下部を覆う埋土を一括している。何れも基盤層の未風化の2次堆積物であり、墓道部で15cm前後の層厚がある。本層上面には羨門から2.7~4.2mの範囲に須恵器甕片が散布している(遺物A群)。また、本層上面で羨門から約1.7mの位置に炭化物が集中して出土した。本層群は初葬埋土と考えられる。

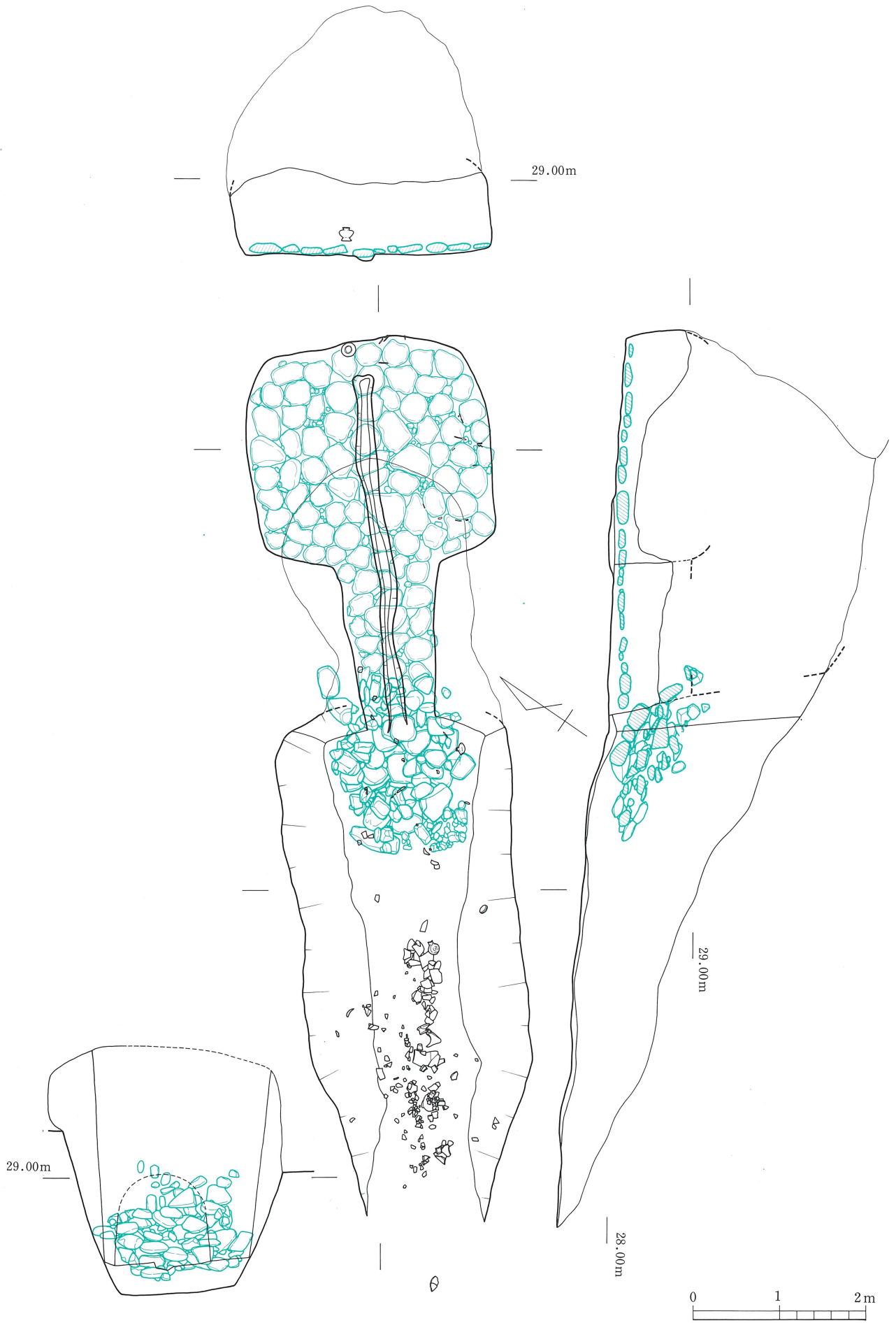
第2層群(Ⅷc~e・g層) 閉塞施設下部から墓道全域の下半部を覆う埋土である。下位層に類似した性状を示すが、地山包含の円礫を多く含んでいる。上部はやや暗色気味となり、炭化物片や、腐植土を含む。全体で80cmの層厚があり、標高28.6mまで堆積している。本層群上部に遺物B群がある。第1次追葬時の埋土と推定される。本層群下位で羨門から約2.0mの位置に焼土、炭化物の集中があった。

第3層群(Ⅷa・b・f層) 閉塞施設の上部から墓道側1.7mの範囲に堆積している。粘性があり、上部は硬くしまっている。炭化物片をわずかに含む。最終追葬時の埋土と推定される。

第4層群(Ⅶa~c層) 黒褐~暗褐色のクロボク質土である。約15°の傾斜で堆積している。炭化物片を含み上・下層に漸移変化する。風化土層である。閉塞部上位から、墓道側5mの範囲に堆積している。層厚は10~15cmを測る。少量の土器片を含むが、下位層群からの遊離物とみられた。

第5層群(Ⅵa~d層) 褐色~暗褐色粘質土であり、全体の層厚は40~60cmを測る。閉塞部上方付近では互層となり、人為的埋土の可能性があり、墓道側では漸移変化がある。自然流入土とみられる。その間の分離は観察時にはできなかったが、羨門部から約2m付近の位置にあると考えられる。

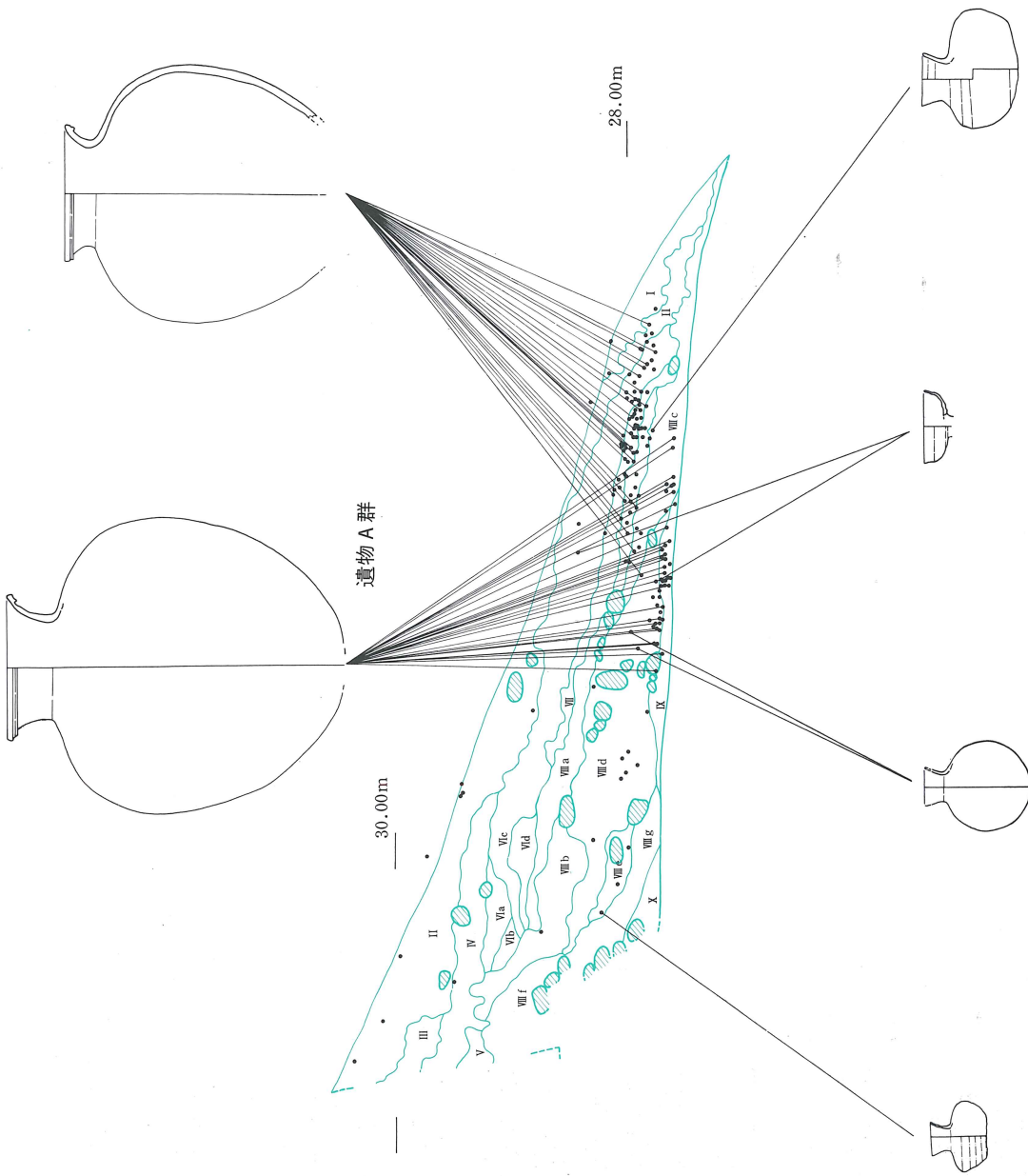
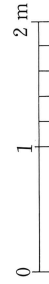
第6層群(Ⅰ~Ⅲ層) 現地表から直下の茶褐色粘質土を一括する。両者は漸移変化するが、各層の下面は凹凸面が捉えられる。現地表は約25~30°の傾斜であり、腐植に富む。斜面上部に比べ、土量が少なくしまりが悪い。



第302图 53号横穴墓平·断面图

53号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	黒褐色	腐植土層	ソフト	旧表土
II	茶褐色	礫混質粘	ややソフト	
III	黄褐色	粘礫土層	ソフト	
IV	暗褐色	粘礫土層	ハード	
V	暗褐色	粘礫土層	ソフト	
VI:a	暗褐色	粘礫土層	ハード	
VI:b	暗褐色	粘礫土層	ハード	
VI:c	暗褐色	粘礫土層	ハード	
VI:d	暗褐色	粘礫土層	ハード	
VI:e	暗褐色	粘礫土層	ハード	
VII	黒褐色	クロコク質礫	ハード	a, b, fは最終埋葬土 c~e, gは第1次埋葬土
VIII:a	暗褐色	粘礫土層	ハード	
VIII:b	暗褐色	粘礫土層	ハード	
VIII:c	明褐色	混質粘礫	ハード	初葬埋土
VIII:d	褐色	混質粘礫	ハード	
VIII:e	褐色	混質粘礫	ハード	
VIII:f	褐色	混質粘礫	ハード	
VIII:g	黄褐色	混質粘礫	ソフト	初葬埋土
IX	淡褐色	礫砂	ソフト	
X	淡褐色	礫砂	ハード	



第303図 53号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

2) 羨道、玄室

羨道は長さ1.7~1.9m、幅0.8~1.2mであり、高さは不明である。玄室は長さ2.55m、裾部幅2.75m、奥壁幅2.30m、最大幅2.90mを測り、やや胴張り気味の隅丸方形を呈する。床面には幅15~25cm、深さ約5cmの排水溝が設けられている。床面は平らであり、約4°の傾斜で羨道部へ下る。玄室と羨道部は全面に河原石を敷きつめている。河原石はまず直径30~40cmの平らな円礫を中央の排水溝の上から左右に拡げるように敷き、それらの隙間に直径10cm以下の円礫を入れている。天井部は崩落のため不明であるが、部分的に遺存する壁は僅かに曲線を描いており、ドーム形の天井になるとみられる。

3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

玄室内からは須恵器と鉄器が出土した。人骨の出土はない。須恵器には、台付壺(第304図8)があり、奥壁中央に接し、敷石上に正置していた。鉄器には鉄鏃(第306図11、12)、刀子がある。これらは、玄室奥部、右側壁側に散在して出土した。何れも敷石間に落ち込んだ状態であり、原位置を動いているとみられた。なお鉄鏃のうち1点(第306図11)は、右側床面の敷石下にあり、自然落下とは考えられない状態であった。また、玄室内埋土中に土師器埴2個体(第305図6、7)が出土したが、型式が古く上部の52号横穴墓前庭部からの流入物と考えられる。

2) 墓道内

墓道内の遺物の出土層位については墓道内埋土の項で示した。ここでは出土状態について述べる。

A群は、墓道床面に近い0.5×2.0mの範囲に破碎散布状態で出土した須恵器甕(第306図10)である。また、高坏坏部片(第305図2)、砥石(第306図15)も出土している。

B群は破碎状態の須恵器甕(第305図9)を中心に、平瓶(第305図4)、提瓶口縁部、やや離れて高坏坏部(第305図1)がある。またB群と同一の層群中であるが、より下位に提瓶(第305図5)が出土した。

この他に閉塞施設に接して、完形の長頸壺(第305図3)と鉄鏃2点(第306図13、14)が出土した。後者は偶然の混入の可能性もあるが、前者は意図的な配置の可能性が高い。(吉留秀敏)

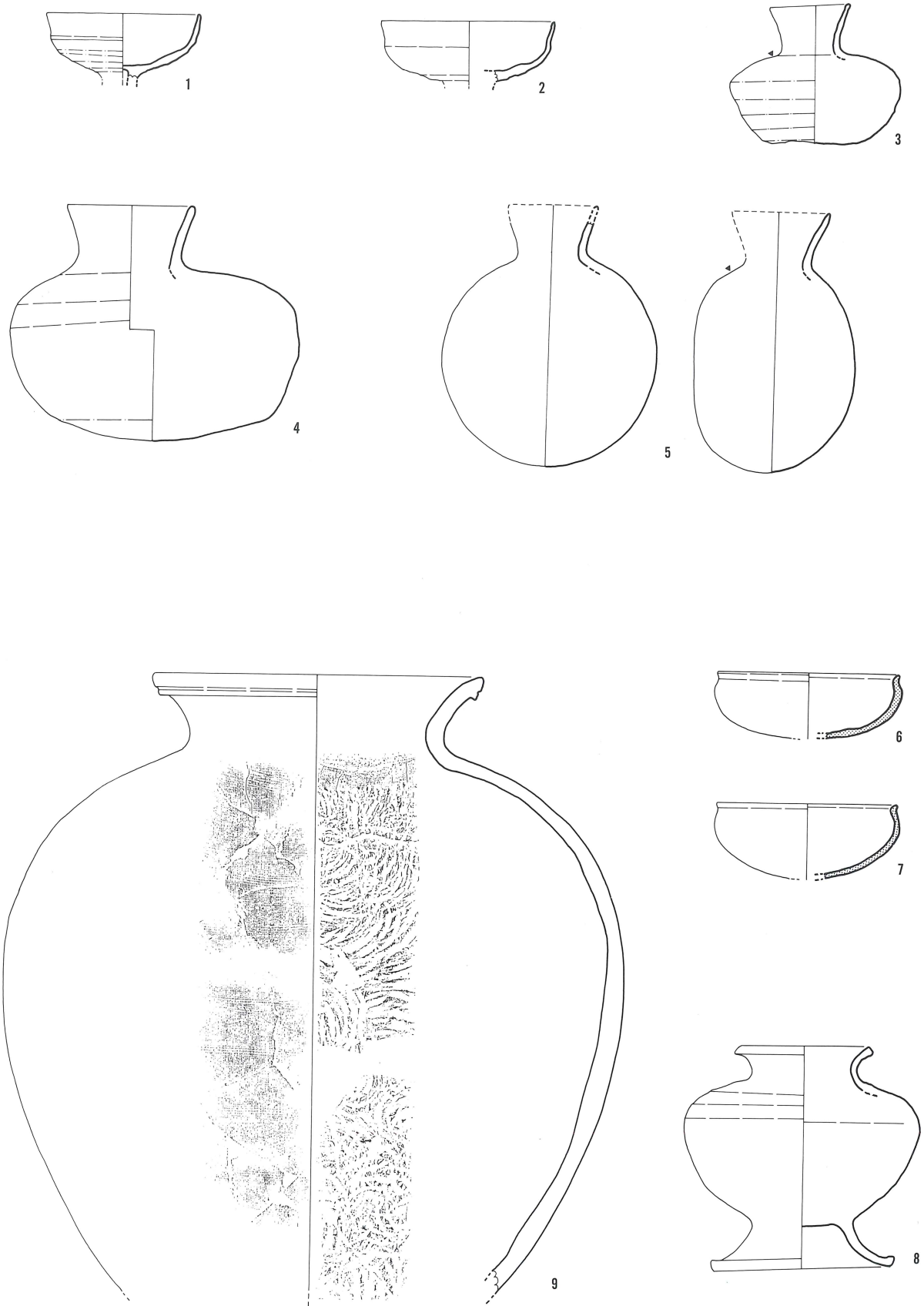
第118表 53号横穴墓出土鉄器観察表

(単位: cm)

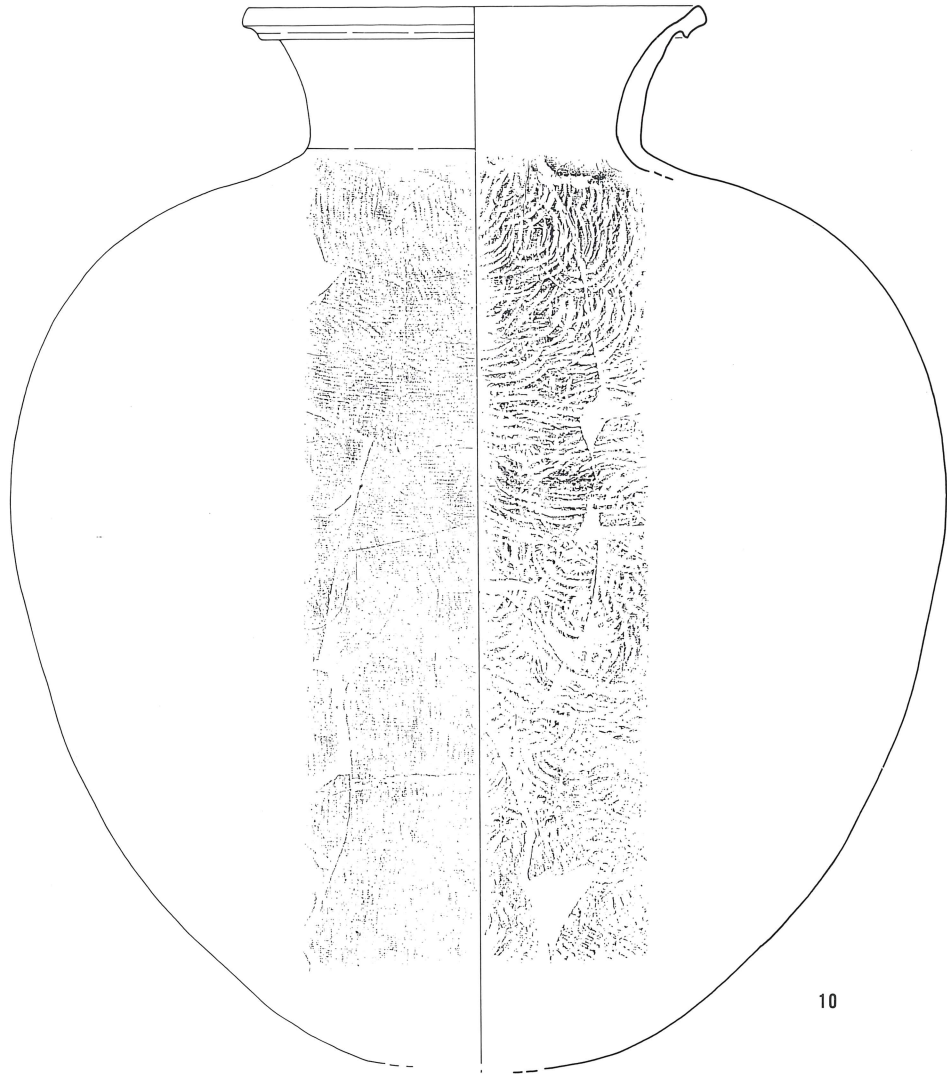
番号	器種	全長	頭部長 (刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
11	鉄鏃	12.2以上	1.4	1.15	0.4	不明	0.25	
12	同上	1.6以上	1.6以上	0.8以上	不明	0.15	不明	
13	同上	8.5以上	0.9以上	0.8	0.5	0.15	0.3	
14	同上	8.5以上	3.7以上	1.0以上	0.35	0.15	0.35	



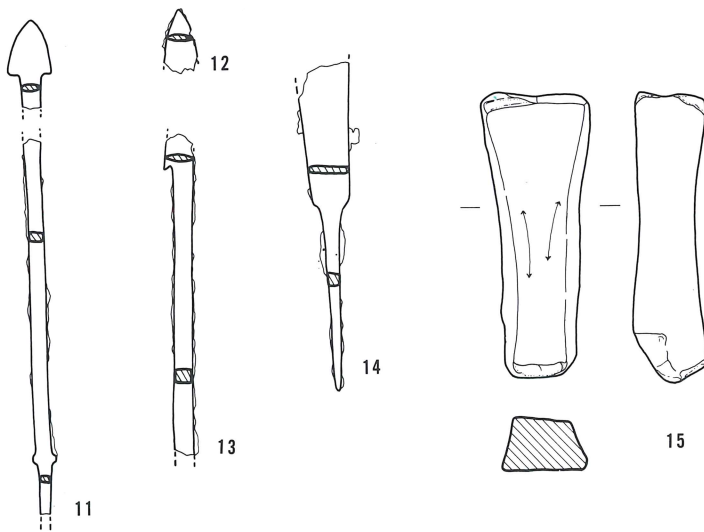
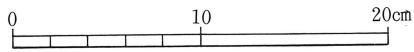
第304図 同出土土器へラ記号



第305图 53号横穴墓出土遺物実測図(1)



10



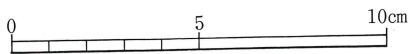
11

12

13

14

15



第306图 53号横穴墓出土遺物実測図(2)

第119表 53号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	高坏	・10.6 ・4.4+ α	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面にうすい稜がみられる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	精緻	良好		
2	高坏	・12 ・4.3	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面はうすい稜がみられる。	回転ナデ	回転ナデ	暗紫色	細砂粒を含む	良好		
3	横瓶	・5.6 ・9.5 ・11.8	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部の最大径はやや上方にある。底部は平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	暗灰色	白色細砂粒を含む	良好		外面頸部 「III」
4	横瓶	・8.5 ・16.1 ・19.8	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部の最大径は中心部にある。底部は平らである。	回転ナデ	回転ナデ 静止ヘラケズリ	青灰色 黒灰色	1mm前後の白色砂粒を微量含む	良好		外面肩部 「II」
5	提瓶	・6.6+ α ・18.0 ・14.7	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色 黒灰色	1mm以下の白色砂粒を多量に含む			
6	碗	・12.4 ・4.5 ・13.0	口縁部は内湾しながらのび、端部は外反し丸い。	器面が磨滅しているため調整不明	器面が磨滅しているため調整不明	赤橙色	0.5~1mmの白色砂粒を少量含む	良好	土師器	
7	碗	・12.4 ・5.2+ α ・12.7	口縁部は内湾しながらのび、端部で外反し丸い。	器面が磨滅しているため調整不明	器面が磨滅しているため調整不明	赤橙色	1mm前後の白色砂粒を多量に含む	良好	土師器	
8	壺	・8.8 ・15.2 ・16.4	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなす。胴部はよく張り底部は丸みをおびる。脚部は下外方にのび、端部は面をなす。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1~1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
9	甕	・23.0 ・42.0+ α ・43.2	口縁部は外反しながらのび、端部は段をなす。外面のやや下方に1本の沈線をもつ。胴部の最大径はやや上方である。	同心円タタキ	ナデ後カキ目	灰色 淡赤褐色	角閃石を少量含むが精緻	不良		
10	甕	・24.0 ・56.0+ α ・49.4	口縁部はほぼ直立しながら外反してのびる。端部は段をなし肥厚し平ら。胴部の最大径はやや上方にある。	同心円タタキ	平行タタキ 後カキ目	青灰色	精緻	良好		

54号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

54号横穴墓は北支群の南端部斜面に立地し、西方向に開口する。標高は前庭部前面で33.1m前後を測る。全長は約9.3mを測り、玄室主軸方向はN-56.5°-Eを測る。保存状態は良好であった。本横穴墓は斜面の遺構検出作業中に前庭部埋土の最上層風化土層が検出され、発見の契機となった。調査以前には横穴墓の存在を示すような前庭部の落ち込み、玄室天井部の陥没等の様相は認められなかった。調査は供献土器群の検出作業を進めつつ、順次前庭部プランの確認、同埋土の検討、横穴墓上の「テラス状遺構」の有無の確認、閉塞施設の調査を行った。閉塞施設除去後、埋葬人骨の遺存が確認されたため、玄室内の調査は一時中断した。後日、九州大学医学部第2解剖学教室室員の参加協力の上で改めて玄室内の調査を実施した。

2. 規模、構造

1) 墓道、羨門部

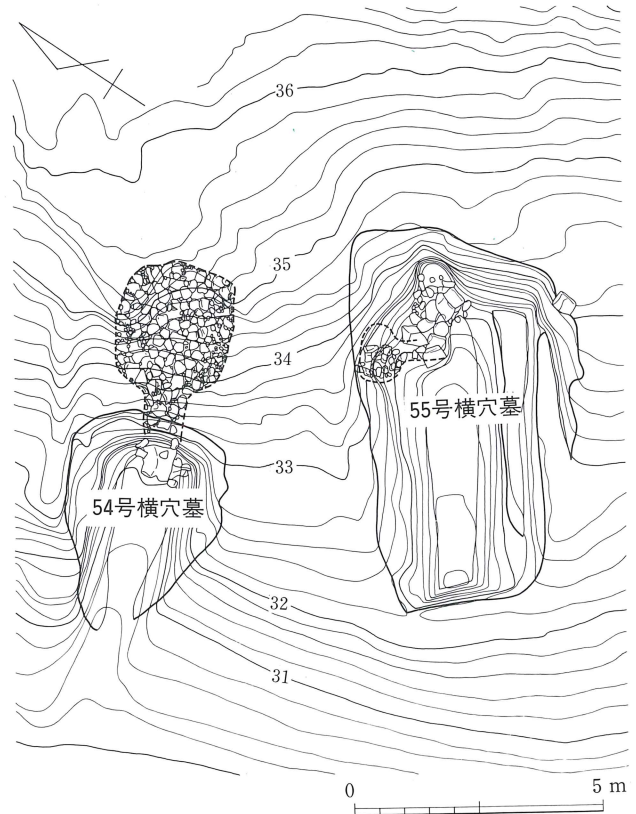
a) 規模、構造 墓道は全長9.33m、幅は入口で上部幅約0.7m、羨門部で上部幅約2.6m、底面幅約1.4mを測る。墓道床面は緩い凹凸があるがほぼ平坦である。床面傾斜は羨門部から3m付近までは約15°の傾斜で下降する。その後1m程は平坦であり、再び約15°の傾斜で下降し、墓道入口に至る。側壁の傾斜は両者ともほぼ同様であり78~80°を測る。羨門部壁の傾斜は約74°を測る。羨門部分は天井部分が若干崩壊しているが、全体の残りは良くほぼ旧状を留めている。残存部分から復元すると、羨門部は高さ約0.93m、幅約1.09mと推定される。

閉塞施設は数度の追葬のためほとんど閉塞石は残存していないが、安山岩板石と地山礫が検出された。現状でみると床面には閉塞施設構築以前の玄室~羨道から続く敷石が付設されている。この上面に初葬・追葬時の墓道内埋土が堆積している。その上に人頭大~拳大の地山礫が7~8個存在する。これらの地山礫は以前は安山岩板石を支える役目をしていたと推定している。さらに安山岩板石が4枚存在するが、この4枚とも墓道へ引き倒された状態で検出した。最終埋葬時に閉塞石を取り除き、木蓋で閉塞施設を構築したと推定している。

b) 墓道内埋土 墓道内の堆積土壌は追葬時の切り合い関係で層区分が複雑な部分もあり困難を極めた箇所もあったが、全体で5層群15層に分層した。以下堆積順に説明を加えたい。

第1層群(XII・XIII層)は床面全体に堆積する。墓道付近は追葬時に整地されており、残存閉塞石の下面に堆積する。本層群はさらに2層に分層できる。下層(XIII層)は基盤層を利用した埋土であり、層厚は10~20cmを測る。本層からは須恵器坏身の“配列埋置”の状況が3ヶ所(第311図25~39)で認められた。上層は墓道中位以降に堆積しており、上層から約40°の角度で切り込まれている。上部は若干風化傾向が認められる。本層群を初葬時の墓道内埋土と推定している。

第2層群(VIII~XI層)は第1層群を一部分覆って墓道前面から中位にかけて堆積している。土層観察の結果、閉塞施設付近は次の埋葬時に整地されている。本層群はさらに4層に分層できる。VIII~XI層は基盤層とほぼ同



第307図 54・55号横穴墓周辺平面図

じ成分構成であり埋葬時の覆土である。Ⅷ層上面で甕の一括埋置状態（第312図44）が、XⅠ層下面で須恵器坏蓋（第310図17～19）が配列埋置状態で検出された。本層群を第1次追葬時の墓道内埋土と推定している。

第3層群（Ⅴ・Ⅵ・Ⅶa～c層）は墓道前面に堆積している。本層群はさらに5層に分層できる。Ⅴ層は風化土層で扁平な安山岩板石の直下に堆積している。Ⅶa～c層はその上面に堆積した地山の2次堆積土で、上面を第4層群にカットされている。本層群を第2次追葬時の墓道内埋土と推定する。なお、須恵器坏蓋のセットと平瓶（第310図1～9）の配列埋置の状況がⅥ層下面で認められた。

第4層群（Ⅲ・Ⅳ層）は閉塞施設を覆い隠す様に墓道前面に堆積している。本層群はさらに2層に分層できる。下層は閉塞埋土であり、墓道右隅から高坏・坏身・脚付壺・礎・提瓶・鉄鏃（第310図10～16、312図45～50）の一括埋置の状況が認められた。上層は風化土層であり、墓道中央付近まで堆積している。本層群を最終埋葬時の墓道内埋土と推定している。

第5層群（Ⅰ・Ⅱ層）は後世の二次堆積土であり、本横穴墓の墓道内埋土ではないと推定している。

本横穴墓は土層観察の結果、最低4度の埋葬行為が行われたと推定している。

2) 羨道・玄室

羨道部は床面で幅約0.8m、長さ約1.46mを測る。床面には河原円礫を敷石として使用している。敷石除去後の床面は中央部分が低くなっており、玄門部分で10cm程の段差で上昇し玄室へと続く。天井部は残存しているものの、崩落が激しく原形を留めていない。このため高さは推定で約0.9m程であろう。傾斜の角度は不明である。

玄室は天井部の一部に崩落がみとめられるものの残りはよく、ドーム形を呈している。高さは復元による推定であるが、1m前後であろう。長さは約2.5m、幅約1.2mで隅丸長方形を呈している。床面は羨道部から連続して中央奥壁まで縦一列に扁平河原円礫を敷き詰めている。その後その間に扁平河原円礫を敷き詰める。最後に敷石間の隙間を埋めるように5～10cmの小礫を補填している。敷石除去後の床面は標高31.7m前後を測り、ほぼ平坦であった。また幅10～20cm、深さ8cm前後の排水溝が周壁及び中央に設けられている。周壁溝は部分的にとぎれている。

敷石と排水溝の関係であるが、敷石の重なり具合・配列からみて排水溝構築後、玄室奥壁中央部から前庭部に向って排水溝を覆い隠すように敷き、次に壁沿いの排水溝を覆い隠すように敷かれている。その後排水溝間相互の空間に敷石を敷いたと推定している。この行為は敷石の配列状況を知る上で貴重な事例である。

3. 遺物の出土状況

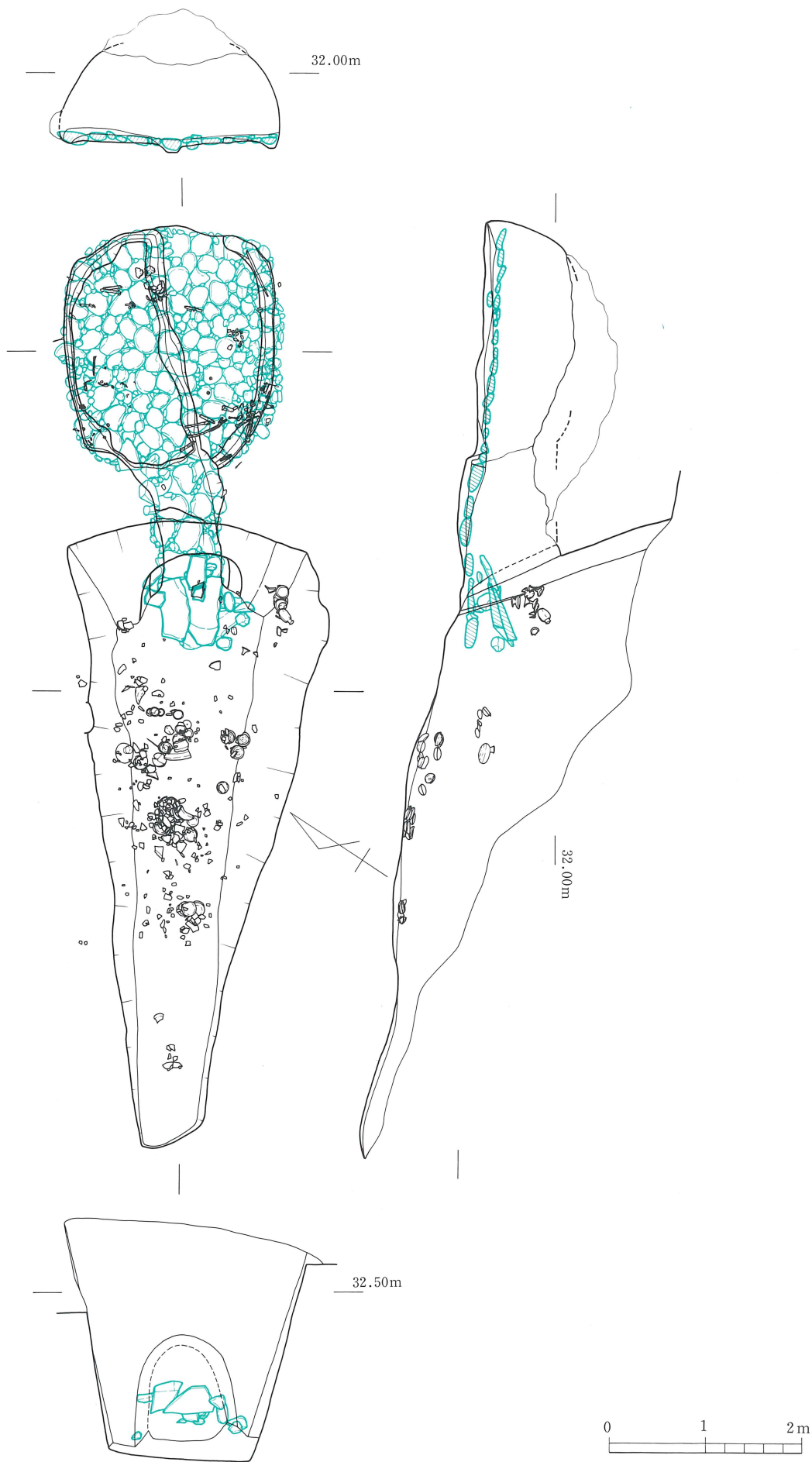
1) 玄室内

副葬品は鉄製品・装身具が検出された。鉄製品は鉄鏃14、刀子2、鉋1、鉄斧1、直刀1（第312図51～52・第313図53～59、61～63）等が出土した。右袖コーナー付近で鉄鏃12本前後と鉄斧が群をなした状態で検出した。ただ一括しての検出ではなく、周辺に飛び散っている状況のため、先端方向はまちまちである。直刀は（第313図65、66）奥壁右コーナーで検出した。先端は北東を向いている。装身具は耳環9、管玉8、勾玉1、切子玉1、ガラス玉141（第313図67～316図290）を検出した。左袖付近で耳環5個と管玉、勾玉、ガラス玉（第313図67～71、314図76～82、86～123）の一群が検出された。

2) 墓道内

墓道内埋土からは各埋葬毎にそれぞれ土器を一括した墓前埋置の形態が確認された。ここでは各群毎の出土状態について述べる。

A～C群は第Ⅴ層で認められた。A群は羨門部から約2mほど墓道入口へ行った地点で配列埋置の状態で認められた。坏のセット4組（第311図25～28）で標高は30.6m前後を測る。B群は羨門部から約2.8mほど墓道入口へ行った地点で配列埋置の状態で認められた。坏のセットは6組（第311図29～34）で標高は30.5m前後を測る。C群は羨門部から約3.6mほど墓道入口へ行った地点で配列埋置の状態で認められた。坏のセット3組（第311図35～37）で標高は30.4m前後を測る。これらの群は初葬時の遺物である。



第308图 54号横穴墓平·断面图

D群は第XI層で認められた。羨門部から約2mほど墓道入口へ行った地点のやや右側壁寄り配列埋置の状態と認められた。坏のセット4組(第310図17~20)で標高は30.8m前後を測る。この1群は第1次追葬時の遺物である。

E群は第VI層で認められた。羨門部から約1.8mほど墓道入口へ行った地点のやや左側壁寄り配列埋置の状態と認められた。坏のセット4組と平瓶1個(第310図1~9)で標高は31.2m前後を測る。この1群は第2次追葬時の遺物である。

F群は第III層で認められた。墓道側壁の右コーナーからの検出であり、一括埋置の状態と認められた。坏身1・高坏3・脚付壺1・罍1・提瓶1(第310図10~16)・鉄鏃1で、標高は31.5~32.0m前後を測る。この1群は最終埋葬時の遺物である。(友岡信彦)

4. 54号横穴墓出土人骨の所見

1体分の人骨片が検出された。保存部位は後頭骨片、歯牙破片、左右大腿骨骨体部、左右脛骨骨体部。後頭骨に膨隆が認められる。また、大腿骨は比較的粗線の発達が良好であるが、サイズはそれほど大きくない。したがって、これだけの情報から性判定を行うことは困難である。年齢については、歯牙片は大臼歯であり象牙質の一部まで咬耗が達していることから、成人であることは確かであろう。その他の詳細は不明である。(土肥直美)

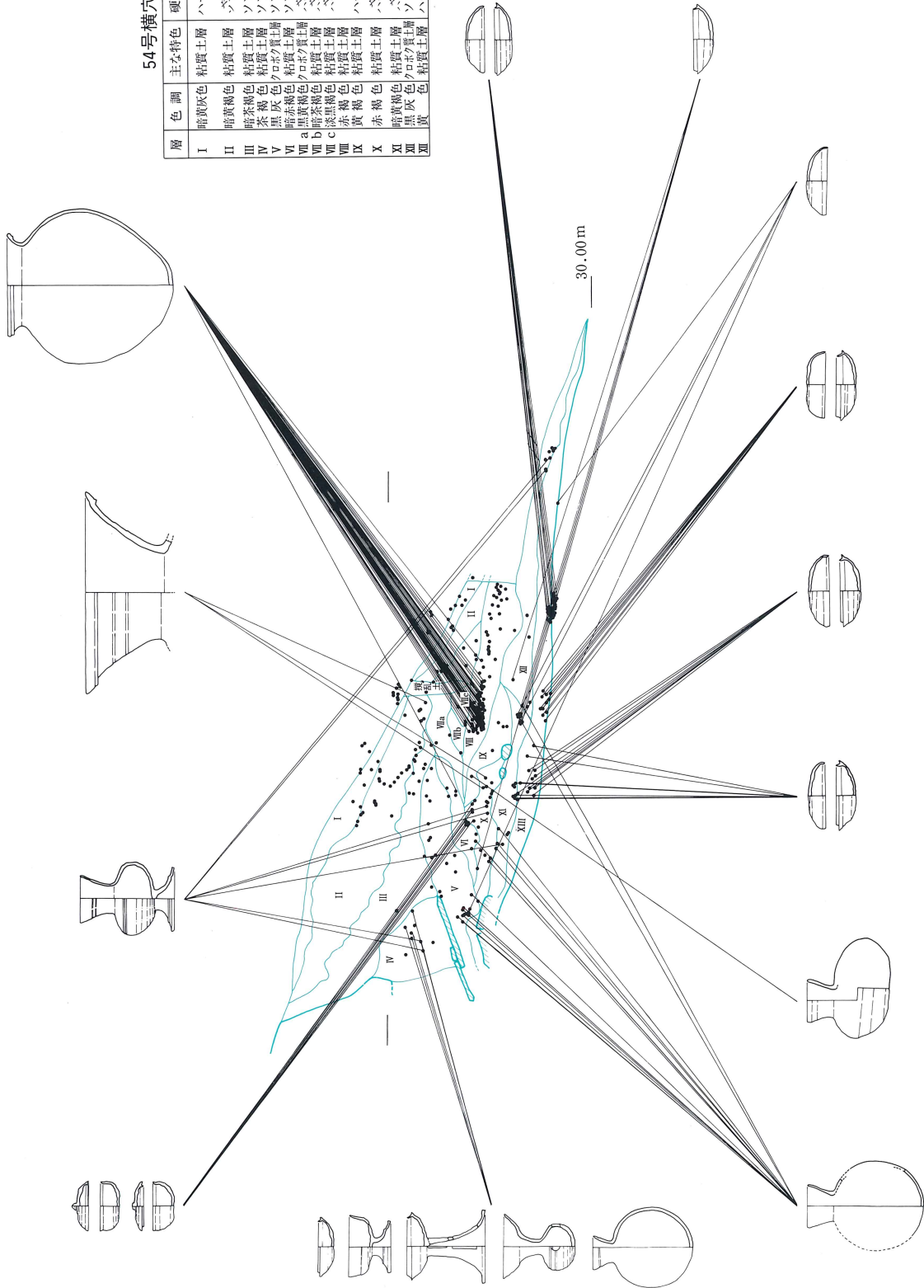
第120表 54号横穴墓出土鉄器観察表

(単位: cm)

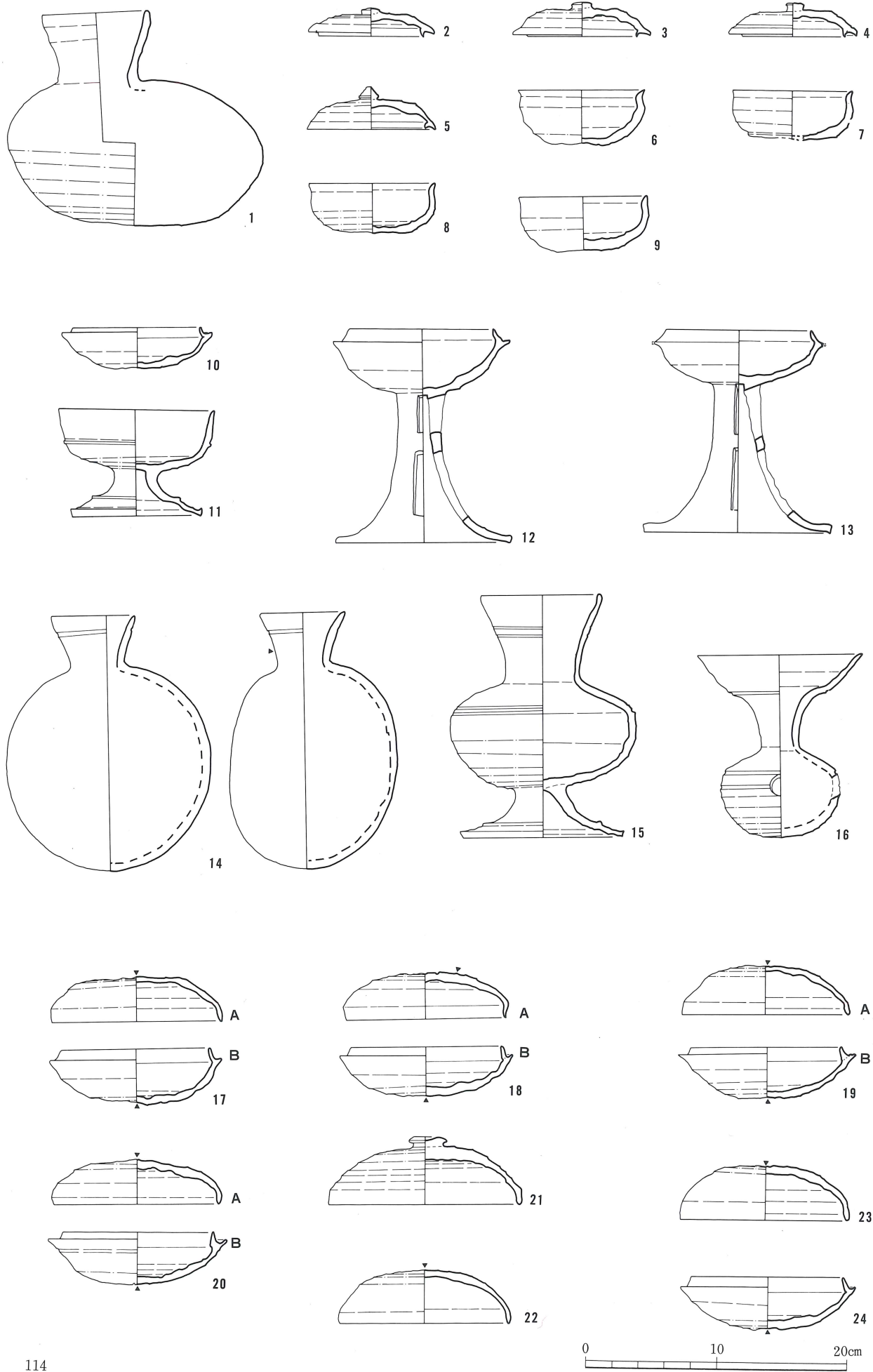
番号	器種	全長	頭部長 (刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
45	鉄鏃	10.5以上	5.7	2.8	0.3	0.15	0.2	
46	同上	5.0以上	5.0以上	3.3	不明	0.1	不明	
47	同上	12.1以上	8.2	3.0	0.35	0.1	0.2	
48	同上	11.3以上	2.3	0.7	0.4	0.2	0.2	
49	同上	12.8以上	2.7	0.8	0.5	0.15	0.2	
50	同上	3.6以上	2.9	1.0	0.4	0.15	0.25	
51	鈍	8.4以上	2.4以上	0.85	1.2	0.15	0.3	
52	刀子	8.6以上	5.5	1.1	0.7	0.2	0.1	
53	鉄鏃	17.5	2.2	0.8	0.5	0.15	0.2	
54	同上	11.2以上	2.8	1.0	0.5	0.1	0.2	
55	同上	13.5以上	2.9	1.0	0.45	0.15	0.2	
56	同上	9.1以上	1.3以上	1.1	0.5	不明	0.2	
57	同上	11.2以上	3.4	1.0	0.45	0.15	0.2	
58	同上	11.2	2.4	1.1	0.45	0.15	0.2	
59	同上	11.9	2.2	1.0	0.45	0.15	0.2	
60	刀子	9.6以上	5.5以上	1.0	0.7	0.2	不明	
61	鉄斧	8.0		4.4				
62	鉄鏃	9.1	4.8	2.2	0.4	0.15	0.3	木質残存
63	同上	9.2以上	8.7	4.6	0.6	0.15	0.2	
64	不明鉄器							
65	直刀	51.4	41.6	2.6	1.6	0.5	0.3	木質柄残存
66	鐔							

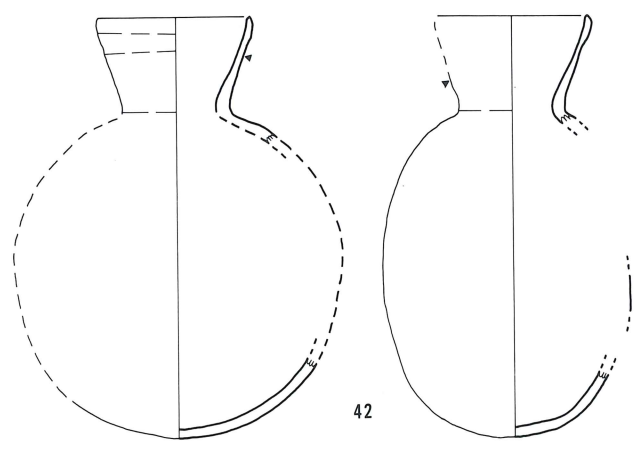
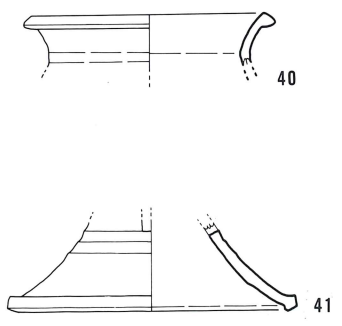
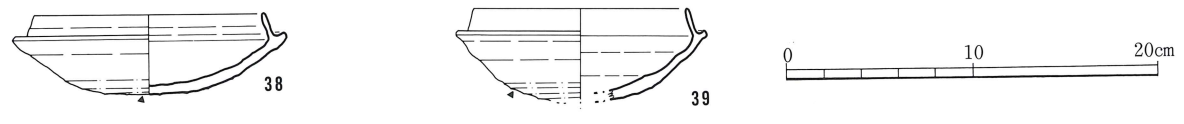
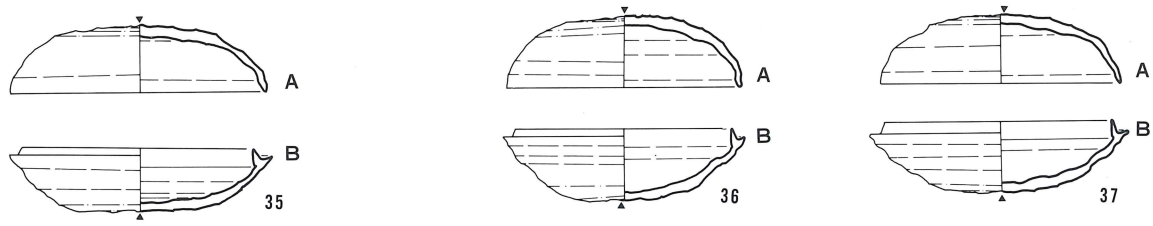
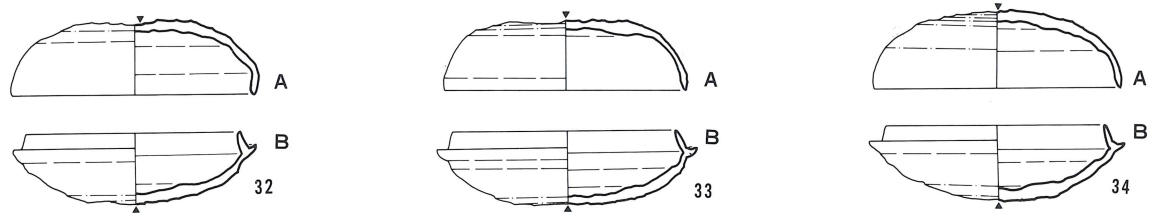
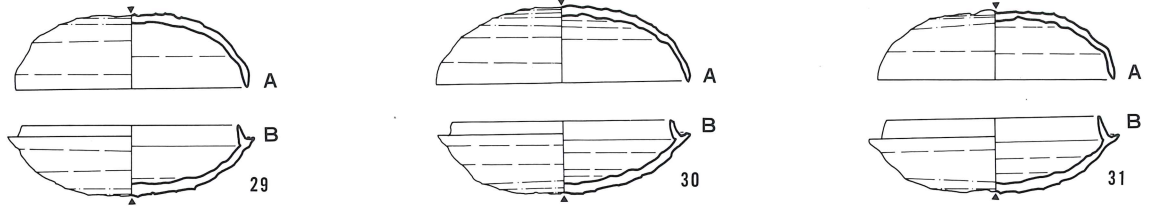
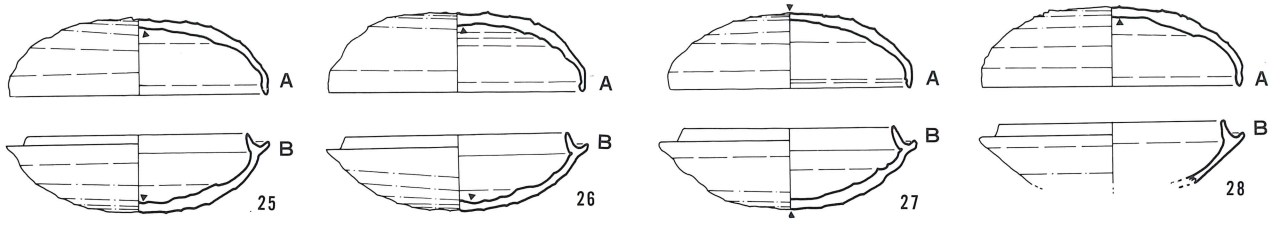
54号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	暗黄灰色	粘質土層	ハード	2次堆積土と思われる マウンドの覆土の可能性あり 堆積土の可能性もある
II	暗黄褐色	粘質土層	ソフト	
III	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	最終埋葬時土
IV	茶褐色	粘質土層	ソフト	
V	黒灰色	クロボク質土層	ソフト	
VI	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	
VII a	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	第2次追葬時土
VII b	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	
VII c	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	
VIII	黄褐色	粘質土層	ハード	第1次追葬時土
IX	赤褐色	粘質土層	ハード	
X	暗黄褐色	粘質土層	ソフト	風化が著しい 初葬時土
XI	暗黄褐色	粘質土層	ソフト	
XII	黄褐色	粘質土層	ソフト	

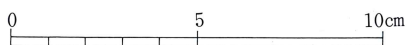
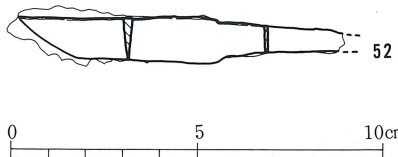
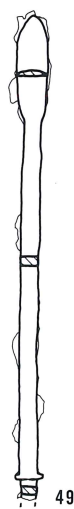
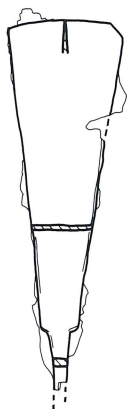
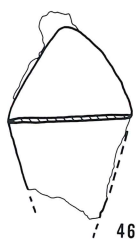
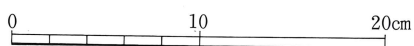
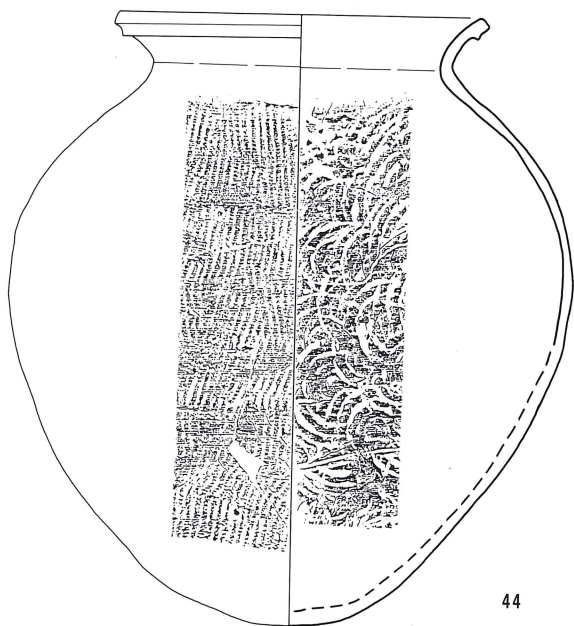
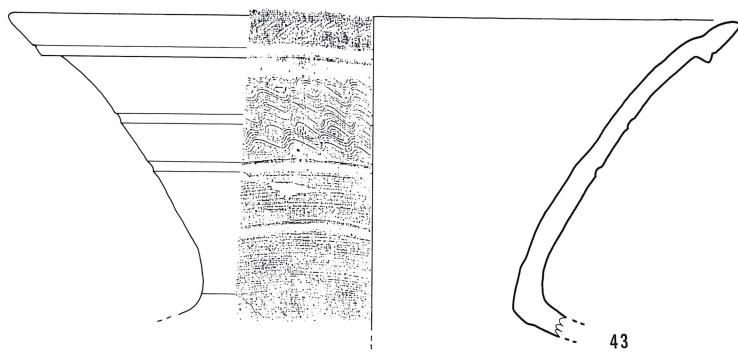


第309図 54号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

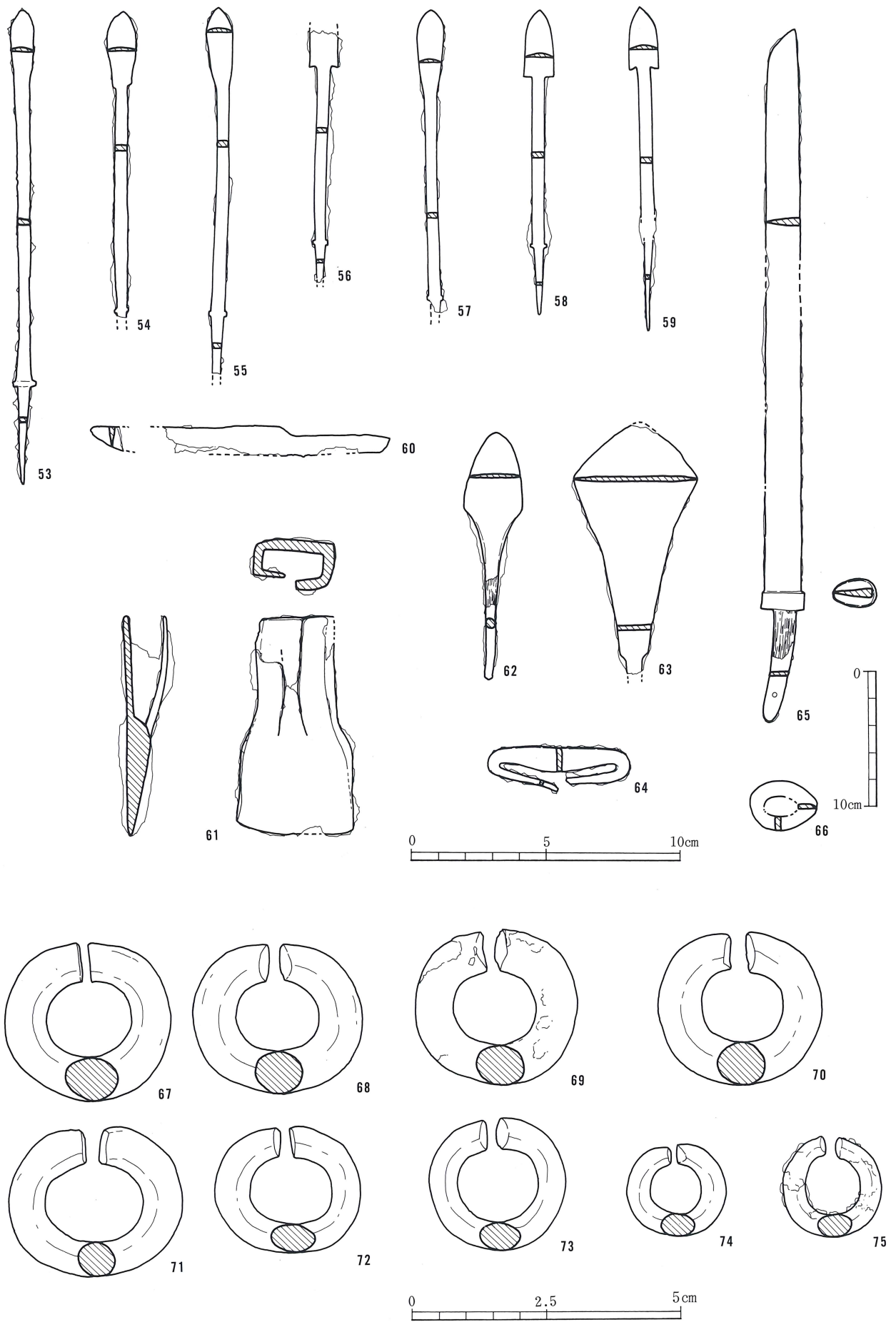




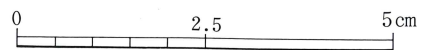
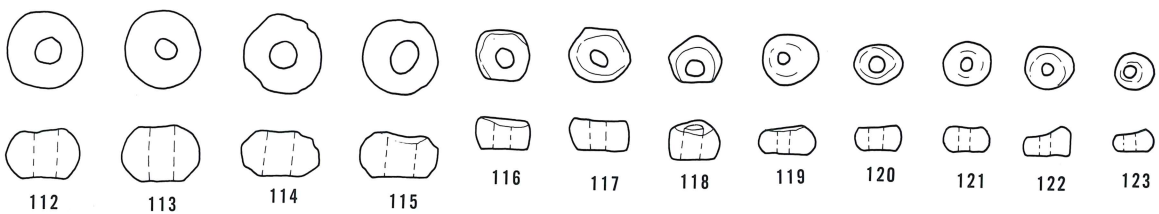
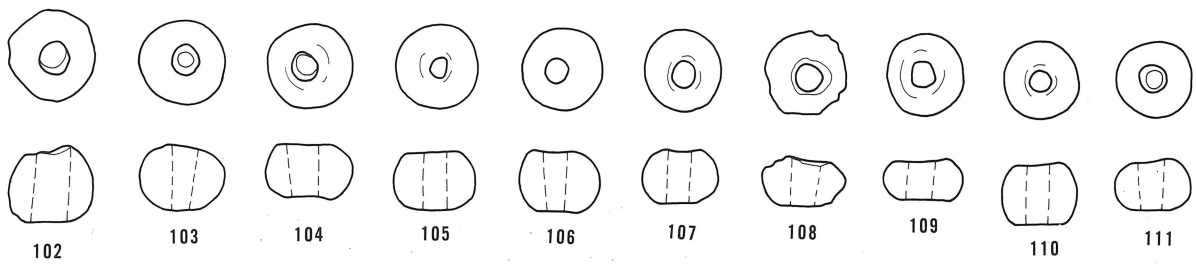
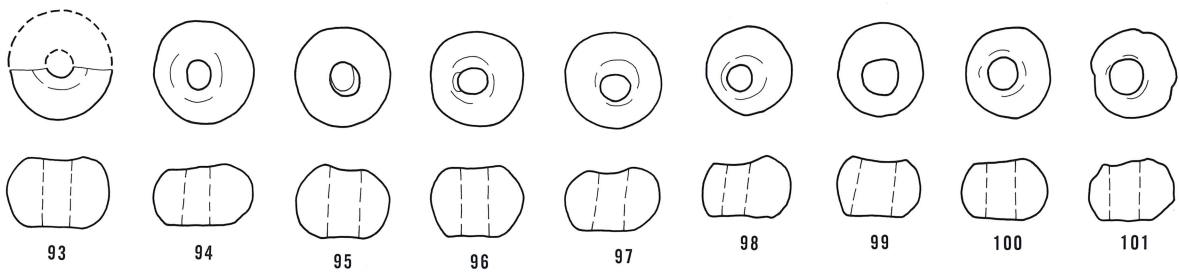
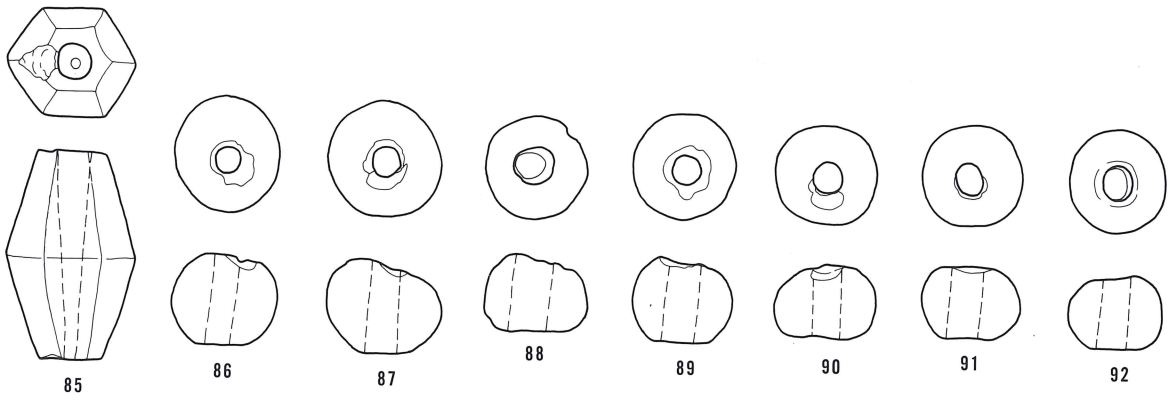
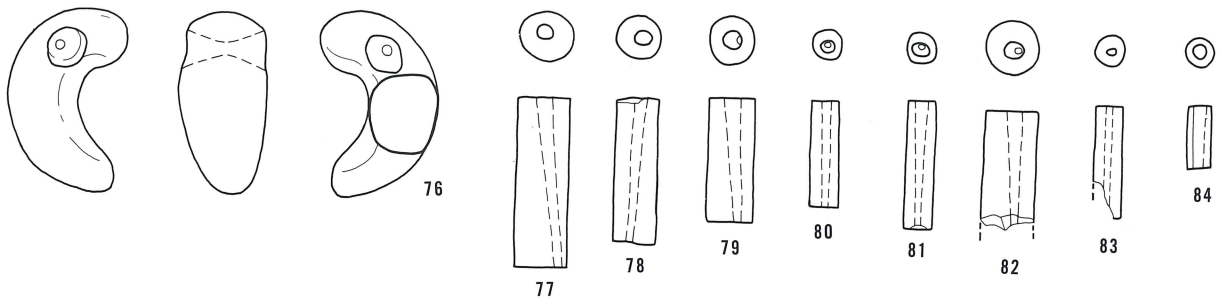
第311图 54号横穴墓出土遗物实测图(2)

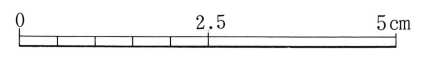
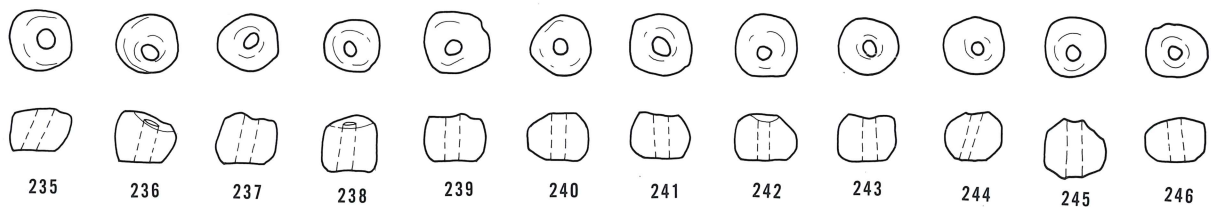
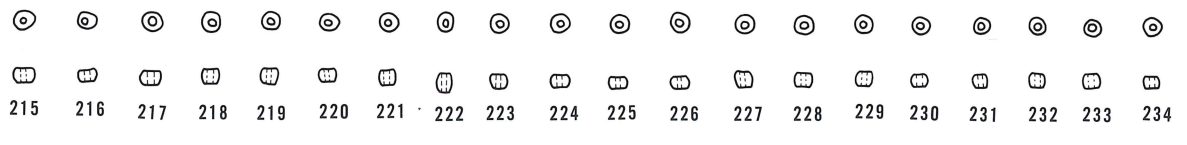
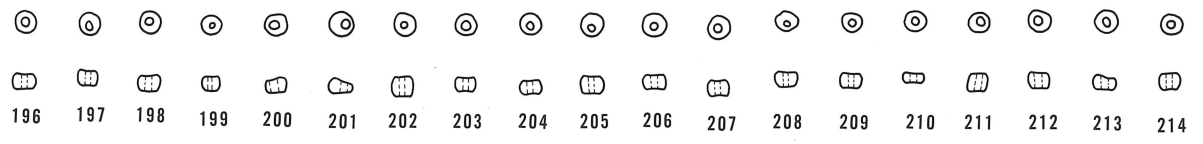
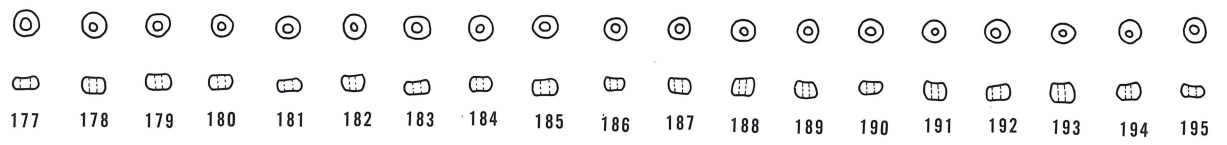
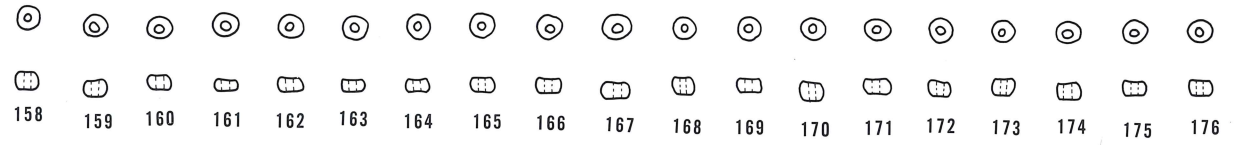
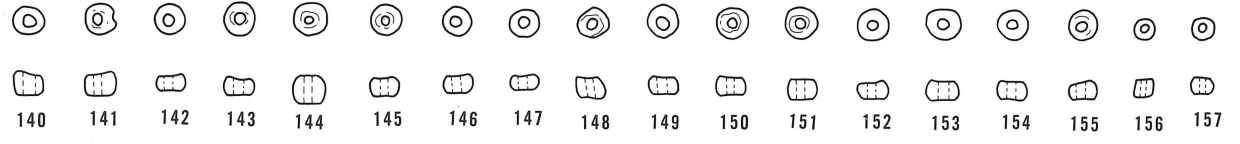
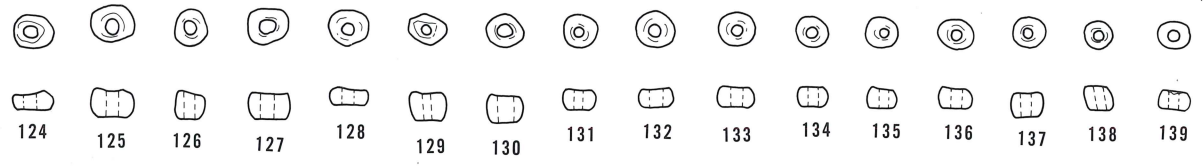


第312图 54号横穴墓出土遺物実測図(3)

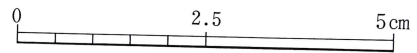
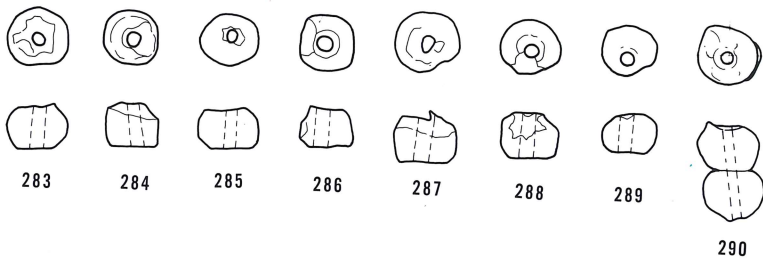
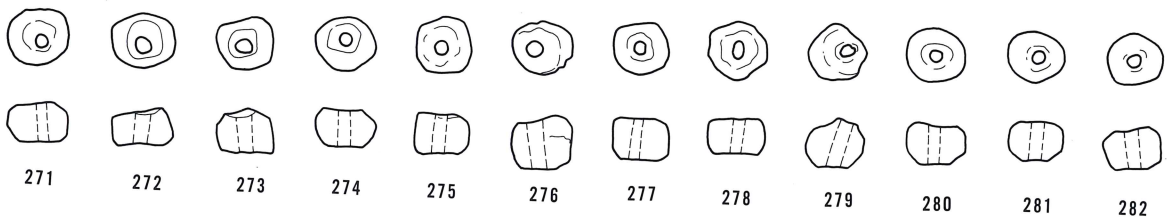
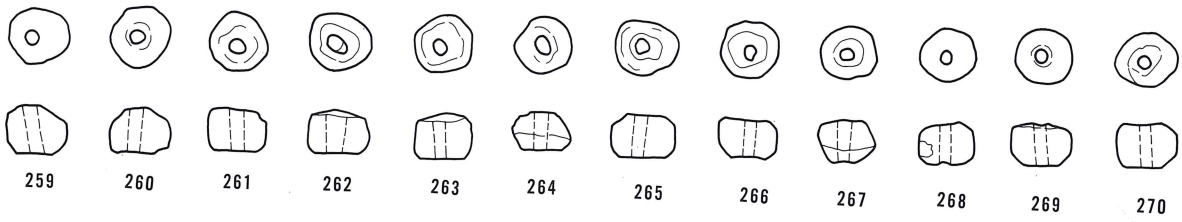
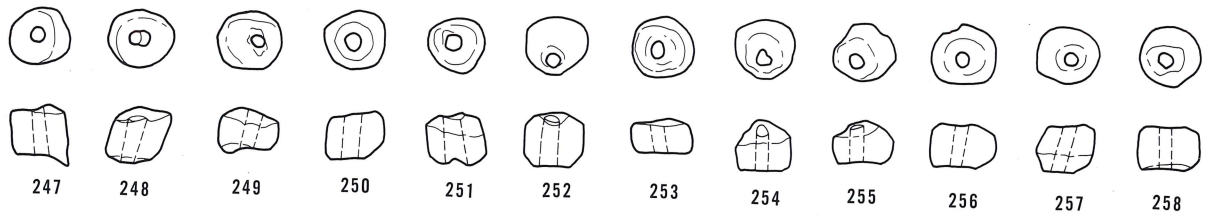


第313图 54号横穴墓出土遗物实测图(4)

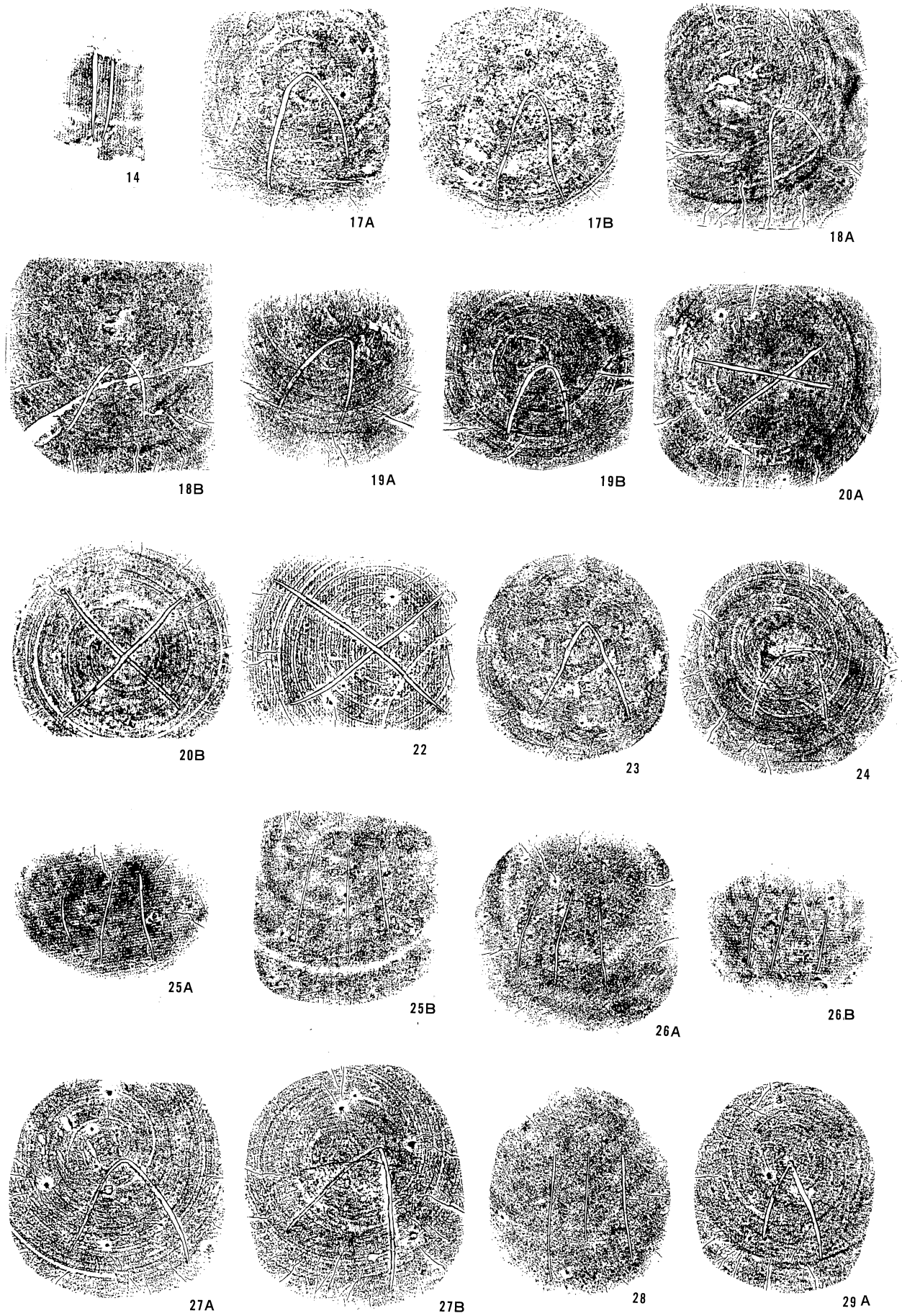




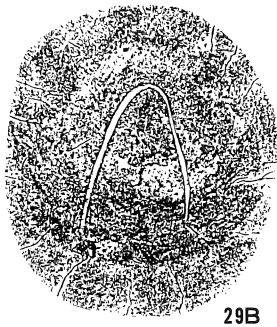
第315图 54号横穴墓出土遗物实测图(6)



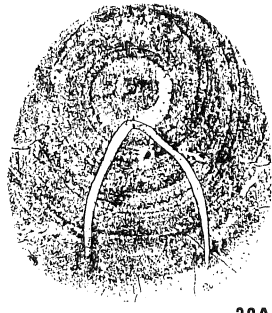
第316图 54号横穴墓出土遺物実測図(7)



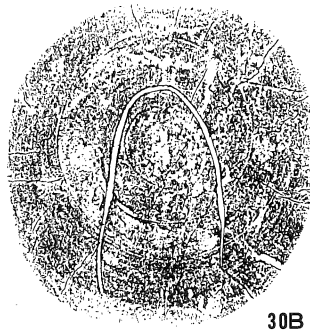
第317図 54号横穴墓出土土器ヘラ記号(1)



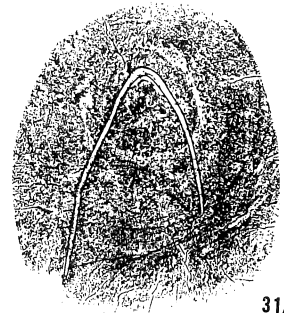
29B



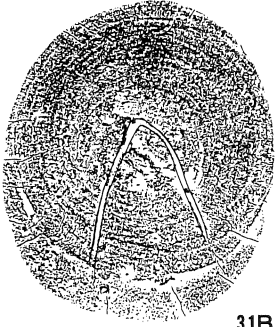
30A



30B



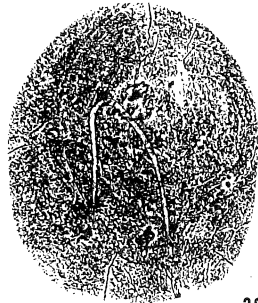
31A



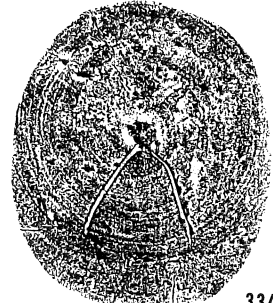
31B



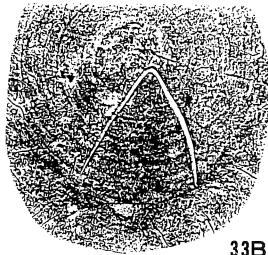
32A



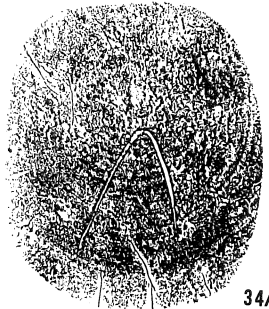
32B



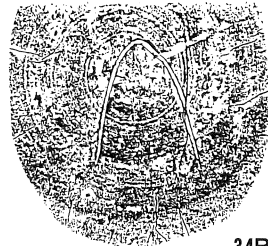
33A



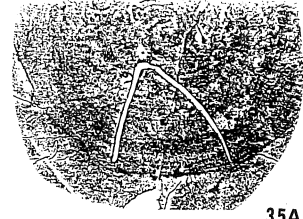
33B



34A



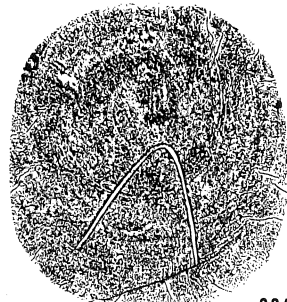
34B



35A



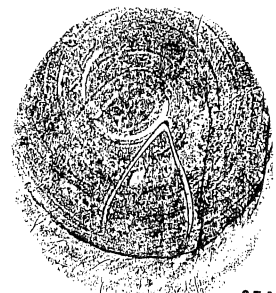
35B



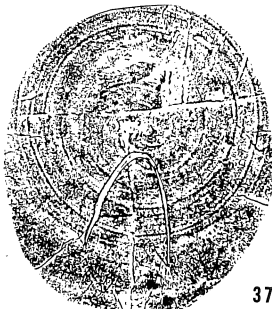
36A



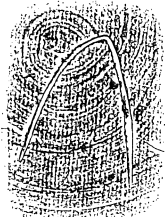
36B



37A



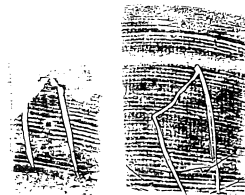
37B



38



39



42

第318図 54号横穴墓出土土器ヘラ記号(2)

第121表 54号横穴墓出土土器観察表

(単位: cm)

番号	器種	法量	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
		・口径 ・器高 ・胴部最大径		内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	平瓶	・8.0 ・16.0 ・19.3	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は楕円形を呈し、底部はやや平ら。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1~2.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
2	坏蓋	・8.0 ・2.0 ・9.6 (受部径)	口縁部は内傾しながらのび、端部はとがりぎみ。受部は下外方にのび、端部は丸い。天井部は低く、外面頂部にツمامがつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黒灰色 灰白色	細砂粒を含む	良好		
3	坏蓋	・8.2 ・2.6+ α ・10.6 (受部径)	口縁部は短く内傾しながらのび、端部は丸い。受部は下外方にのび、端部は丸い。天井部は低く平ら。外面頂部にツمامがつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡黄灰色	細砂粒を含む	良好		
4	坏蓋	・7.8 ・2.4 ・9.8 (受部径)	口縁部はほぼ直下へのび、端部はややとがりぎみ。受部は下外方にのび、端部は丸い。天井部は低く平ら。外面頂部にツمامがつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ 静止ヘラケズリ	黒灰色 灰白色	細砂粒を含む	良好		
5	坏蓋	・4.1 ・3.2 ・9.8 (受部径)	口縁部は短く内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。天井部はやや高く平ら。外面にはツمامがつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色	細砂粒を含む	良好		
6	坏身	・9.6 ・4.0	口縁部は外反しながらのび、端部はとがる。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 静止ヘラケズリ	灰色	白色砂粒、黒色砂粒を含む	良好		
7	坏身	・9.0 ・3.4+ α	口縁部はわずかに外反しながらのび、端部は丸い。底部はやや深く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り未調整	灰色 黒灰色	細砂粒を含む	良好		
8	坏身	・9.6 ・3.6	口縁部はほぼ直立してのび、端部はやや丸い。底部は深くやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 静止ヘラケズリ	暗灰色 黒灰色 黄灰色	細砂粒を多量に含む	良好		
9	坏身	・9.6 ・4.0	口縁部はほぼ直立してのび、端部は丸い。底部は深く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 静止ヘラケズリ	灰色 淡黄灰色	細砂粒を含む	良好		
10	坏身	・9.6 ・3.0 ・11.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ ヘラ切り未調整	黄灰色	1mm以下の白色砂粒を多量に含む	良好 堅緻		
11	高坏	・11.8 ・8.1	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面にはっきりした稜がみられる。坏部はやや深い。胴部は下外方にのび、端部は面をなす。外面のやや上方に突面をなす。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡黄灰色	細砂粒を多量に含む	良好 堅緻		

番号	器種	法量	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
		・口径 ・器高 ・胴部最大径		内面	外面	色調	胎土	焼成		
12	有蓋高坏	・11.0 ・15.9 ・13.4	坏部のたちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部はやや上外方にのび、端部は丸い。脚部は下外方にのび、端部は面をなす。長方形二段スカシがある。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ?	淡黄色	細砂粒・角閃石粒を含む	不良		
13	有蓋高坏	・11.0 ・15.1 ・13.0+α	坏部のたちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。脚部は下外方にのび、端部は面をなす。長方形二段スカシがある。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡黄色	石英、角閃石粒を含む	不良		
14	提瓶	・6.4 ・19.0 ・15.5	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。外面に沈線をなす。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	淡黄白色	細砂粒を含む	不良		外面口頸部「II」
15	脚付壺	・8.9 ・18.3 ・14.0	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。外面のやや上方に2本の沈線あり。胴部は楕円形を呈し、外面上方に2本の沈線あり。脚部は下外方にのび、面をなす。外面端部付近に突帯がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡黄灰色 黒灰色	細砂粒を含む	良好		
16	罍	・12.4 ・13.8	口頸部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反し、その外面に1本の沈線を有す。端部は丸い。胴部は楕円形を呈し、外面にて2本の沈線をなし、中央部に穿孔がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 灰黒色	2mm前後の細砂粒を含む	良好 堅緻		
17 A	坏蓋	・12.8 ・3.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高くやや平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	石英粒を多量に含む	良好 堅緻		外面天井部「U」
17 B	坏身	・11.4 ・4.1 ・13.1	たちあがり内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色 灰色	細砂粒を多量に含む	良好 堅緻		外面底部「U」
18 A	坏蓋	・12.0 ・3.4	口縁部は外反しながらほぼ直下にのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色	細砂粒を含む	良好 堅緻		外面天井部「U」
18 B	坏身	・11.4 ・3.7 ・13.0	たちあがり内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部はとがる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色	細砂粒を含む	良好 堅緻		外面底部「U」
19 A	坏蓋	・12.5 ・3.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	白色砂粒を含む	良好		外面天井部「U」
19 B	坏身	・11.3 ・3.8 ・13.3	たちあがり内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色	細砂粒を含む	良好 堅緻		外面底部「U」
20 A	坏蓋	・12.5 ・3.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 灰白色	細砂粒を含む	良好 堅緻		外面天井部「X」

番号	器種	法量	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
		・口径 ・器高 ・胴部最大径		内面	外面	色調	胎土	焼成		
20 B	坏身	・11.4 ・3.9 ・13.6	たちあがりはほぼ直立してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰白色 黄灰色	3mm以下の 細砂粒を含 む	良好 堅緻		外面底部 「X」
21	坏蓋	・14.5 ・5.1	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	1～3mmの 白色砂粒を含 む	良好		
22	坏蓋	・12.8 ・4.0	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	精緻	良好		外面天井 部「X」
23	坏蓋	・12.6 ・4.1	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	白色砂粒を 多量に含む	良好 堅緻		外面天井 部「V」
24	坏身	・11.6 ・3.8 ・13.2	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部はとがりぎみ。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰青色	石英粒を多 量に含む	良好 堅緻		外面底部 「U」
25 A	坏蓋	・13.6 ・4.0	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	1mm前後の 細砂粒を含 む	良好		内面天井 部「III」
25 B	坏身	・11.6 ・4.1 ・14.0	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	淡灰色	1～2mmの 細砂粒を含 む	良好 堅緻		内面底部 「III」
26 A	坏蓋	・13.4 ・4.2	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	1mm前後の 細砂粒を含 む。	良好		内面天井 部「III」
26 B	坏身	・11.7 ・4.0 ・13.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰青色	細砂粒を含 む	良好 堅緻		内面底部 「III」
27 A	坏蓋	・12.7 ・4.0	口縁部は外反しながらのび、端部は内傾する段をなす。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	白灰色	細砂粒を含 む	良好		外面天井 部「V」
27 B	坏身	・11.2 ・4.4 ・13.7	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰白色 黒灰色	細砂粒を含 む	良好 堅緻		外面底部 「V」
28 A	坏蓋	・13.6 ・4.2	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色	1mm前後の 細砂粒を含 む	良好		内面天井 部「III」
28 B	坏身	・11.8 ・3.3+ α ・14.0	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	角閃石、そ 他の砂粒を 含む	良好		
29 A	坏蓋	・12.3 ・3.9	口縁部は外反しながらのび、端部はとがりぎみ、天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	黒灰色 黄灰色 灰青色	細砂粒を多 量に含む	良好		外面天井 部「V」

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
29 B	坏身	・11.6 ・3.8 ・13.0	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒を含む	良好 堅緻		外面底部 「U」
30 A	坏蓋	・13.3 ・4.0	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰青色	細砂粒を含む	良好		外面天井部 「U」
30 B	坏身	・11.6 ・3.8 ・13.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒を含む	良好 堅緻		外面底部 「U」
31 A	坏蓋	・12.6 ・3.6	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	暗灰青色	石英粒を多量に含む	良好		外面天井部 「U」
31 B	坏身	・11.3 ・4.0 ・13.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡青灰色	石英粒を含む	良好		外面底部 「V」
32 A	坏蓋	・12.8 ・3.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 黒灰色	白色砂粒、 黒色砂粒を 多量に含む	良好		外面天井部 「U」
32 B	坏身	・11.4 ・3.8 ・12.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 淡黒灰色	白色砂粒、 黒色砂粒を 含む	良好 堅緻		外面底部 「U」
33 A	坏蓋	・12.8 ・3.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 淡灰色	1mm前後の 細砂粒を含む	良好		外面天井部 「V」
33 B	坏身	・11.9 ・3.8 ・13.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部はわずかに上外方にのび、端部は丸い。底部はやや浅く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡青灰色	1～2mmの 石灰粒、細 砂粒を含む	良好 堅緻		外面天井部 「V」
34 A	坏蓋	・13.1 ・4.0	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1mm前後の 細砂粒を含む	良好		外面天井部 「V」
34 B	坏身	・11.8 ・4.0 ・13.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部はとがる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒を含む	良好 堅緻		外面底部 「U」
35 A	坏蓋	・13.4 ・3.6	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高くやや平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	細砂粒を含む	不良		外面天井部 「V」
35 B	坏身	・12.2 ・3.4 ・14.0	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、底部はやや浅く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	細砂粒を含む	不良		外面底部 「V」
36 A	坏蓋	・12.4 ・3.8	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰青色	1mm前後の 細砂粒を含む	良好		外面天井部 「V」

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
36 B	坏身	・11.5 ・3.8 ・12.8	たちあがりはわずかに内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部はとがる。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰青色	細砂粒を含む	やや不良		外面底部 「V」
37 A	坏蓋	・12.8 ・3.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	暗灰色 黒灰色	1～2mmの 細砂粒を含む	良好		外面天井 部「V」
37 B	坏身		たちあがりは内傾してのび、端部は細くなる。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや浅く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	紫灰色	細砂粒を含む	良好		外面底部 「V」
38	坏身	・12.2 ・4.2 ・14.5	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	0.5mm前後 の砂粒を含む	良好		外面底部 「U」
39	坏身	・11.4 ・5+ α ・13.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	精緻	良好		外面底部 「I」
40	壺	・12.2 ・2.6+ α	口縁部は外反しながらのび、端部は肥厚し面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色	1～2.5mmの 白色砂粒を 少量含む	良好	口頸部	
41	高坏	・15.3 ・4.7+ α	脚部は下外方にのび、端部は面をなし、その下にうすい突帯をもつ。スカシがある。	回転ナデ	回転カキ目 回転ナデ	青灰色	精緻	良好	脚部	
42	提瓶	・8.0 ・22.0 ・17.0+ α	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	精緻	良好		外面口頸 部に2ヶ 所 「II」「F」
43	壺	・38.7 ・17.0+ α	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなし、その下方に沈線をもつ。外面に2本の沈線をもつ。	回転ナデ	櫛描列点文 波状文 回転カキ目 回転ナデ	淡黄灰色 灰色	細砂粒を多 量に含む	良好 堅緻	口頸部	
44	壺	・19.0 ・32.1 ・30.0	口頸部は外反しながらのび、端部は段をなす。胴部はほぼ円形を呈す。	回転ナデ 同心円タタ キ	回転ナデ 平行タタキ 後回転カキ 目	灰色 黒色	細砂粒を含む	良好		

第122表 54号横穴墓出土土環計測表

(単位: mm, g)

番号	作り	外径	断面径	重量	備考
67	銅地金張	30.5×29	9.5×8	5.6	中空、緑青、剝離している
68	同上	32×29.5	9×9	29.3	緑青遺存良好
69	同上	31×28	9×7.5	6.0	中空、緑青、剝離している
70	同上	31×29	8.5×8.5	26.5	緑青
71	同上	32×28	7×7	18.7	〃
72	同上	27×23.5	7.5×6	16.2	〃 遺存良好
73	同上	26.5×24	7.5×5.5	14.9	〃 〃
74	同上	18.5×17	6×4.5	4.8	〃 〃
75	同上	19×17	4×6.5	6.1	〃 〃

第123表 54号横穴墓出土玉類計測表

(単位: mm, g)

番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
76	勾玉	硬玉	淡緑～濃緑	24	9.5(最大幅)	5～1	6.7	両面穿孔
77	管玉	碧玉	灰緑	24	8	2～1	2.3	片面穿孔
78	〃	〃	濃緑	19	6	1.5～1	1.5	〃
79	〃	〃	〃	17	〃	2～1	1.4	〃
80	〃	〃	灰緑	14	4	1.5～1	0.5	〃
81	〃	〃	〃	17	〃	〃	0.6	〃
82	〃	〃	濃緑		7	2～1	1.6	〃 半欠
83	〃	〃	灰緑	14.5	4	1	0.4	〃
84	〃	〃	〃	8	3.5	2	0.1	〃
85	切子玉	水晶	透明	27	17	4.5～1	9.3	〃
86	丸玉	ガラス	緑	15	12	3.5	5.6	
87	〃	〃	〃	15	12	4	5.3	
88	〃	〃	〃	13.5	10	5	3.4	表面が若干腐蝕
89	〃	〃	緑?	14	11	4	4.1	表面淡褐色に変色
90	〃	〃	緑	13.5	10	4	3.4	表面白く変色
91	〃	〃	〃	13	9.5	4	3.3	表面白く腐蝕
92	〃	〃	〃	13.5	10	4～3.5	3.5	表面白く変色
93	〃	〃	〃		9	4～3.5		半欠 表面白く変色
94	〃	〃	〃	14	8	3.5	3.0	表面白く変色
95	〃	〃	〃	13	9.5	4.5～4	〃	〃
96	〃	〃	〃	12.5	9	4～3.5	3.1	〃
97	〃	〃	〃	13	8	〃	2.8	〃
98	〃	〃	〃	11.5	〃	3.5～3	2.6	表面白く腐蝕
99	〃	〃	〃	12.5	〃	5.5～4.5	2.5	表面白く変色
100	〃	〃	〃	12	〃	4	2.3	〃
101	〃	〃	〃	〃	11	4.5～4	2.2	表面白く腐蝕
102	〃	〃	〃	〃	10	〃	2.5	〃
103	〃	〃	緑	11.5	8.5	3.5～2	2.4	一部白く変色
104	〃	〃	〃	〃	7	4.5～3	1.9	表面白く変色
105	〃	〃	〃	〃	8	3～2.5	2.1	〃
106	〃	ガラス	〃	11	8	3	2.1	〃
107	〃	〃	〃	11	7	3.5～3	1.8	〃
108	〃	〃	〃	〃	6.5	4～3	1.6	表面白く腐蝕
109	〃	〃	〃	〃	5.5	3.5～3	1.5	表面白く変色
110	〃	〃	〃	10	8	3～2.5	1.9	〃
111	〃	〃	〃	〃	7	3.5～3	1.4	〃
112	〃	〃	〃	〃	6.5	3	〃	〃
113	〃	〃	〃	〃	7	3～2.5	1.5	〃
114	〃	〃	〃	〃	6	3.5	1.3	表面白く腐蝕
115	〃	〃	〃	〃	〃	4	1.2	〃
116	〃	〃	藍	7.5	4	2.5	0.25	
117	〃	〃	〃	8	〃	2	0.3	
118	〃	〃	〃	7	5	2.5	0.2	
119	〃	〃	淡藍	7.5	3.5	1.5	〃	
120	小玉	〃	〃	6.5	3	〃	0.15	

番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
121	小玉	ガラス	淡藍	6	3	1.5	0.1	
122	〃	〃	藍	6	4	〃	〃	
123	〃	〃	青緑	5.5	3	〃	〃	
124	〃	〃	藍	〃	2.5	2.5	〃	
125	〃	〃	〃	6	4	〃	0.15	
126	〃	〃	青	4.5	〃	1.5	0.1	
127	〃	〃	藍	5.5	3.5	2	〃	
128	〃	〃	青緑	5	2	1.5	〃	
129	〃	〃	藍	〃	4	〃	〃	
130	〃	〃	青	〃	3.5	2	〃	
131	〃	〃	〃	4.5	2.5	1	〃	
132	〃	〃	藍	5	〃	2	〃	
133	〃	〃	〃	〃	〃	1.5	〃	
134	〃	〃	〃	4	〃	〃	〃	
135	〃	〃	〃	〃	3	〃	〃	
136	〃	〃	〃	4.5	3	2	〃	
137	〃	〃	〃	4	〃	〃	〃	
138	〃	〃	〃	〃	〃	1.5	〃	
139	〃	〃	〃	〃	2.5	〃	〃	
140	〃	〃	〃	〃	3	〃	〃	
141	〃	〃	〃	〃	〃	1	〃	
142	〃	〃	〃	〃	2	1.5		
143	〃	〃	〃	4.5	2.5	〃		
144	〃	〃	〃	〃	3.5	1	0.1	
145	〃	〃	〃	4	2.5	〃		
146	〃	〃	〃	〃	〃	1.5		
147	〃	〃	〃	〃	2	〃		
148	〃	〃	青緑	〃	3	1		
149	〃	〃	藍	4.5	2	1.5		
150	〃	〃	〃	4	2.5	1		
151	〃	〃	〃	4	2.5	1.5		
152	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
153	〃	〃	〃	4.5	〃	〃		
154	〃	〃	〃	4	〃	〃		
155	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
156	〃	〃	〃	3	〃	1		
157	〃	〃	〃	〃	2	〃		
158	〃	〃	〃	〃	2.5	〃		
159	〃	〃	〃	3.5	〃	〃		
160	〃	〃	〃	〃	2	〃		
161	〃	〃	〃	〃	1.5	1.5		
162	〃	〃	〃	〃	2	1		
163	〃	〃	〃	〃	1.5	〃		
164	〃	〃	〃	3	〃	〃		
165	〃	〃	〃	3.5	2	〃		
166	〃	〃	〃	3.5	2	1		

番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
167	小玉	ガラス	藍	4	2	1.5		
168	〃	〃	〃	3	〃	1		
169	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
170	〃	〃	〃	〃	2.5	〃		
171	〃	〃	〃	3.5	2	〃		
172	〃	〃	〃	3	〃	〃		
173	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
174	〃	〃	〃	3.5	〃	〃		
175	〃	〃	〃	3	〃	〃		
176	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
177	〃	〃	〃	〃	1.5	〃		
178	〃	〃	〃	〃	2	〃		
179	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
180	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
181	〃	〃	〃	3	1.5	〃		
182	〃	〃	〃	〃	2	〃		
183	〃	〃	〃	3.5	〃	〃		
184	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
185	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
186	〃	〃	〃	3	1.5	〃		
187	〃	〃	〃	〃	2	〃		
188	〃	〃	〃	3.5	〃	〃		
189	〃	〃	〃	3	〃	〃		
190	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
191	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
192	〃	〃	〃	3.5	〃	〃		
193	〃	〃	〃	3	2.5	〃		
194	〃	〃	〃	〃	2	〃		
195	〃	〃	〃	〃	1.5	〃		
196	〃	〃	〃	3	2	〃		
197	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
198	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
199	〃	〃	〃	2.5	〃	0.5		
200	〃	〃	〃	3	〃	1		
201	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
202	〃	〃	〃	〃	2.5	〃		
203	〃	〃	〃	〃	2	〃		
204	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
205	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
206	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
207	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
208	〃	〃	〃	〃	〃	0.5		
209	〃	〃	〃	〃	〃	1		
210	〃	〃	〃	2.5	1.5	〃		
211	〃	〃	〃	2.5	2.5	1		
212	〃	〃	〃	3	2	〃		

番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
213	小玉	ガラス	藍	3	2	1		
214	〃	〃	〃	〃	〃	0.5		
215	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
216	〃	〃	〃	2.5	1.5	1	〃	
217	〃	〃	〃	〃	2	〃		
218	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
219	〃	〃	〃	〃	〃	0.5		
220	〃	〃	〃	〃	2	1		
221	〃	〃	〃	〃	〃	0.5		
222	〃	〃	〃	〃	2.5	〃		
223	〃	〃	〃	2	2	〃		
224	〃	〃	〃	〃	〃	1		
225	〃	〃	〃	〃	1.5	0.5		
226	〃	〃	〃	2.5	2	1		
227	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
228	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
229	〃	〃	〃	〃	〃	0.5		
230	〃	〃	〃	2	1.5	1		
231	〃	〃	〃	〃	2	1		
232	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
233	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
234	〃	〃	〃	〃	1.5	〃		
235	丸玉	土	黒	8.5	5.5	2	0.4	
236	〃	〃	〃	8	7	〃	〃	
237	〃	〃	〃	〃	6.5	〃	〃	
238	〃	〃	〃	7.5	7.5	1~2	〃	
239	〃	〃	〃	8.5	6	2	0.5	
240	〃	〃	〃	8	〃	〃	0.4	
241	〃	〃	〃	8	6	2.5~2	0.4	
242	〃	〃	〃	〃	〃	2~1.5	〃	
243	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
244	〃	〃	〃	〃	〃	1.5	〃	
245	〃	〃	〃	〃	7.5	2	〃	
246	〃	〃	〃	〃	6	〃	0.35	
247	〃	〃	〃	〃	7	2~1.5	0.4	
248	〃	〃	〃	9	〃	2.5~2	〃	
249	〃	〃	〃	8.5	5.5	2~1.5	〃	
250	〃	〃	〃	8	6.5	2	〃	
251	〃	〃	〃	〃	6	〃	0.35	
252	〃	〃	〃	〃	7	1.5	0.4	
253	〃	〃	〃	8.5	4.5	2	0.3	
254	〃	〃	〃	8	6.5	1.5	0.35	
255	〃	〃	〃	〃	5.5	2	0.3	
256	〃	〃	〃	〃	〃	2~1.5	0.4	
257	〃	〃	〃	〃	6.5	2	〃	
258	〃	〃	〃	〃	5.5	〃	0.35	

番号	種類	材質	色調	長径	短径	孔径	重量	備考
259	丸玉	土	黒	8	6.5	2	0.4	
260	〃	〃	〃	〃	6	2~1.5	0.35	
261	〃	〃	〃	〃	5.5	2	0.3	
262	〃	〃	〃	〃	〃	2.5~2	0.4	
263	〃	〃	〃	〃	6	2	0.35	
264	〃	〃	〃	〃	5	2.5~2	0.25	
265	〃	〃	〃	8.5	〃	2	0.3	
266	〃	〃	〃	8	〃	1.5	〃	
267	〃	〃	〃	〃	5.5	2~1.5	〃	
268	〃	〃	〃	7.5	〃	2~1	0.25	
269	〃	〃	〃	8	〃	1.5	0.3	
270	〃	〃	〃	〃	5	〃	〃	
271	〃	〃	〃	8	〃	1.5	0.3	
272	〃	〃	〃	〃	〃	2	0.25	
273	〃	〃	〃	〃	6	〃	0.3	
274	〃	〃	〃	〃	5	1.5	0.25	
275	〃	〃	〃	7.5	〃	2	0.3	
276	〃	〃	〃	8	7	〃	0.35	
277	〃	〃	〃	〃	5.5	1.5	0.25	
278	〃	〃	〃	〃	4.5	2.5~1.5	0.3	
279	〃	〃	〃	〃	6.5	2	〃	
280	〃	〃	〃	〃	6	1.5	〃	
281	〃	〃	〃	〃	5	〃	0.25	
282	〃	〃	〃	〃	5.5	2	〃	
283	〃	〃	〃	〃	6	〃	0.3	
284	〃	〃	〃	7.5	6	1.5	0.25	
285	〃	〃	〃	8	5.5	2~1	0.3	
286	〃	〃	〃	7.5	5	2	0.3	
287	〃	〃	〃	8.5	7	2.5~2	0.4	
288	〃	〃	〃	8	6	2	0.3	
289	〃	〃	〃	7.5	5	2~1.5	0.25	
290	連玉	〃	〃	13	8	1	0.8	